

# 長野県

## 農業生産振興目標の進捗状況資料

H18年11月

農政部

# 目 次

2010年長野県農業長期ビジョン進捗状況	1
【農業長期ビジョン個別指標】	
1 農家戸数	3
2 農業就業人口	4
3 基幹的農業従事者	5
4 耕地面積	6
5 農業総生産額	7
6 農家一戸当たり耕地面積	8
7 農家一戸当たり生産額	9
8 農業就業者一人当たりの耕地面積	10
9 農業就業者一人当たり生産額	11
10 耕地10a当たり生産額	12
長野県農業生産努力目標進捗状況	13
農作物別生産目標の達成度評価	14
【農作物別】	
1 穀物	15
2 果樹	25
3 野菜	35
4 花き	70
5 特産	92
6 畜産	112

2010年長野県長期ビジョンに対する進捗状況

1 主要指標(農業構造)

区 分	単位	基準年 (平成7年)	目標年 (平成22年)	平成17年		検証時の目標 に対する 増減少数	平成22年 推定値	推定 達成率(%) ( / )
				現状	目標			
総農家戸数	戸	149,078	112,000	126,857	122,840	4,017	118,300	105.6
農業就業人口	人	217,333	137,000	130,823	160,090	29,267	109,977	80.3
基幹的農業従事者数	人	122,944	70,000	88,666	85,940	2,726	85,357	121.9

■ は、目標を上回る減少が見られる区分

2 主要指標(生産額等)

区 分	単位	基準年 (平成7年)	目標年 (平成22年)	平成17年		検証時点で の達成度(%)	平成22年 推定値	推定 達成率(%) ( / )
				現状	目標			
農業総合生産額(H6)	億円	3,973	4,500	2,719	4,341	62.6	2,321	51.6
農家1戸当たり	耕地面積	a	87	90	96	93.2	92	90.2
	生産額	千円	2,665	4,018	2,143	3,473	61.7	2,147
農業就業者1人当たり	耕地面積	a	59	87	74	117.3	99	119.3
	生産額	千円	1,828	3,285	2,048	2,665	76.8	2,309
耕地10a当たり生産額	千円	308	395	239	362	66.0	213	53.9

\* 基準年の数値

総農家戸数、農業就業人口、基幹的農業従事者数:1995農業センサス

耕地面積:平成6年8月1日現在(農林水産省長野統計事務所)

農業総合生産額:平成6年産(長野県農政部)

■ は、目標に対し80%を割り込んでいる区分

3 農用地面積

区 分	基準年 (平成6年)	目標年 (平成22年)	平成17年		検証時の目標面積 に対する減少面積	平成22年 推定値	推定 達成率(%) ( / )	
			現状	目標				
田	ha	ha	ha	ha	%			
	66,400	58,000	57,600	60,800	3,200	55,667	96.0	
畑	普通畑	36,600	32,900	35,200	34,130	1,070	34,133	103.7
	樹園地	21,400	19,100	17,100	19,870	2,770	15,892	83.2
	牧草地	4,580	4,000	3,570	4,180	610	3,251	81.3
	計	62,600	56,000	55,900	58,200	2,300	53,324	95.2
耕地面積計	129,100	114,000	113,600	118,000	4,400	109,179	95.8	
採草放牧地計	4,240	3,600	3,076	3,810	734	2,232	62.0	
合計	133,300	117,600	116,676	122,830	6,154	102,125	86.8	

\* ラウンドのため計は一致しない

■ は、目標を上回る面積減少がみられる区分

4 農業農村整備

区 分	単位	基準年 (平成7年)	目標年 (平成22年)	平成17年		検証時点での 達成度(%)	達成率(%) (H17/H22)	
				現状	目標			
ほ場整備	水田	ha	44,619	49,040	45,554	47,567	104.4	92.9
	畑	ha	18,742	22,160	18,972	21,020	110.8	85.6
	計	ha	63,361	71,200	64,526	68,587	106.3	90.6
畑地かんがい	ha	13,082	16,900	14,362	15,628	108.8	85.0	
農業集落排水	人	67,762	237,006	221,179	180,592	81.6	93.3	

注1:上表は、旧木曾郡山口村の岐阜県への移動により、組み替えを行った後の数値

注2:「農業集落排水」の目標値(H22)は、汚水処理施設整備構想エリアマップ2005の策定により見直しを行った後の数値

5 農業総合生産額

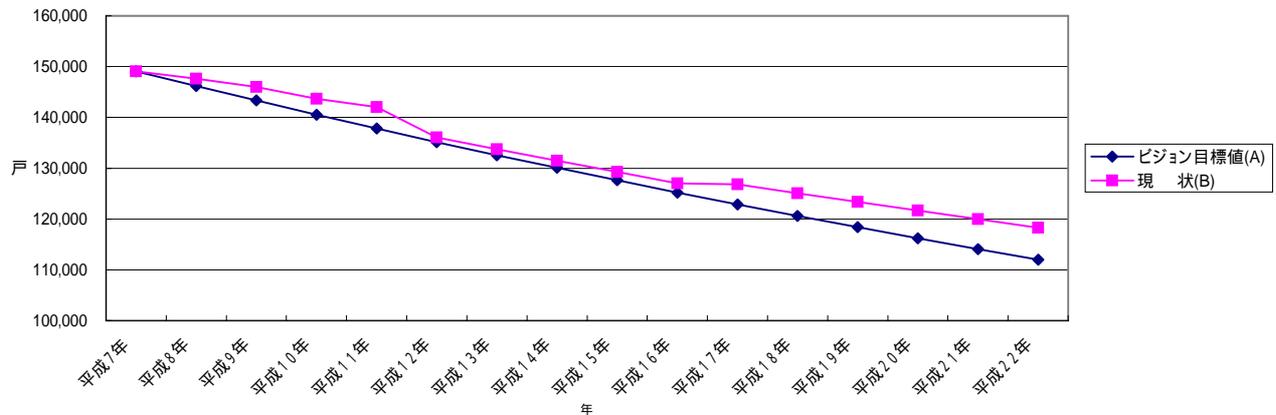
品目	1994年(平成6年)			2005年(平成17年)			2010年(平成22年)			対比(2005年/2010年)			
	作付面積 (ha)	生産量 (t)	生産額 (百万円)	作付面積 (ha)	生産量 (t)	生産額 (百万円)	作付面積 (ha)	生産量 (t)	生産額 (百万円)	作付面積 (%)	生産量 (%)	生産額 (%)	
水稲	48,800	321,600	101,957	36,700	237,400	50,440	40,300	250,000	79,300	91.1	95.0	63.6	
麦・雑穀	4,861	6,669	1,793	8,277	15,442	3,223	7,700	18,700	4,300	107.5	82.6	75.0	
園芸作物	果樹	18,727	306,725	64,205	16,220	283,000	52,001	18,700	376,100	79,600	86.7	75.2	65.3
	野菜	32,746	912,460	94,635	27,900	804,500	64,849	32,600	1,149,300	112,500	85.6	70.0	57.6
	花き	1,258		23,628	1,008		20,002	2,000		40,000	50.4		50.0
	きのこ		97,370	52,503		113,438	35,326		129,500	70,800		87.6	49.9
	その他	2,702	3,773	5,280	471	2,695	1,642	1,500	3,700	4,700	31.4	72.8	34.9
	小計	55,433	1,320,328	240,251	45,599	1,203,633	173,820	54,800	1,658,600	307,600	83.2	72.6	56.5
畜産			53,274			44,408			58,800			75.5	
飼料作物	11,600	527,220		8,820	431,100		12,300	657,300		71.7	65.6		
合計	120,694		397,275	99,396		271,891	115,100		450,000	86.4		60.4	

# 総農家戸数

単位:戸、%

	ビジョン目標値(A)	(A) / 基準年(7年)	現 状(B)	(B) / 基準年(7年)	(B)-(A)	(B)/(A) × 100	増減率
平成7年	149,078	100.0	149,078	100.0	0	100.0	
平成8年	146,177	98.1	147,600	99.0	1,423	101.0	
平成9年	143,333	96.1	146,000	97.9	2,667	101.9	
平成10年	140,544	94.3	143,660	96.4	3,116	102.2	
平成11年	137,809	92.4	142,040	95.3	4,231	103.1	
平成12年	135,128	90.6	136,033	91.2	905	100.7	0.9805
平成13年	132,576	88.9	133,760	89.7	1,184	100.9	
平成14年	130,072	87.3	131,500	88.2	1,428	101.1	
平成15年	127,615	85.6	129,260	86.7	1,645	101.3	
平成16年	125,205	84.0	127,040	85.2	1,835	101.5	
平成17年	122,840	82.4	126,857	85.1	4,017	103.3	0.9811
平成18年	120,591		125,097				
平成19年	118,383		123,362				
平成20年	116,216		121,651				
平成21年	114,089		119,964				
平成22年	112,000		118,300				0.9817
							0.9861

ビジョン目標値行の網掛け数値はビジョン目標値の実数。その間の年次数値については増減率による算定値



## 総農家戸数は全国1位、販売農家数は全国4位

総農家戸数は、126,857戸で、この5年間で6.7%、10年間で14.9%減少している。

なお、総農家数を都道府県別に見ると全国1位となっている。

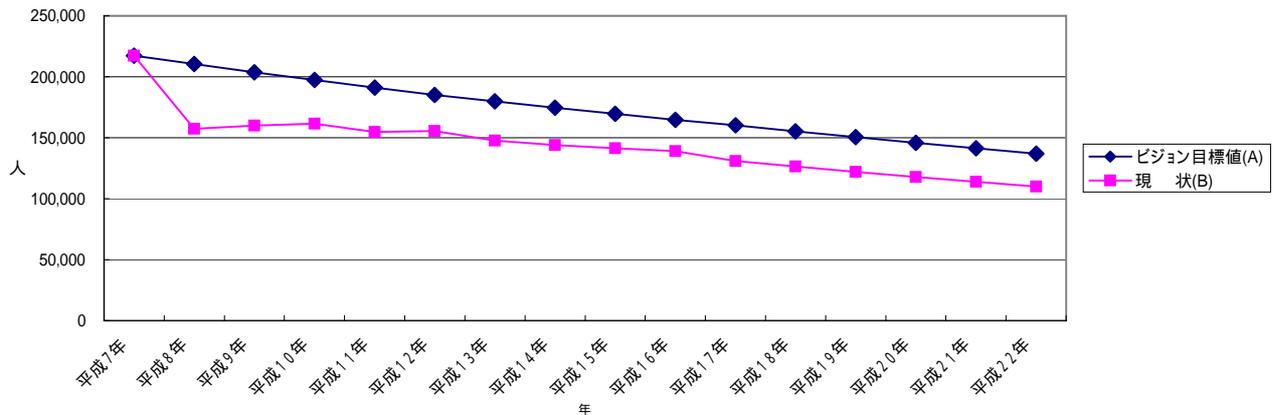
総農家の内訳をみると、販売農家数は74,719戸で、この5年間で17.3%減少し、自給的農家は52,138戸で14.3%増加している。

# 農業就業人口

単位:人、%

	ビジョン目標値(A)	(A) / 基準年(7年)	現 状(B)	(B) / 基準年(7年)	(B)-(A)	(B)/(A) × 100	増減率
平成7年	217,333	100.0	217,333	100.0	0	100.0	
平成8年	210,439	96.8	157,370	72.4	53,069	74.8	
平成9年	203,764	93.8	160,050	73.6	43,714	78.5	
平成10年	197,301	90.8	161,390	74.3	35,911	81.8	
平成11年	191,043	87.9	154,690	71.2	36,353	81.0	
平成12年	184,983	85.1	155,620	71.6	29,363	84.1	0.9683
平成13年	179,713	82.7	147,650	67.9	32,063	82.2	
平成14年	174,592	80.3	143,980	66.2	30,612	82.5	
平成15年	169,618	78.0	141,380	65.1	28,238	83.4	
平成16年	164,785	75.8	138,990	64.0	25,795	84.3	
平成17年	160,090	73.7	130,823	60.2	29,267	81.7	0.9715
平成18年	155,180		126,359				
平成19年	150,420		122,048				
平成20年	145,807		117,884				
平成21年	141,335		113,862				
平成22年	137,000		109,977				0.9693
							0.9659

ビジョン目標値行の網掛け数値はビジョン目標値の実数。その間の年次数値については増減率による算定値



## 農業就業人口は全国4位、女性の農業就業人口が減少

販売農家における農業就業人口は、130,823人で、この5年間で24,797人(15.9%)減少している。

また、男女別の構成を見ると、女性は54.1%と半数以上を占めているが、5年前に比べ17,907人(20.2%)減少したことから、男女の差は縮小している。

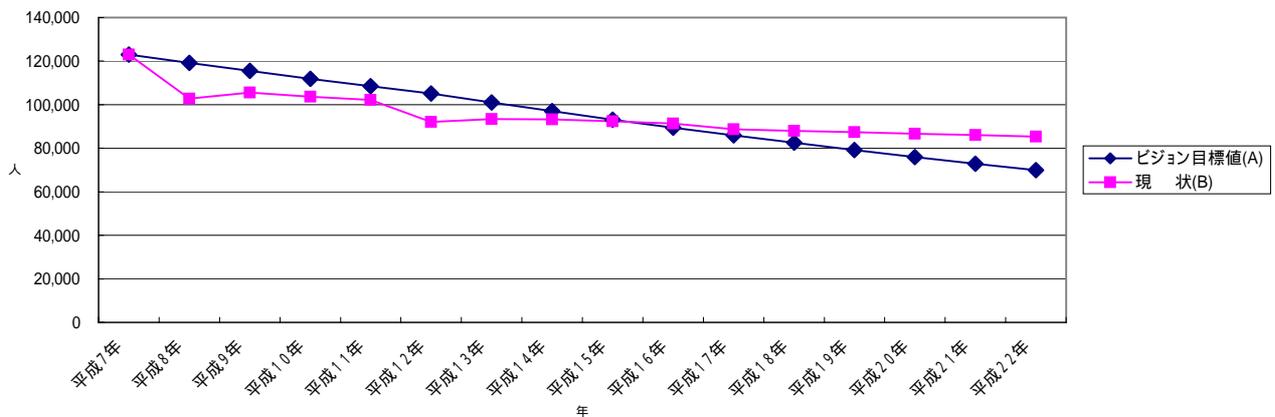
また、年齢別に見ると、65歳以上の就業者は約8万人で全体の6割以上を占め、特に、75歳以上の就業者は、5年間で1割以上増加している。

## 基幹的農業従事者

単位:人、%

	ビジョン目標値(A)	(A) / 基準年(7年)	現 状(B)	(B) / 基準年(7年)	(B)-(A)	(B)/(A) × 100	増減率
平成7年	122,944	100.0	122,944	100.0	0	100.0	
平成8年	119,151	96.9	102,760	83.6	16,391	86.2	
平成9年	115,474	93.9	105,600	85.9	9,874	91.4	
平成10年	111,911	91.0	103,610	84.3	8,301	92.6	
平成11年	108,458	88.2	102,240	83.2	6,218	94.3	
平成12年	105,112	85.5	92,103	74.9	13,009	87.6	0.9691
平成13年	100,963	82.1	93,350	75.9	7,613	92.5	
平成14年	96,977	78.9	93,240	75.8	3,737	96.1	
平成15年	93,149	75.8	92,370	75.1	779	99.2	
平成16年	89,472	72.8	91,400	74.3	-1,928	102.2	
平成17年	85,940	69.9	88,666	72.1	-2,726	103.2	0.9605
平成18年	82,485		87,994				
平成19年	79,169		87,327				
平成20年	75,987		86,666				
平成21年	72,932		86,009				
平成22年	70,000		85,357				0.9598
							0.9924

ビジョン目標値行の網掛け数値はビジョン目標値の実数。その間の年次数値については増減率による算定値



### 基幹的農業従事者数は、3.7%減少し、全国4位

農業就業人口のうち、普段主な状態が「農業が主」の人(基幹的農業従事者)は、この5年間で3.7%減少して、88,666人となった。

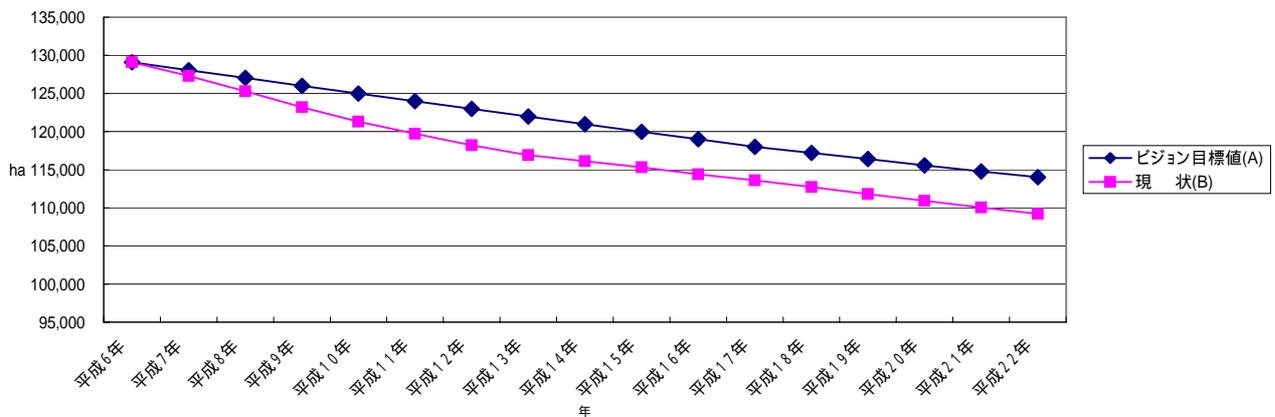
また、65歳以上の高齢者の占める割合は、6.5ポイント増加して、6割以上となり、担い手の高齢化が進展し続けている。

# 耕 地 面 積

単位:ha、%

	ビジョン目標値(A)	(A) / 基準年(6年)	現 状(B)	(B) / 基準年(6年)	(B)-(A)	(B)/(A) × 100	増減率
平成6年	129,100	100.0	129,100	100.0	0	100.0	
平成7年	128,063	99.2	127,300	98.6	763	99.4	
平成8年	127,034	98.4	125,300	97.1	1,734	98.6	
平成9年	126,013	97.6	123,200	95.4	2,813	97.8	
平成10年	125,001	96.8	121,300	94.0	3,701	97.0	
平成11年	123,996	96.0	119,700	92.7	4,296	96.5	
平成12年	123,000	95.3	118,200	91.6	4,800	96.1	0.9920
平成13年	121,983	94.5	116,900	90.5	5,083	95.8	
平成14年	120,975	93.7	116,100	89.9	4,875	96.0	
平成15年	119,975	92.9	115,300	89.3	4,675	96.1	
平成16年	118,983	92.2	114,400	88.6	4,583	96.1	
平成17年	118,000	91.4	113,600	88.0	4,400	96.3	0.9917
平成18年	117,189		112,702				
平成19年	116,383		111,811				
平成20年	115,583		110,926				
平成21年	114,789		110,049				
平成22年	114,000		109,179				0.9931
							0.9921

ビジョン目標値行の網掛け数値はビジョン目標値の実数。その間の年次数値については増減率による算定値



## 耕地面積は、年々減少し、5年間で3.9%減少し、全国14位

耕地面積は、農業者の高齢化、遊休農地の増加などにより、農地のかい廃が止まらず、減少している。

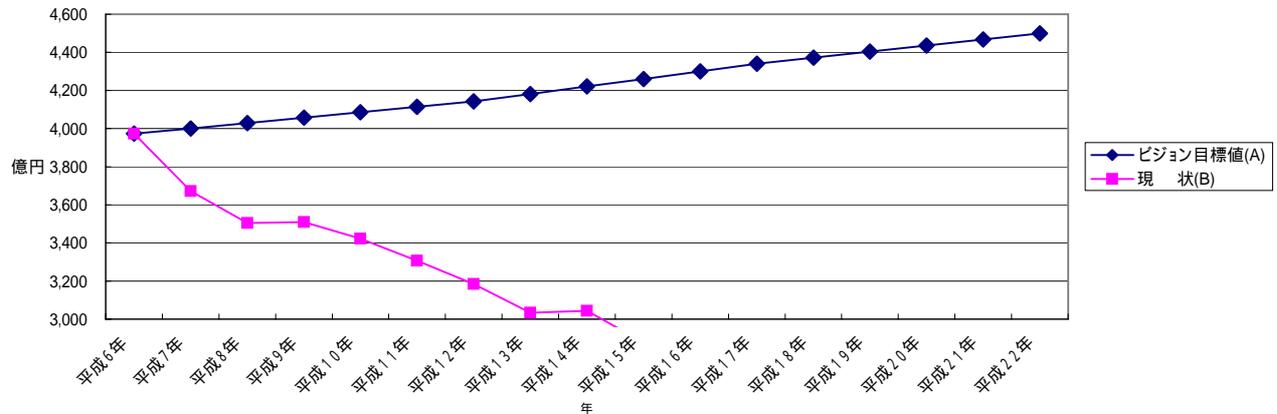
また、耕作放棄地は、5年間で1,490ha増加し全国4位、耕作放棄地率も17.5%で全国9位となっている。

## 農業総合生産額

単位: 億円、%

	ビジョン目標値(A)	(A) / 基準年(6年)	現 状(B)	(B) / 基準年(6年)	(B)-(A)	(B)/(A) × 100	増減率
平成6年	3,973	100.0	3,973	100.0	0	100.0	
平成7年	4,001	100.7	3,671	92.4	330	91.8	
平成8年	4,029	101.4	3,505	88.2	524	87.0	
平成9年	4,057	102.1	3,509	88.3	548	86.5	
平成10年	4,086	102.8	3,423	86.2	663	83.8	
平成11年	4,114	103.6	3,307	83.2	807	80.4	
平成12年	4,143	104.3	3,185	80	958	76.9	1.0070
平成13年	4,182	105.3	3,034	76	1,148	72.6	
平成14年	4,221	106.2	3,044	77	1,177	72.1	
平成15年	4,261	107.2	2,878	72	1,383	67.5	
平成16年	4,301	108.2	2,898	73	1,403	67.4	
平成17年	4,341	109.3	2,719	68	1,622	62.6	1.0094
平成18年	4,372		2,634				
平成19年	4,404		2,552				
平成20年	4,436		2,473				
平成21年	4,468		2,396				
平成22年	4,500		2,321				1.0072
							0.9689

ビジョン目標値の網掛け数値はビジョン目標値の実数。その間の年次数値については増減率による算定値



### 農業総合生産額は、平成3年をピークに減少傾向

本県の農業生産額は、平成3年の4,292億円をピークに減少傾向にあり、平成17年は2,719億円となった。

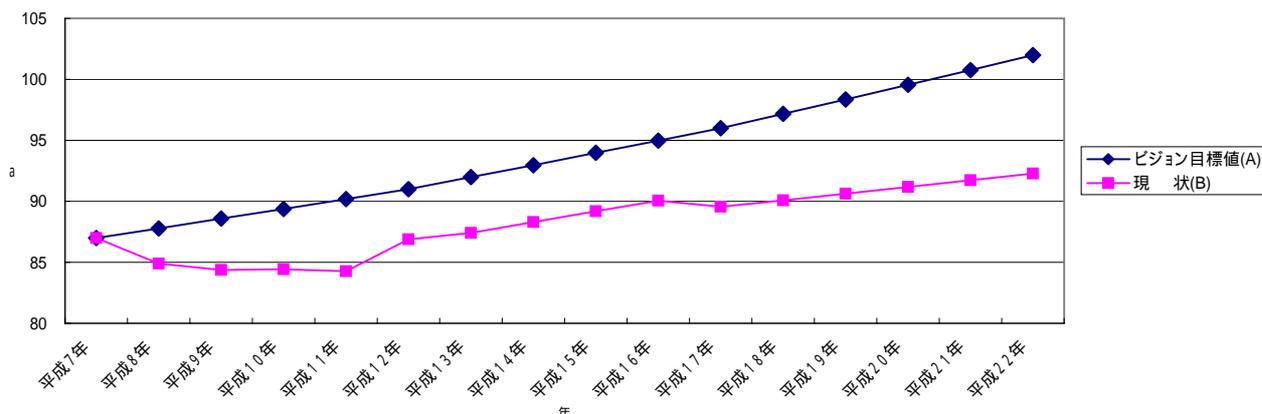
本県の農業生産額の特徴として、園芸作物が1,738億円で63.9%を占め、うち野菜が最も高く約650億円で24%、ついで、果樹の520億円で19%となっており、農水省調べのきのこを含む農業産出額では平成3年の全国5位から平成17年は11位に転落している。

## 農家1戸当たりの耕地面積

単位: a, %

	ビジョン目標値(A)	(A) / 基準年(7年)	現 状(B)	(B) / 基準年(7年)	(B)-(A)	(B)/(A) × 100	増減率
平成7年	87	100.0	87	100.0	0	100.0	
平成8年	88	100.9	85	97.6	3	96.7	
平成9年	89	101.8	84	97.0	4	95.3	
平成10年	89	102.7	84	97.1	5	94.5	
平成11年	90	103.7	84	96.9	6	93.4	
平成12年	91	104.6	87	99.9	4	95.5	1.0090
平成13年	92	105.7	87	100.5	5	95.0	
平成14年	93	106.9	88	101.5	5	95.0	
平成15年	94	108.0	89	102.5	5	94.9	
平成16年	95	109.2	90	103.5	5	94.8	
平成17年	96	110.3	90	102.9	6	93.3	1.0108
平成18年	97		90				
平成19年	98		91				
平成20年	100		91				
平成21年	101		92				
平成22年	102		92				1.0122
							1.0060

ビジョン目標値行の網掛け数値はビジョン目標値の実数。その間の年次数値については増減率による算定値



### 農家1戸当たりの耕地面積は、わずかずつ増加しているが、全国32位

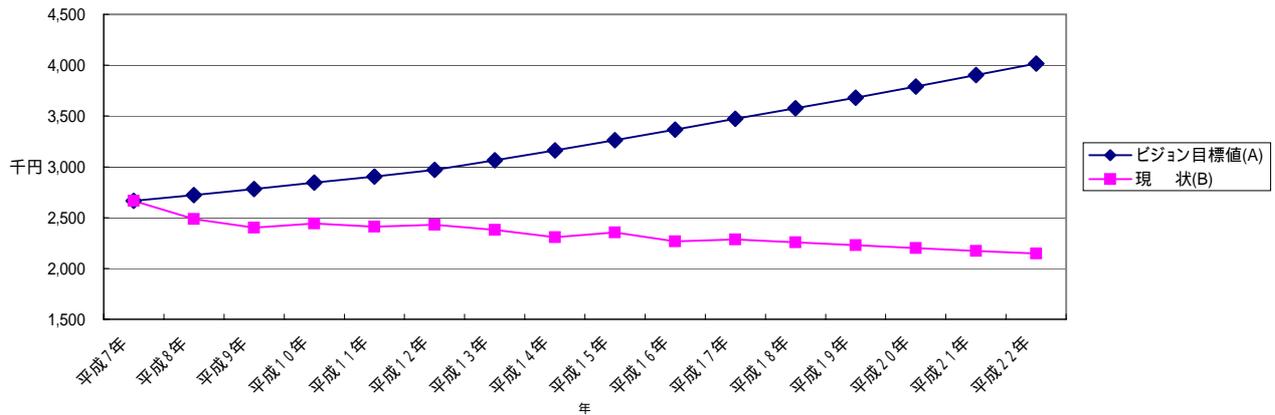
農家1戸あたりの耕地面積は、年々わずかずつ増加しているが、全国平均の160.7aに対し本県は約56%余りの約半分であり、小規模な経営面積となっている。

## 農家 1 戸当たりの生産額

単位:千円、%

	ビジョン目標値(A)	(A) / 基準年(7年)	現 状(B)	(B) / 基準年(7年)	(B)-(A)	(B)/(A) × 100	増減率
平成 7 年	2,665	100.0	2,665	100.0	0	100.0	
平成 8 年	2,723	102.2	2,487	93.3	236	91.3	
平成 9 年	2,783	104.4	2,401	90.1	382	86.3	
平成 10 年	2,843	106.7	2,443	91.7	401	85.9	
平成 11 年	2,906	109.0	2,410	90.4	496	82.9	
平成 12 年	2,969	111.4	2,431	91.2	538	81.9	1.0218
平成 13 年	3,064	115.0	2,381	89.3	682	77.7	
平成 14 年	3,161	118.6	2,307	86.6	854	73.0	
平成 15 年	3,262	122.4	2,355	88.4	907	72.2	
平成 16 年	3,366	126.3	2,265	85.0	1,100	67.3	
平成 17 年	3,473	130.3	2,284	85.7	1,189	65.8	1.0319
平成 18 年	3,576		2,256				
平成 19 年	3,681		2,228				
平成 20 年	3,790		2,201				
平成 21 年	3,902		2,174				
平成 22 年	4,017		2,147				1.0295
							0.9876

ビジョン目標値行の網掛け数値はビジョン目標値の実数。その間の年次数値については増減率による算定値



### 農家一戸あたりの生産額は、年々減少傾向

農業生産額と同様、平成3年をピークに減少傾向。

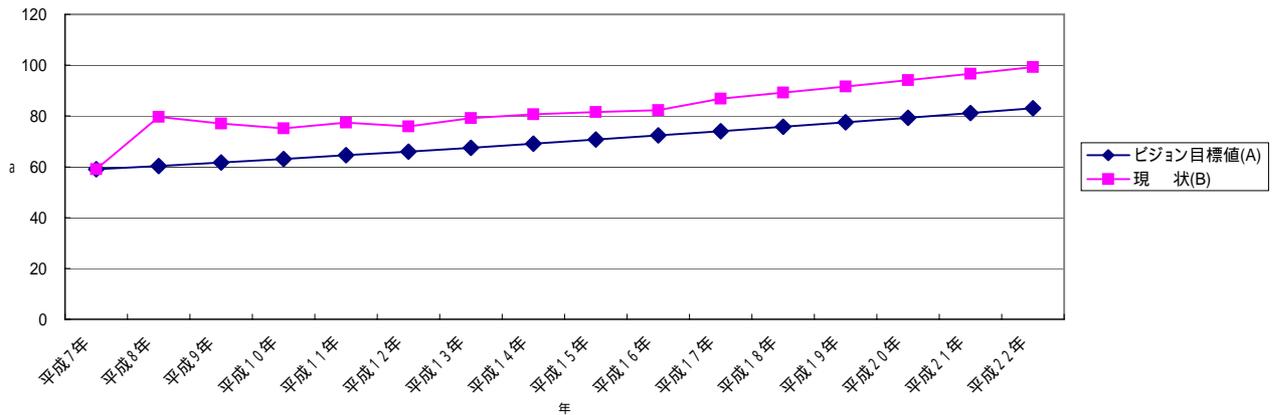
農産物販売金額規模別には、年間3000万円以上の販売金額のある経営体は、967経営体で、5年間で130経営体減少した。

## 農業就業者1人当たりの耕地面積

単位: a, %

	ビジョン目標値(A)	(A) / 基準年(7年)	現 状(B)	(B) / 基準年(7年)	(B)-(A)	(B)/(A) × 100	増減率
平成7年	59	100.0	59	100.0	0	100.0	
平成8年	60	102.3	80	135.0	-19	132.0	
平成9年	62	104.6	77	130.5	-15	124.7	
平成10年	63	107.0	75	127.4	-12	119.1	
平成11年	65	109.4	77	131.2	-13	119.9	
平成12年	66	111.9	76	128.7	-10	115.1	1.0227
平成13年	68	114.5	79	134.2	-12	117.2	
平成14年	69	117.1	81	136.7	-12	116.7	
平成15年	71	119.8	82	138.2	-11	115.4	
平成16年	72	122.6	82	139.5	-10	113.8	
平成17年	74	125.4	87	147.2	-13	117.3	1.0231
平成18年	76		89				
平成19年	77		92				
平成20年	79		94				
平成21年	81		97				
平成22年	83		99				1.0232
							1.0271

ビジョン目標値行の網掛け数値はビジョン目標値の実数。その間の年次数値については増減率による算定値



### 農業就業者一人当たりの耕地面積は、わずかずつ増加している

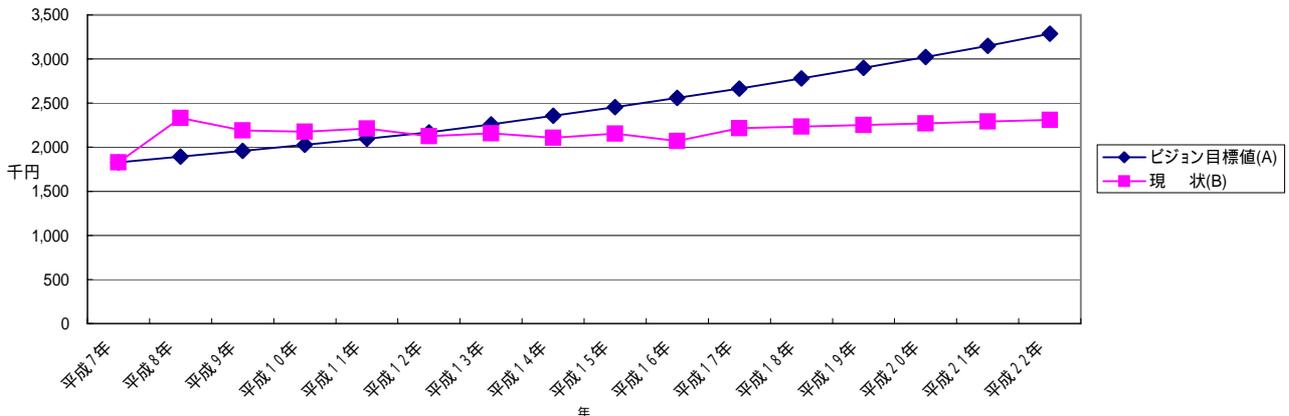
農業就業者一人あたりの耕地面積は、年々わずかずつ増加しているが、依然、小規模な経営面積となっている。

## 農業就業者1人当たりの生産額

単位:千円、%

	ビジョン目標値(A)	(A) / 基準年(7年)	現 状(B)	(B) / 基準年(7年)	(B)-(A)	(B)/(A) × 100	増減率
平成7年	1,828	100.0	1,828	100.0	0	100.0	
平成8年	1,892	103.5	2,333	127.6	-441	123.3	
平成9年	1,957	107.1	2,190	119.8	-232	111.9	
平成10年	2,026	110.8	2,174	118.9	-149	107.3	
平成11年	2,096	114.7	2,213	121.0	-117	105.6	
平成12年	2,169	118.7	2,125	116.2	44	98.0	1.0348
平成13年	2,260	123.6	2,157	118.0	103	95.4	
平成14年	2,355	128.8	2,107	115.3	248	89.5	
平成15年	2,454	134.3	2,153	117.8	301	87.7	
平成16年	2,557	139.9	2,071	113.3	487	81.0	
平成17年	2,665	145.8	2,215	121.2	450	83.1	1.0420
平成18年	2,779		2,234				
平成19年	2,898		2,252				
平成20年	3,021		2,271				
平成21年	3,150		2,290				
平成22年	3,285		2,309				1.0427
							1.0083

ビジョン目標値行の網掛け数値はビジョン目標値の実数。その間の年次数値については増減率による算定値



### 農業就業者一人あたりの生産額は、横ばい傾向

農業生産額と同様、平成3年をピークに減少傾向。

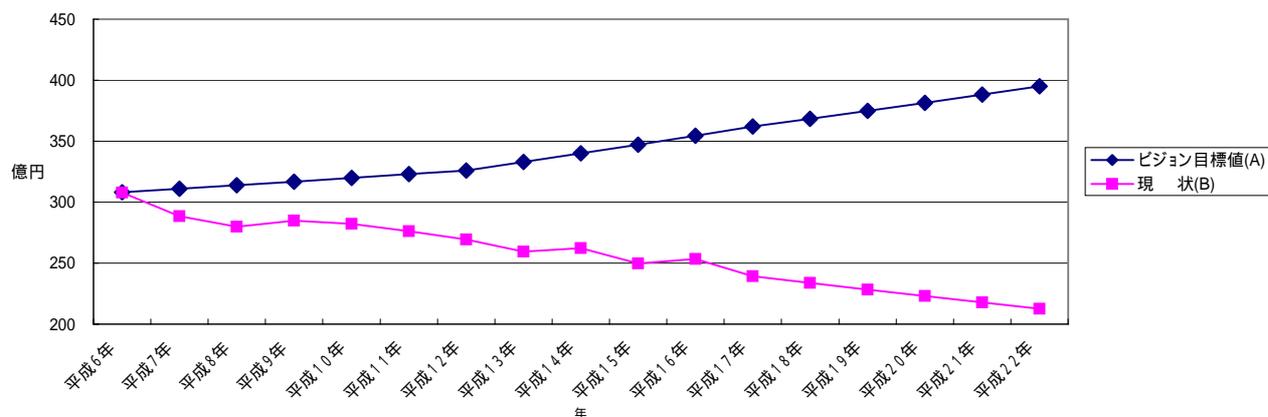
農産物販売金額規模別には、年間3000万円以上の販売金額のある経営体は、967経営体で、5年間で130経営体減少した。

## 耕地10a当たり生産額

単位:千円、%

	ビジョン目標値(A)	(A) / 基準年(6年)	現 状(B)	(B) / 基準年(6年)	(B)-(A)	(B)/(A) × 100	増減率
平成6年	308	100.0	308	100.0	0	99.9	
平成7年	311	101.0	288	93.7	23	92.7	
平成8年	314	101.9	280	90.9	34	89.1	
平成9年	317	102.9	285	92.6	32	89.9	
平成10年	320	103.9	282	91.7	38	88.2	
平成11年	323	104.8	276	89.8	47	85.6	
平成12年	326	105.8	269	87.6	57	82.7	1.0095
平成13年	333	108.1	260	84.3	73	78.0	
平成14年	340	110.4	262	85.2	78	77.1	
平成15年	347	112.7	250	81.1	98	71.9	
平成16年	354	115.1	253	82.3	101	71.5	
平成17年	362	117.5	239	77.8	123	66.1	1.0212
平成18年	368		234				
平成19年	375		228				
平成20年	381		223				
平成21年	388		218				
平成22年	395		213				1.0176
							0.9766

ビジョン目標値の網掛け数値はビジョン目標値の実数。その間の年次数値については増減率による算定値



**耕地10aあたりの生産額は、年々減少傾向し、全国13位**

農業生産額と同様、年々減少し、生産力が低下している。

長野県農業生産努力目標に対する進捗状況

品目	1998年(平成10年、基準年)			2005(平成17年)			2010年目標(平成22年)				対比(2005/2010)		
	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	10年 対比	作付面積 (%)	単収 (%)	生産量 (%)
水 稲	37,500	579	217,100	36,700	647	237,400	36,700	610	223,870	103	100.0	106.1	106.0
麦	1,390	346	4,808	2,146	370	7,940	2,130	420	8,940	186	100.8	88.1	88.8
大豆	2,890	187	5,400	2,730	170	4,640	3,100	284	8,796	163	88.1	<b>59.9</b>	<b>52.8</b>
そば	2,430	58	1,410	2,600	80	2,080	2,600	140	3,640	258	100.0	<b>57.1</b>	<b>57.1</b>
雑穀等	1,046	95	998	801	98	782	1,000	95	948	95	80.1	102.8	82.5
果 樹	17,612	1,514	266,700	16,220	1,745	283,000	17,120	1,920	329,500	124	94.7	90.9	85.9
りんご	9,660	1,705	164,700	8,560	2,098	179,600	8,700	2,360	205,300	125	98.4	88.9	87.5
ぶどう	2,470	1,267	31,300	2,490	1,305	32,500	2,700	1,450	39,200	125	92.2	90.0	82.9
なし	1,312	2,277	29,870	1,150	2,348	27,000	1,370	2,500	34,300	115	83.9	93.9	<b>78.7</b>
もも	1,380	1,754	24,200	1,300	1,831	23,800	1,400	1,900	26,600	110	92.9	96.4	89.5
その他	2,790	596	16,630	2,720	739	20,100	2,950	817	24,100	145	92.2	90.5	83.4
野 菜	32,448	2,837	920,675	27,861	2,887	804,390	32,390	3,344	1,083,000	118	86.0	86.3	<b>74.3</b>
レタス	7,699	2,836	218,324	7,380	2,900	214,000	7,600	3,384	257,200	118	97.1	85.7	83.2
はくさい	3,397	6,886	233,900	2,870	7,631	219,000	3,480	8,000	278,400	119	82.5	95.4	<b>78.7</b>
キャベツ	1,990	4,554	90,624	1,450	4,414	64,000	2,100	5,000	105,000	116	<b>69.0</b>	88.3	<b>61.0</b>
セルリー	429	4,014	17,219	300	5,133	15,400	430	5,000	21,500	125	<b>69.8</b>	102.7	<b>71.6</b>
トマト	570	5,614	32,000	443	5,530	24,500	620	7,065	43,800	137	<b>71.5</b>	<b>78.3</b>	<b>55.9</b>
きゅうり	647	4,594	29,725	535	4,822	25,800	700	6,000	42,000	141	<b>76.4</b>	80.4	<b>61.4</b>
すいか	557	5,741	31,979	460	4,891	22,500	580	5,800	33,640	105	<b>79.3</b>	84.3	<b>66.9</b>
アスパラガス	2,427	338	8,202	1,940	273	5,300	2,600	600	15,600	190	<b>74.6</b>	<b>45.5</b>	<b>34.0</b>
その他	14,732	1,756	258,702	12,483	1,713	213,890	14,280	2,002	285,860	110	87.4	85.6	<b>74.8</b>
花 き	1,212	本・鉢/10a	本・鉢/10a	1,008	本・鉢/10a	本・鉢/10a	1,400	本・鉢/10a	本・鉢/10a		<b>72.0</b>		
キク	253	32,104	81,175	190	33,207	63,003	256	35,000	89,600	110	<b>74.2</b>	94.9	<b>70.3</b>
カーネーション	108	120,970	130,490	95	114,118	108,332	113	132,000	149,160	114	84.1	86.5	<b>72.6</b>
リンドウ	92	26,170	24,042	53	28,756	15,353	93	33,848	31,479	131	<b>57.0</b>	85.0	<b>48.8</b>
トルコギキョウ	66	35,396	23,372	67	31,132	20,959	90	36,255	32,630	140	<b>74.4</b>	85.9	<b>64.2</b>
スターチス	62	37,029	22,858	33	53,747	17,968	64	47,798	30,591	134	<b>51.6</b>	112.4	<b>58.7</b>
ユリ	70	21,179	14,819	49	21,287	10,499	100	23,865	23,865	161	<b>49.0</b>	89.2	<b>44.0</b>
アルストロメリア	28	70,706	20,038	26	98,589	25,367	35	100,810	35,284	176	<b>74.3</b>	97.8	<b>71.9</b>
バラ	20	82,394	16,487	15	102,201	15,463	21	99,624	20,921	127	<b>71.4</b>	102.6	<b>73.9</b>
シクラメン	24	10,286	2,518	26	14,472	3,699	28	10,548	2,953	117	92.9	137.2	125.3
その他	489			453			600				<b>75.5</b>		
きのこ			109,930			113,438			119,500	109			94.9
えのきたけ			63,290			63,600			69,600	110			91.4
ぶなしめじ			45,940			42,500			46,700	102			91.0
その他			700			7,338			3,200	457			229.3
飼料作物	10,304	4,990	514,200	8,820	4,888	431,100	11,700	5,250	614,600	120	<b>75.4</b>	93.1	<b>70.1</b>

区分	飼養頭羽数		生産量		飼養頭羽数		生産量		飼養頭羽数 (%)	生産量 (%)
	(頭・千羽)	(t)	(頭・千羽)	(t)	(頭・千羽)	(t)	10年 対比			
畜産 生乳	33,100	168,049	25,000	135,124	30,410	190,888	114	82.2	<b>70.8</b>	
牛肉	43,200	8,557	31,200	7,668	49,610	10,060	118	<b>62.9</b>	<b>76.2</b>	
豚肉	112,200	15,529	98,900	13,820	112,910	16,372	105	87.6	84.4	
鶏卵	1,144	15,590	1,067	13,409	1,064	15,698	101	100.3	85.4	

農作物別生産目標の達成度評価

達成度 A:80%以上、B:50%以上80%未満、C:50%未満

	ビジョン				努力目標		
	作付面積	単収	生産量	単価	作付面積	単収	生産量
水稻	A	A	A	B	A	A	A
麦	A	A	A	A	A	A	A
大豆	A	B	B	A	A	B	B
そば	A	B	A	A	A	B	B
雑穀等	B	-	A	A	-	-	-
果樹	りんご	A	A	B	A	A	A
	ぶどう	A	A	A	A	A	A
	なし	B	A	B	B	A	A
	もも	A	A	A	B	A	A
	その他果樹	A	A	A	A	A	A
野菜	はくさい	A	A	B	B	A	B
	キャベツ	B	B	B	B	B	A
	ホウレンソウ	B	B	C	A	-	-
	レタス(玉)	A	B	B	B	A	A
	セルリー	B	A	B	A	B	A
	アスパラガス	B	C	C	A	B	C
	その他葉野菜類	A	A	A	A	-	-
	トマト(青、加)	B	B	B	A	B	B
	きゅうり	B	A	B	A	B	A
	スイートコーン	A	B	B	A	-	-
	その他果菜類	B	B	C	A	-	-
	たまねぎ	A	C	B	B	-	-
	だいこん	B	A	B	A	-	-
	にんじん	A	B	C	A	-	-
	ながいも	A	A	A	C	-	-
	ばれいしょ	A	A	B	A	-	-
	その他根菜類	A	A	A	A	-	-
花き	キク	B	A	C	A	B	A
	カーネーション	B	A	C	A	A	A
	リンドウ	C	B	C	A	B	A
	トルコギキョウ	C	B	C	A	B	A
	スターチス	C	A	C	B	B	A
	ユリ	B	A	B	B	C	A
	アルストロメリア	C	A	C	A	B	A
	バラ	C	A	C	A	B	A
	その他切り花	B	A	B	A	-	-
	シクラメン	A	A	A	C	A	A
	その他鉢物	B	A	A	B	-	-
きのこ	えのきたけ	A	A	A	B	-	A
	ぶなしめじ	A	A	B	B	-	A
	ひらたけ	C	A	C	B	-	-
	その他きのこ	A	A	A	B	-	-
特用作物	たばこ	C	A	C	A	-	-
	薬用人参	C	A	C	A	-	-
	わさび	B	A	A	B	-	-
	こんにゃく	A	B	B	B	-	-
	その他特用作物	C	A	C	A	-	-
畜産	養蚕	C	C	-	-	-	-
	生乳	B	-	B	A	A	-
	牛肉	C	-	C	A	B	-
	豚肉	B	-	B	A	A	-
	鶏卵	B	-	B	A	A	-
飼料作物	B	A	B	-	B	A	B

	ビジョン				努力目標		
	作付面積	単収	生産量	単価	作付面積	単収	生産量
A	22	33	15	33	16	22	12
B	20	12	21	16	13	3	17
C	11	3	16	2	1	1	3

- : えのきたけ、ぶなしめじ、ひらたけ、その他きのこの「作付面積」を「生産ピン数」に読み替え
- : 養蚕の「単収」を「生産額」に読み替え
- : 生乳、牛肉、豚肉、鶏卵の「作付面積を飼養頭数」に読み替え

品目名：水稲

土地利用型作物の振興  
 需要に対応した米の計画的生産と水田における麦、大豆、そばを本格的に生産する穀物複合経営を推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		48,800	659	321,600	317
努力目標基準年(H10)		37,500	579	217,100	
最終年(H17)		36,700	647	237,400	212
目標年(H22)	ビジョン	40,300	620	250,000	317
	努力目標	36,700	610	223,870	
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	91.1	104.4	95.0	66.9
	努力目標	100.0	106.1	106.0	

目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

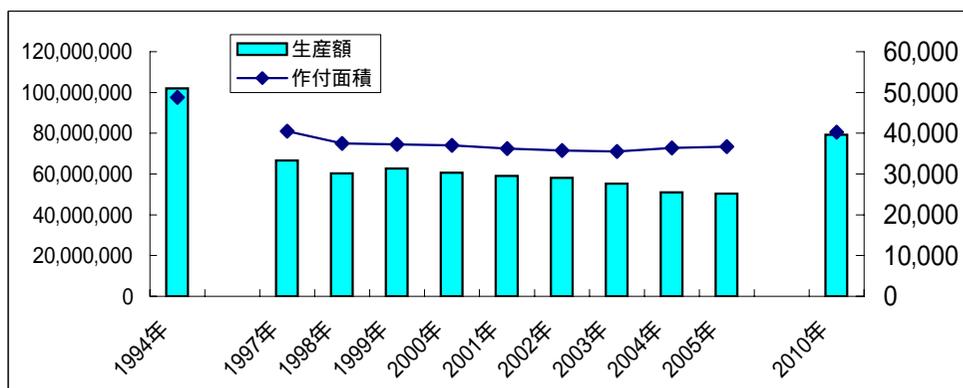
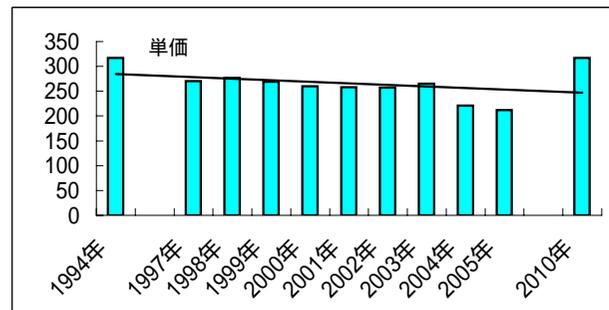
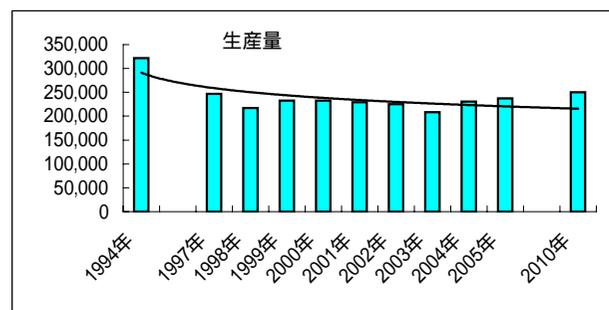
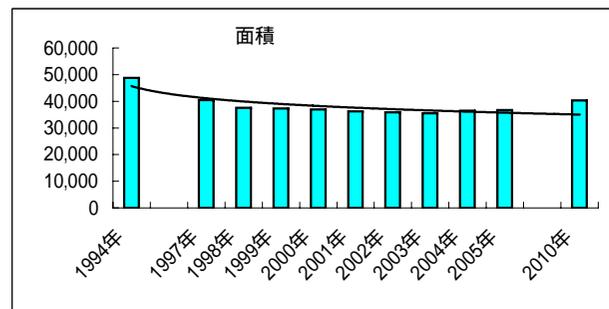
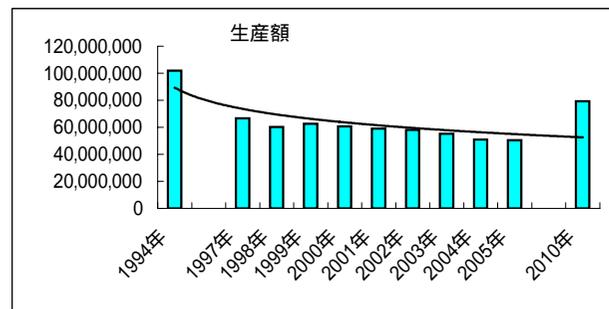
作付面積			【達成度の評価】 高齢化や生産調整等により面積は減少傾向で、近年はほぼ横ばいとなっている。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 需要動向に応じた売れる米づくり、水田農業構造改革の適切な実施を通じて、作付面積の確保を図る。
	努力目標	A	
単 収			【達成度の評価】 品質向上対策の徹底と、生産性の向上を背景に、ビジョン等目標数値を上回っており、7年連続で全国第1位となっている。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 品質向上対策の徹底により、単収の安定を図る。
	努力目標	A	
生産量			【達成度の評価】 面積は減少しているものの、単収の増加により生産量は確保されている。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 需要動向に応じた売れる米づくりを推進し、安定生産を進める。
	努力目標	A	
単価			【達成度の評価】 全国的な米価の低下、消費量の減少等により、価格は目標数値を下回っている。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 価格の低下傾向はWTO農業交渉の動向等にもよるが、この状況は当面継続するものと推測される。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
水稲	6年(基準)	1994年	48,800	101,956,592	321,600	659	317
	9年	1997年	40,500	66,660,000	247,100	610	270
	10年	1998年	37,500	60,242,000	217,100	579	277
	11年	1999年	37,300	62,637,000	232,800	624	269
	12年	2000年	37,000	60,607,000	232,400	628	260
	13年	2001年	36,200	59,109,000	229,100	633	258
	14年	2002年	35,800	58,062,000	225,500	630	257
	15年	2003年	35,500	55,297,000	208,400	587	265
	16年	2004年	36,400	50,925,000	230,800	634	221
	17年	2005年	36,700	50,440,000	237,400	647	212
22年(目標)	2010年	40,300	79,250,000	250,000	620	317	

単価 直近5中3 245

年率	01 05	0.34%	-3.89%	0.89%	0.55%	-4.79%
	94 05	-2.56%	-6.20%	-2.72%	-0.17%	-3.59%
	05 10	1.89%	9.46%	1.04%	-0.85%	8.38%
対比	05/01	101.4%	85.3%	103.6%	102.2%	82.2%
	05/94	75.2%	49.5%	73.8%	98.2%	66.9%
	05/10	91.1%	63.6%	95.0%	104.4%	66.9%



品目名: 麦

土地利用型作物の振興  
 需要に対応した米の計画的生産と水田における麦、大豆、そばを本格的に生産する穀物複合経営を推進する。

区 分	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)	
ビジョン基準年(H6)	469	359	1,684	145	
努力目標基準年(H10)	1,387	347	4,808		
最終年(H17)	2,146	370	7,940	130	
目標年(H22)	ビジョン	2,200	391	8,600	146
	努力目標	2,130	420	8,940	
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	97.5	94.6	92.3	89.0
	努力目標	100.8	88.1	88.8	

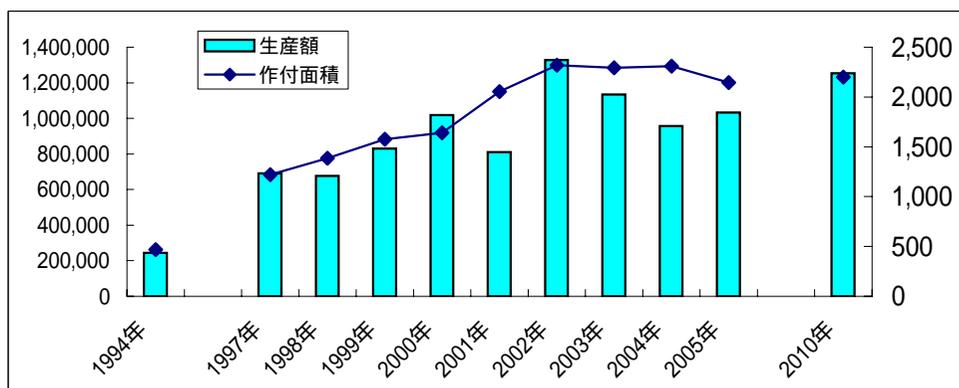
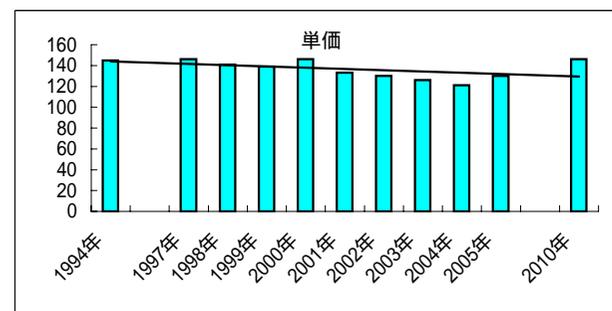
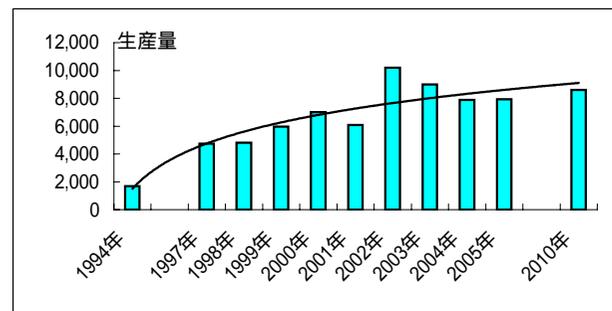
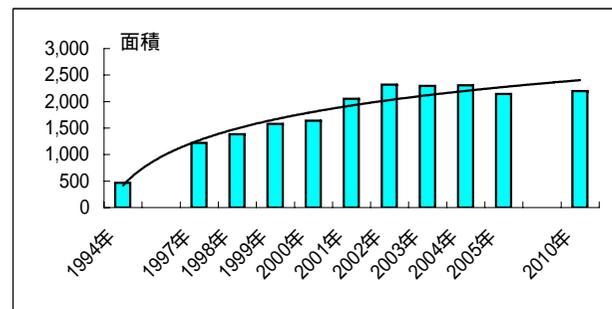
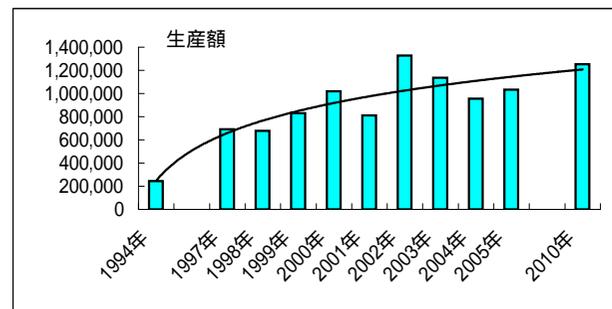
目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積	[達成度の評価] 地域水田ビジョンに基づき、水稻とともに需要動向に応じた計画的な生産を図っており、作付面積は近年急激に拡大したが、現在はほぼ横ばいである。		
	達成度	ビジョン	A
		努力目標	A
[今後の動向] 平成19年からの品目横断的経営安定対策への移行と実需者ニーズに応じた生産を進め、大麦・小麦とともに現状維持を図る。			
単 収	[達成度の評価] 天候の影響等により、目標年を若干下回っている。		
	達成度	ビジョン	A
		努力目標	A
[今後の動向] 品質向上対策の徹底により単収の安定を図る。			
生産量	[達成度の評価] 面積及び単収の増減により変動があるが、目標年を若干下回っている。		
	達成度	ビジョン	A
		努力目標	A
[今後の動向] 実需者ニーズに応じた安定生産を図るため、単収及び品質の向上により生産量を確保する。			
単価	[達成度の評価] 単価は、ほぼ横ばい～やや低くなっており、目標年を若干下回っている。		
	達成度	ビジョン	A
		努力目標	-
[今後の動向] 現在の状況は継続するものと見込まれる。			

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西曆	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
麦	6年(基準)	1994年	469	243,970	1,684	359	145
	9年	1997年	1,220	691,000	4,740	389	146
	10年	1998年	1,387	677,000	4,808	347	141
	11年	1999年	1,576	831,000	5,970	379	139
	12年	2000年	1,641	1,019,000	7,000	427	146
	13年	2001年	2,055	810,000	6,080	296	133
	14年	2002年	2,318	1,327,000	10,200	440	130
	15年	2003年	2,294	1,135,000	8,990	392	126
	16年	2004年	2,310	956,000	7,890	342	121
	17年	2005年	2,146	1,032,000	7,940	370	130
22年(目標)	2010年	2,200	1,253,200	8,600	391	146	
単価 直近5中3							129

年率	01 05	1.09%	6.24%	6.90%	5.74%	-0.57%
	94 05	14.83%	14.01%	15.14%	0.27%	-0.99%
	05 10	0.50%	3.96%	1.61%	1.11%	2.35%
対比	05/01	104.4%	127.4%	130.6%	125.0%	97.7%
	05/94	457.6%	423.0%	471.5%	103.1%	89.7%
	05/10	97.5%	82.3%	92.3%	94.6%	89.0%



品目名: 大豆

土地利用型作物の振興  
 需要に対応した米の計画的生産と水田における麦、大豆、そばを本格的に生産する穀物複合経営を推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		2,170	144	3,125	261
努力目標基準年(H10)		2,890	187	5,400	
最終年(H17)		2,730	170	4,640	249
目標年(H22)	ビジョン	2,600	270	7,020	261
	努力目標	3,100	284	8,796	
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	105.0	63.0	66.1	95.4
	努力目標	88.1	59.9	52.8	

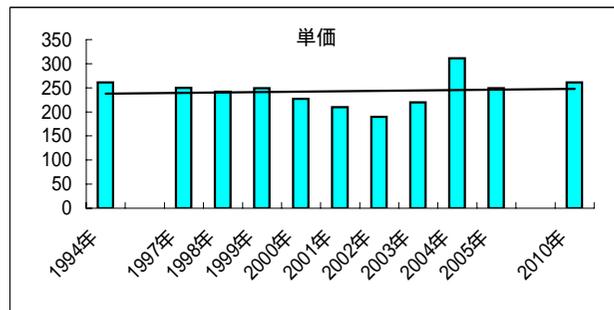
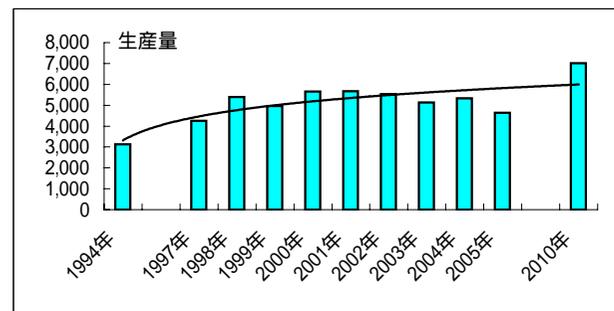
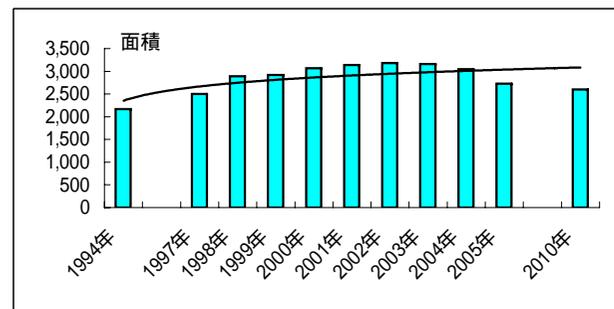
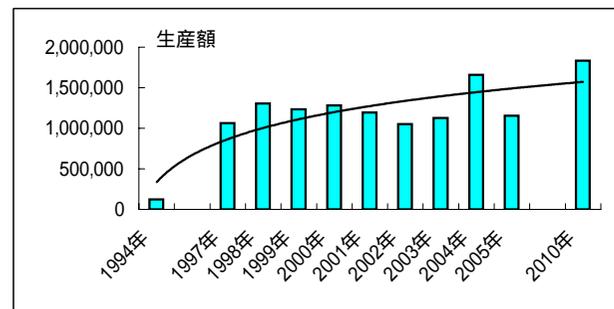
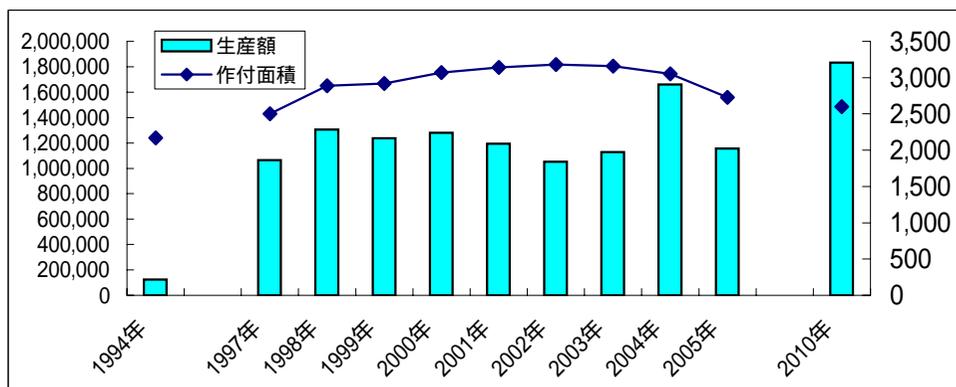
目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積			【達成度の評価】 地域水田農業ビジョンに基づき、需要動向に応じた計画的な生産を行っている。16年までは3000ha程度で推移し、17年は水稻への転換等により減少。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 平成19年からの品目横断的経営安定対策への移行と、実需者ニーズに応じた生産や地産地消を進めながら、現状維持を図る。
	努力目標	A	
単 収			【達成度の評価】 面積・生産量の減少と天候の影響により、目標年を下回っている。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 品質向上対策の徹底等により、単収の安定を図る。
	努力目標	B	
生産量			【達成度の評価】 面積及び単収の増減により変動があるが、目標年を下回っている。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 実需者ニーズに応じた安定生産を図るため、単収及び品質の向上により生産量を確保していく。
	努力目標	B	
単価			【達成度の評価】 単価は目標年を若干下回っている。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 作柄により単価の変動が大きいですが、現状並みを見込む。
	努力目標	-	

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
大豆	6年(基準)	1994年	2,170	123,895	3,125	144	261
	9年	1997年	2,500	1,064,000	4,250	170	250
	10年	1998年	2,890	1,306,000	5,400	187	242
	11年	1999年	2,920	1,236,000	4,960	170	249
	12年	2000年	3,070	1,281,000	5,650	184	227
	13年	2001年	3,140	1,193,000	5,680	181	210
	14年	2002年	3,180	1,051,000	5,530	174	190
	15年	2003年	3,160	1,128,000	5,130	162	220
	16年	2004年	3,050	1,660,000	5,340	175	311
	17年	2005年	2,730	1,155,000	4,640	170	249
22年(目標)	2010年	2,600	1,832,220	7,020	270	261	
単価 直近5中3							226

年率	01 05	-3.44%	-0.81%	-4.93%	-1.56%	4.35%
	94 05	2.11%	22.50%	3.66%	1.52%	-0.43%
	05 10	-0.97%	9.67%	8.63%	9.69%	0.95%
対比	05/01	86.9%	96.8%	81.7%	93.9%	118.6%
	05/94	125.8%	932.2%	148.5%	118.1%	95.4%
	05/10	105.0%	63.0%	66.1%	63.0%	95.4%



## 品目名: そば

土地利用型作物の振興  
 需要に対応した米の計画的生産と水田における麦、大豆、そばを本格的に生産する穀物複合経営を推進する。  
 地域振興作物の振興  
 村おこしなどの地域振興品目として、遊休地の活用等により面積拡大を図る。

区 分	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)	
ビジョン基準年(H6)	1,010	87	875	365	
努力目標基準年(H10)	2,430	58	1,410		
最終年(H17)	2,600	80	2,080	356	
目標年(H22)	ビジョン	1,900	120	2,280	365
	努力目標	2,600	140	3,640	
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	136.8	66.7	91.2	97.5
	努力目標	100.0	57.1	57.1	

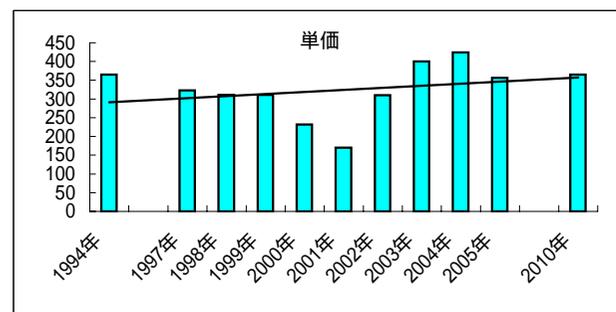
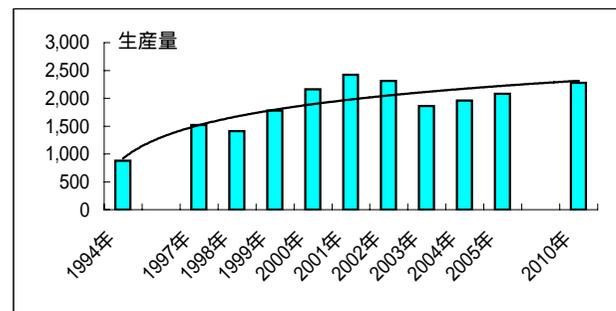
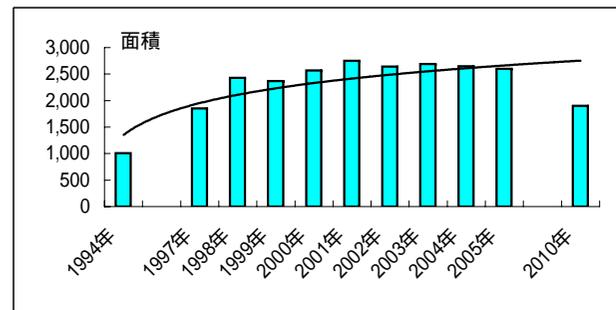
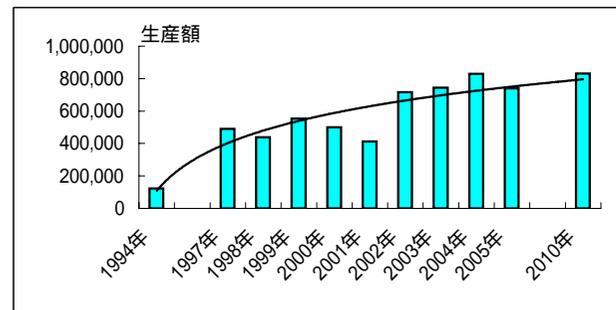
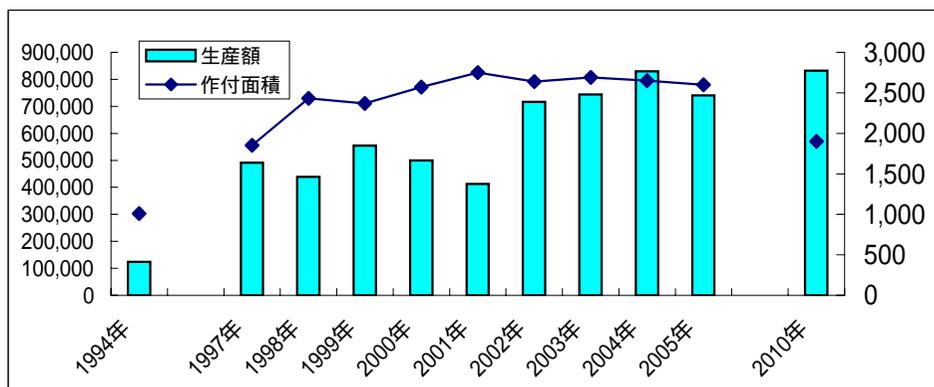
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積	[達成度の評価] 平成10年以降から転作作物として面積が増加し、近年はほぼ横ばいである。		
	達成度	ビジョン	A
		努力目標	A
[今後の動向] 県産そばとしての需要も高いので、面積について漸増を図る。			
単 収	[達成度の評価] 面積は目標年を上回っているものの、天候の影響等により下回っている。		
	達成度	ビジョン	B
		努力目標	B
[今後の動向] 生産安定と品質向上により単収を確保する。			
生産量	[達成度の評価] 面積及び単収の増減により変動があるが、目標年を下回っている。		
	達成度	ビジョン	A
		努力目標	B
[今後の動向] 実需者ニーズに応じた安定生産を図るため、単収及び品質の向上により生産量を確保する。			
単 価	[達成度の評価] 単価は目標年を若干下回っている。		
	達成度	ビジョン	A
		努力目標	-
[今後の動向] 作柄により単価の変動が大きいが、現状並みを見込む。			

達成度は、A:80%以上、B:50%以上~80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
そば	6年(基準)	1994年	1,010	123,895	879	87	365
	9年	1997年	1,850	491,000	1,520	82	323
	10年	1998年	2,430	439,000	1,410	58	311
	11年	1999年	2,370	554,000	1,780	75	311
	12年	2000年	2,570	500,000	2,160	84	232
	13年	2001年	2,750	412,000	2,420	88	170
	14年	2002年	2,640	716,000	2,310	88	310
	15年	2003年	2,690	744,000	1,860	69	400
	16年	2004年	2,650	830,000	1,960	74	424
	17年	2005年	2,600	740,000	2,080	80	356
22年(目標)	2010年	1,900	832,200	2,280	120	365	
単価 直近5中3							355

年率	01 05	-1.39%	15.77%	-3.71%	-2.35%	20.30%
	94 05	8.98%	17.64%	8.15%	-0.76%	-0.23%
	05 10	-6.08%	2.38%	1.85%	8.45%	0.50%
対比	05/01	94.5%	179.6%	86.0%	90.9%	209.4%
	05/94	257.4%	597.3%	236.6%	92.0%	97.5%
	05/10	136.8%	88.9%	91.2%	66.7%	97.5%



品目名：雑穀

土地利用型作物の振興  
 需要に対応した米の計画的生産と水田における麦、大豆、そばを本格的に生産する穀物複合経営を推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		1,171	(421)	984	149
努力目標基準年(H10)					
最終年(H17)		801	-	782	379
目標年(H22)	ビジョン	1,004	(421)	844	149
	努力目標				
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	79.8		92.7	254.4
	努力目標				

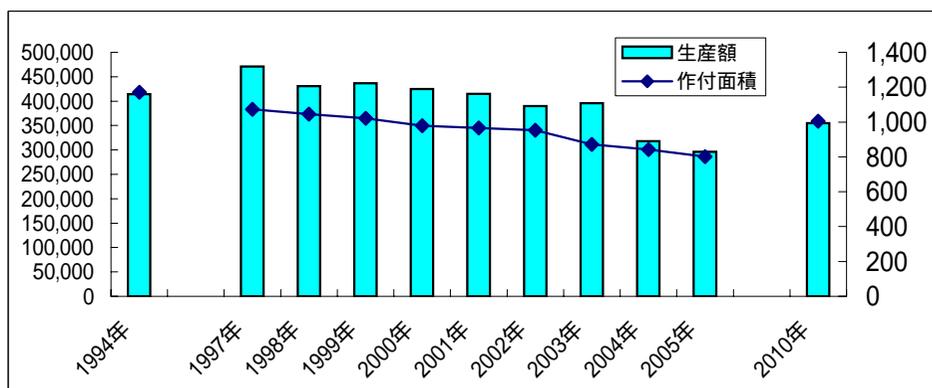
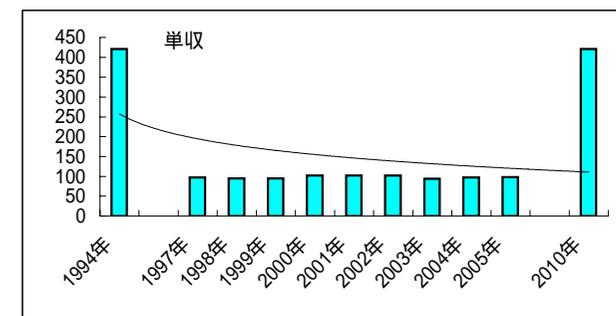
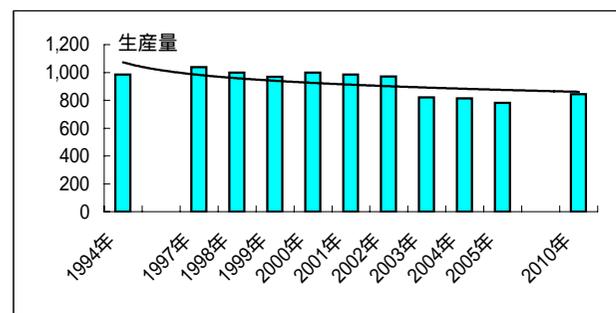
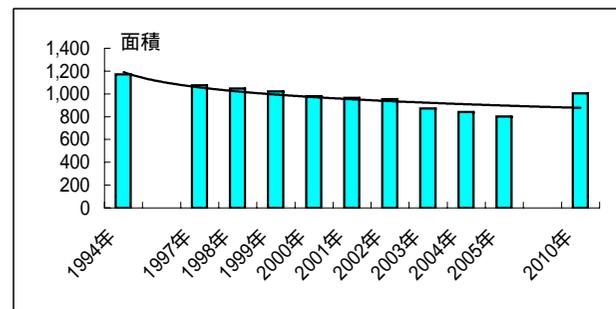
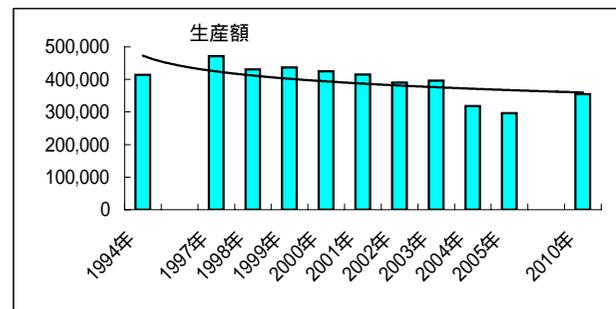
目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積			【達成度の評価】 近年は雑穀ブームにより徐々に需要は増加しつつあるが、栽培技術の未確立、需要の不安定等から面積は減少傾向にある。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 現状を維持しつつ、個々の栽培から産地化を進める必要がある。
	努力目標	-	
単 収			【達成度の評価】 ほぼ横ばいである。
達成度	ビジョン	-	【今後の動向】 生産性の向上と作業の機械化・省力化を図り、単収を確保する。
	努力目標	-	
生産量			【達成度の評価】 面積の減少等から目標年数値を若干下回っている。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 ほ場の集約や作業の機械化により、生産量を確保する。
	努力目標	-	
単価			【達成度の評価】 目標年を上回っているものの、品目や生産量により価格の増減が大きい。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 生産量の確保と品質安定による単価の安定を図る。
	努力目標	-	

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
雑穀等	6年(基準)	1994年	1,171	414,144	984	421	149
	9年	1997年	1,074	471,000	1,037	97	454
	10年	1998年	1,046	431,000	998	95	432
	11年	1999年	1,022	437,000	969	95	451
	12年	2000年	979	425,000	998	102	426
	13年	2001年	966	415,000	984	102	422
	14年	2002年	953	390,000	972	102	401
	15年	2003年	872	396,000	821	94	482
	16年	2004年	842	318,000	814	97	391
	17年	2005年	801	296,000	782	98	379
22年(目標)	2010年	1,004	355,180	844	421	149	

年率	01 05	-4.57%	-8.10%	-5.58%	-1.00%	-2.65%
	94 05	-3.39%	-3.01%	-2.07%	-12.41%	8.86%
	05 10	4.62%	3.71%	1.54%	33.85%	-17.03%
対比	05/01	82.9%	71.3%	79.5%	96.1%	89.8%
	05/94	68.4%	71.5%	79.5%	23.3%	254.4%
	05/10	79.8%	83.3%	92.7%	23.3%	254.4%



## 品目名：りんご

## 振興方針

りんご、ぶどう、もも、なしを中心に新品種の導入や省力化、環境にやさしい生産・流通体制の確立を図り、活力と個性ある果樹産地づくりを推進する。

区 分		栽培面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		10,400	1,940	201,740	155
努力目標基準年(H10)		9,660	1,706	164,800	
最終年(H17)		8,560	2,098	179,600	150
目標年(H22)	ビジョン	9,700	2,580	250,260	178
	努力目標	8,700	2,360	205,300	
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	88.2	81.3	71.8	84.3
	努力目標	98.4	88.9	87.5	

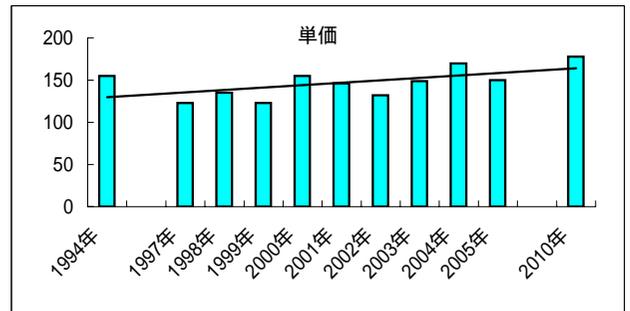
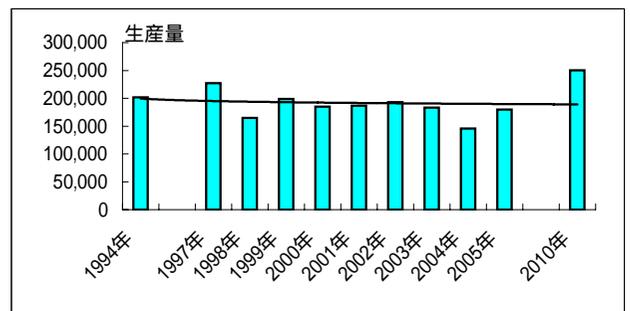
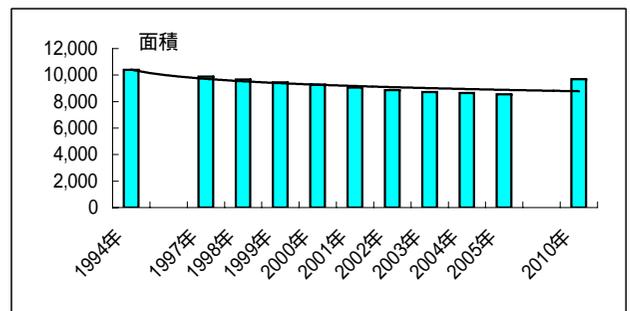
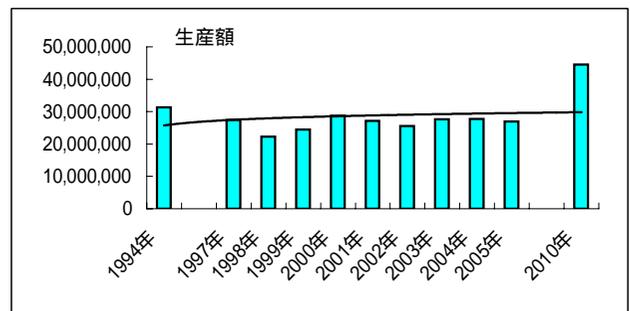
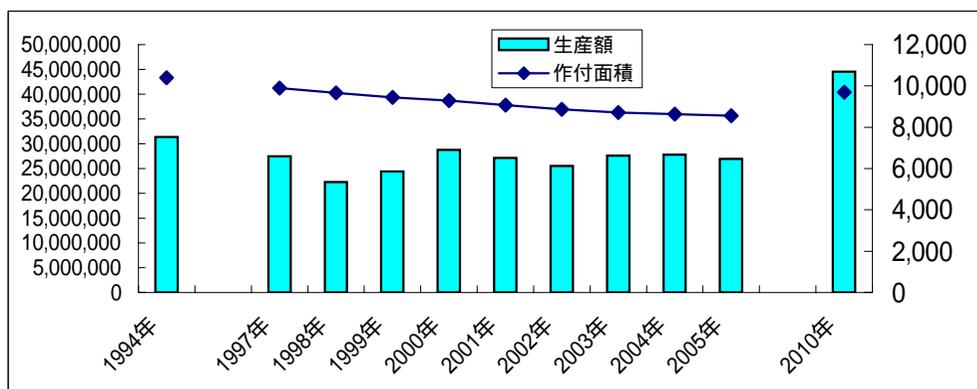
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

栽培面積			【達成度の評価】 生産者の高齢化の進行、宅地への転用等が進み、目標には届かなかった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 県オリジナル品種等優良品種への転換を進め面積維持を図る。
	努力目標	A	
単 収			【達成度の評価】 低位生産園の増加等から目標には到達しなかった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 優良品種の導入、わい化栽培の推進、低位生産園の解消により向上を図る。
	努力目標	A	
生産量			【達成度の評価】 栽培面積の減、低位生産園の増加等から目標には届かなかった。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 優良品種の導入、わい化栽培の推進等により生産量確保を図る。
	努力目標	A	
単価			【達成度の評価】 長引く景気低迷、産地競合等により伸び悩んだ。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 消費者ニーズにあった優良品種の導入により価格維持を図る。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
りんご	6年(基準)	1994年	10,400	31,337,800	201,740	1,940	155
	9年	1997年	9,890	27,459,000	226,900	2,294	123
	10年	1998年	9,660	22,296,000	164,800	1,706	135
	11年	1999年	9,450	24,430,000	198,600	2,102	123
	12年	2000年	9,290	28,737,000	185,200	1,994	155
	13年	2001年	9,070	27,168,000	186,500	2,056	146
	14年	2002年	8,860	25,513,000	193,200	2,181	132
	15年	2003年	8,710	27,607,800	183,200	2,103	149
	16年	2004年	8,640	27,774,508	145,800	1,688	170
	17年	2005年	8,560	26,980,000	179,600	2,098	150
22年(目標)	2010年	9,700	44,546,280	250,260	2,580	178	
単価 直近5中3							148

年率	01 05	-1.44%	-0.17%	-0.94%	0.51%	0.68%
	94 05	-1.75%	-1.35%	-1.05%	0.71%	-0.30%
	05 10	2.53%	10.55%	6.86%	4.22%	3.48%
対比	05/01	94.4%	99.3%	96.3%	102.0%	102.7%
	05/94	82.3%	86.1%	89.0%	108.1%	96.8%
	05/10	88.2%	60.6%	71.8%	81.3%	84.3%



品目名：なし

振興方針

りんご、ぶどう、もも、なしを中心に新品種の導入や省力化、環境にやさしい生産・流通体制の確立を図り、活力と個性ある果樹産地づくりを推進する。

区 分		栽培面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		1,413	2,258	31,910	203
努力目標基準年(H10)		1,312	2,270	29,870	
最終年(H17)		1,150	2,348	27,000	140
目標年(H22)	ビジョン	1,500	2,650	39,750	189
	努力目標	1,370	2,500	34,300	
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	76.7	88.6	67.9	74.1
	努力目標	83.9	93.9	78.7	

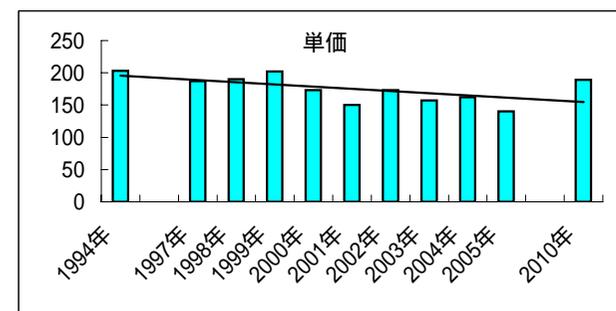
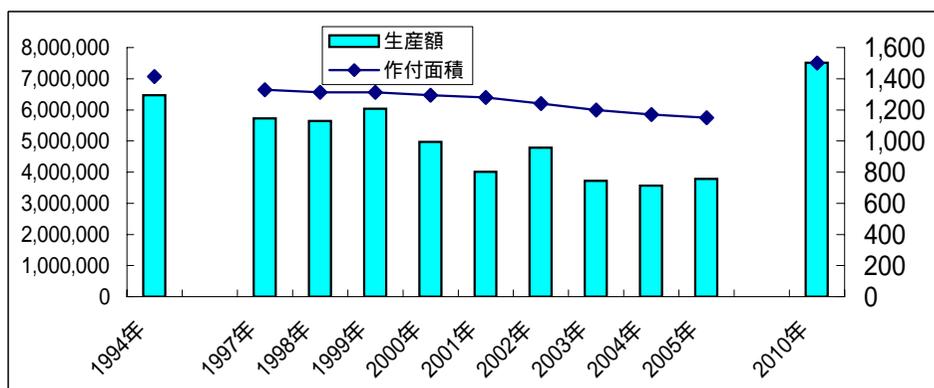
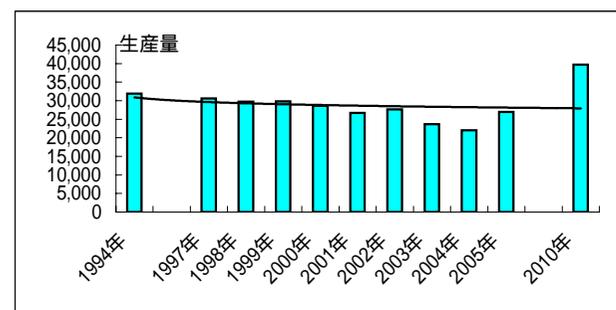
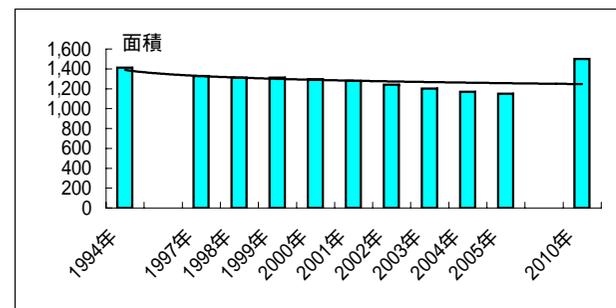
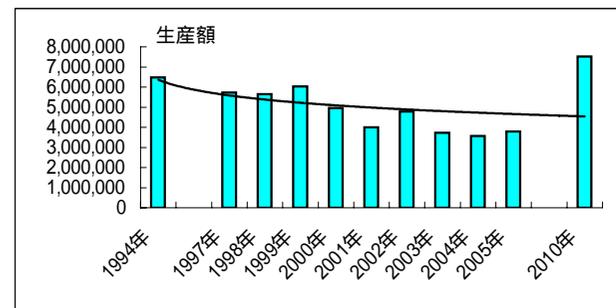
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

栽培面積			【達成度の評価】 生産者の高齢化の進行、宅地への転用等が進み、目標には届かなかった。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 優良品種への転換を進め面積維持を図る。
	努力目標	A	
単 収			【達成度の評価】 低位生産園の増加等から目標には到達しなかった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 「南水」等高単収の優良品種の導入を進めるとともに低位生産園の解消により向上を図る。
	努力目標	A	
生産量			【達成度の評価】 栽培面積及び単収の伸び悩みから目標には届かなかった。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 優良品種への転換等を進め生産量確保を図る。
	努力目標	B	
単価			【達成度の評価】 長引く景気低迷、産地競合等により伸び悩んだ。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 消費者ニーズにあった優良品種の導入により価格維持を図る。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
なし	6年(基準)	1994年	1,413	6,474,600	31,910	2,258	203
	9年	1997年	1,329	5,728,000	30,580	2,301	187
	10年	1998年	1,312	5,648,000	29,780	2,270	190
	11年	1999年	1,313	6,039,000	29,830	2,272	202
	12年	2000年	1,295	4,967,000	28,640	2,212	173
	13年	2001年	1,280	4,007,000	26,700	2,086	150
	14年	2002年	1,240	4,786,000	27,700	2,234	173
	15年	2003年	1,200	3,724,000	23,700	1,975	157
	16年	2004年	1,170	3,565,000	22,000	1,880	162
	17年	2005年	1,150	3,788,000	27,000	2,348	140
	22年(目標)	2010年	1,500	7,512,750	39,750	2,650	189
単価 直近5中3							156

年率	01 05	-2.64%	-1.40%	0.28%	3.00%	-1.71%
	94 05	-1.85%	-4.76%	-1.51%	0.36%	-3.32%
	05 10	5.46%	14.68%	8.04%	2.45%	6.19%
対比	05/01	89.8%	94.5%	101.1%	112.6%	93.3%
	05/94	81.4%	58.5%	84.6%	104.0%	69.0%
	05/10	76.7%	50.4%	67.9%	88.6%	74.1%



品目名：もも

振興方針

りんご、ぶどう、もも、なしを中心に新品種の導入や省力化、環境にやさしい生産・流通体制の確立を図り、活力と個性ある果樹産地づくりを推進する。

区 分		栽培面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		1,410	1,638	23,100	280
努力目標基準年(H10)		1,380	1,754	24,200	
最終年(H17)		1,300	1,831	23,800	184
目標年(H22)	ビジョン	1,520	1,900	28,880	248
	努力目標	1,400	1,900	26,600	
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	85.5	96.4	82.4	74.2
	努力目標	92.9	96.4	89.5	

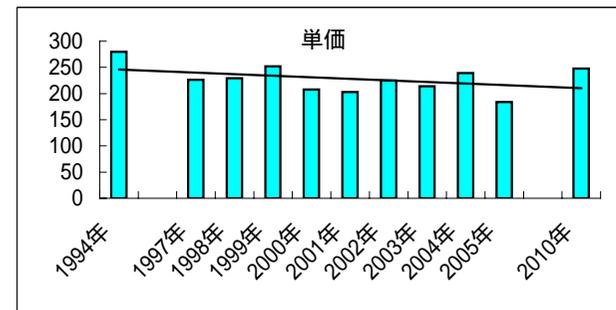
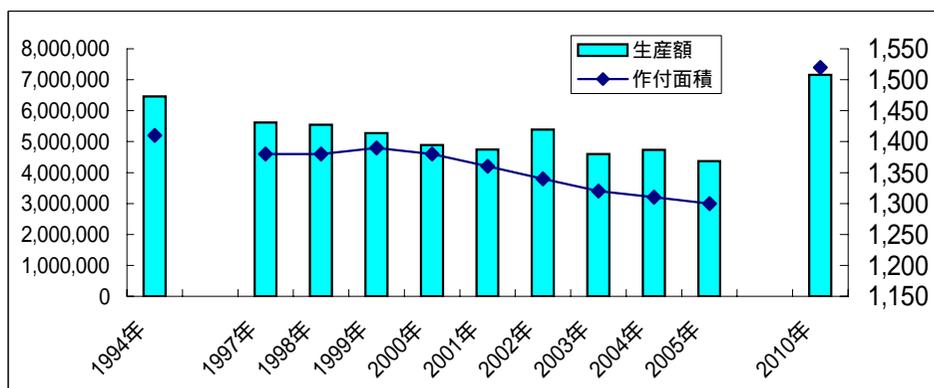
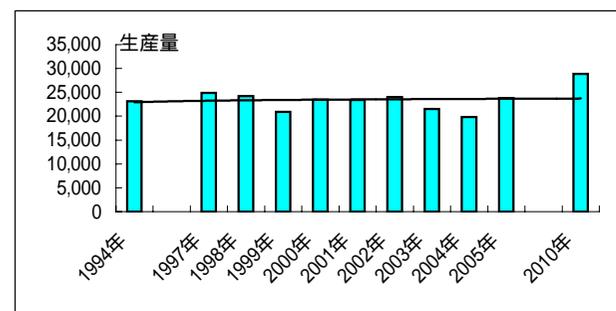
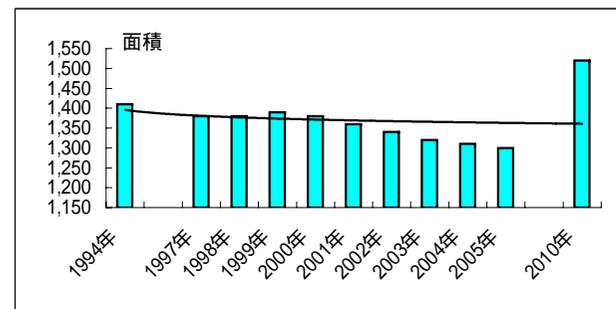
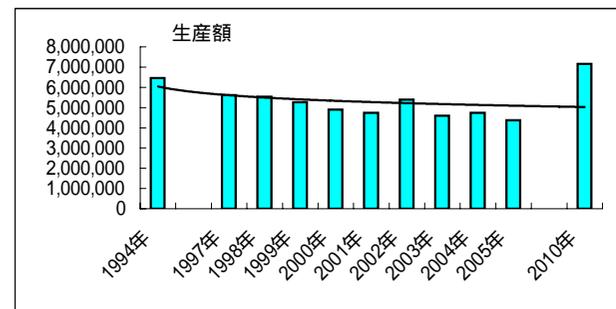
目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

栽培面積			【達成度の評価】 生産者の高齢化の進行、宅地への転用等が進み、目標には届かなかった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 優良品種への転換を進めシリーズ化により面積維持を図る。
	努力目標	A	
単 収			【達成度の評価】 高品質生産に努め、ほぼ目標を達成した。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 優良品種の導入及び低位生産園の解消により向上を図る。
	努力目標	A	
生産量			【達成度の評価】 栽培面積及び単収の伸び悩みから目標には届かなかった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 優良品種への転換等を進め生産量確保を図る。
	努力目標	A	
単価			【達成度の評価】 長引く景気低迷、産地競合等により伸び悩んだ。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 消費者ニーズにあった優良品種の導入により価格維持を図る。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
もも	6年(基準)	1994年	1,410	6,462,200	23,100	1,638	280
	9年	1997年	1,380	5,618,000	24,900	1,804	226
	10年	1998年	1,380	5,541,000	24,200	1,754	229
	11年	1999年	1,390	5,270,000	20,900	1,504	252
	12年	2000年	1,380	4,894,000	23,500	1,703	208
	13年	2001年	1,360	4,744,000	23,400	1,721	203
	14年	2002年	1,340	5,392,000	24,000	1,791	225
	15年	2003年	1,320	4,601,000	21,500	1,629	214
	16年	2004年	1,310	4,737,000	19,800	1,511	239
	17年	2005年	1,300	4,371,000	23,800	1,831	184
22年(目標)	2010年	1,520	7,162,240	28,880	1,900	248	
単価 直近5中3							214

年率	01 05	-1.12%	-2.03%	0.42%	1.56%	-2.43%
	94 05	-0.74%	-3.49%	0.27%	1.02%	-3.74%
	05 10	3.18%	10.38%	3.95%	0.74%	6.15%
対比	05/01	95.6%	92.1%	101.7%	106.4%	90.6%
	05/94	92.2%	67.6%	103.0%	111.8%	65.7%
	05/10	85.5%	61.0%	82.4%	96.4%	74.2%



## 品目名：ぶどう

## 振興方針

りんご、ぶどう、もも、なしを中心に新品種の導入や省力化、環境にやさしい生産・流通体制の確立を図り、活力と個性ある果樹産地づくりを推進する。

区 分		栽培面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		2,480	1,088	26,975	544
努力目標基準年(H10)		2,470	1,259	31,100	
最終年(H17)		2,490	1,305	32,500	354
目標年(H22)	ビジョン	2,700	1,350	36,450	418
	努力目標	2,700	1,450	39,200	
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	92.2	96.7	89.2	84.7
	努力目標	92.2	90.0	82.9	

## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

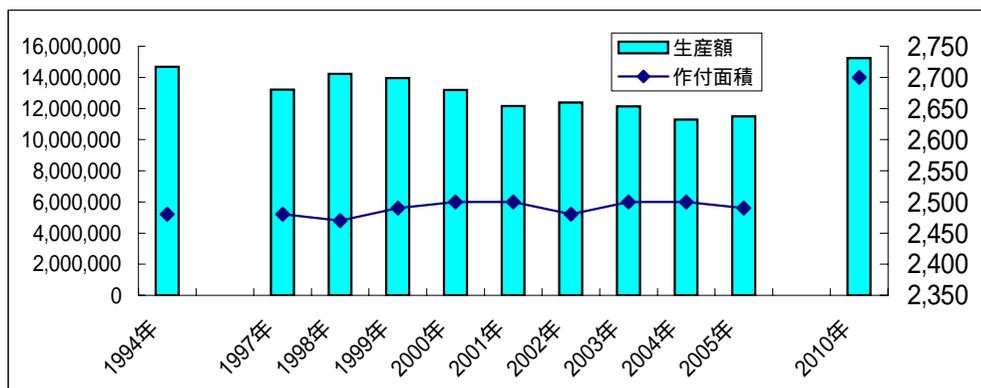
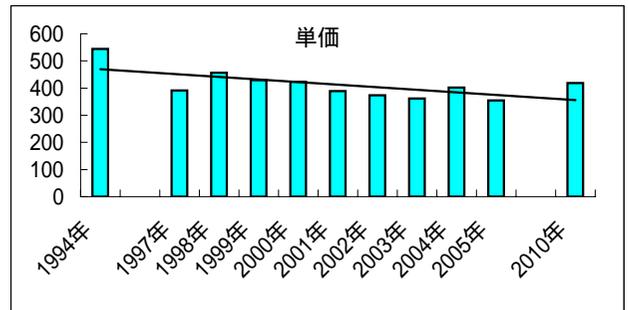
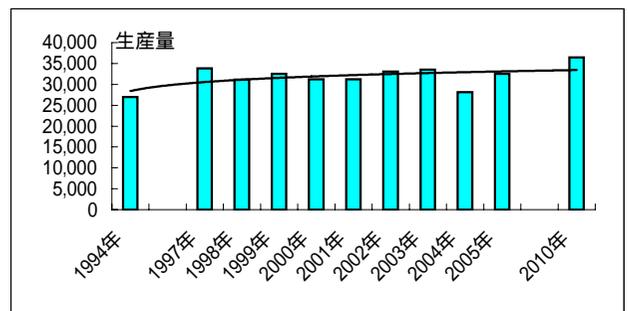
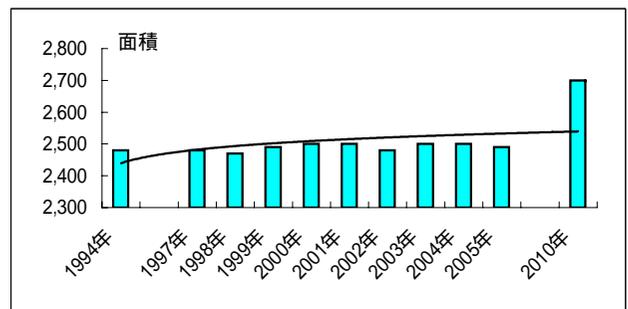
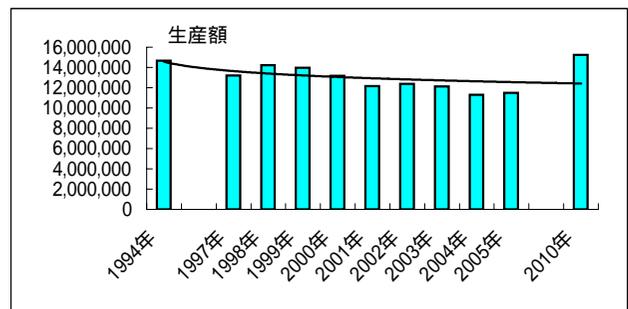
栽培面積			【達成度の評価】 高齢でも栽培できることから面積の減少は少なく、ほぼ目標を達成した。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 優良品種への転換を進め面積維持を図る。
	努力目標	A	
単 収			【達成度の評価】 高品質生産に努め、ほぼ目標を達成した。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 優良品種への転換、施設化の推進及び低位生産園の解消により向上を図る。
	努力目標	A	
生産量			【達成度の評価】 栽培面積及び単収の伸び悩みから目標には届かなかった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 優良品種への転換等を進め生産量確保を図る。
	努力目標	A	
単価			【達成度の評価】 長引く景気低迷、産地競合等により伸び悩んだ。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 施設化の推進、優良品種の導入により有利販売により価格維持を図る。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
ぶどう	6年(基準)	1994年	2,480	14,668,800	26,975	1,088	544
	9年	1997年	2,480	13,213,000	33,800	1,363	391
	10年	1998年	2,470	14,217,000	31,100	1,259	457
	11年	1999年	2,490	13,954,000	32,500	1,305	429
	12年	2000年	2,500	13,188,000	31,200	1,248	423
	13年	2001年	2,500	12,148,000	31,200	1,248	389
	14年	2002年	2,480	12,391,000	33,100	1,335	374
	15年	2003年	2,500	12,137,000	33,500	1,340	362
	16年	2004年	2,500	11,297,000	28,100	1,124	402
	17年	2005年	2,490	11,494,000	32,500	1,305	354
22年(目標)	2010年	2,700	15,236,100	36,450	1,350	418	

単価 直近5中3 375

年率	01 05	-0.10%	-1.37%	1.03%	1.12%	-2.33%
	94 05	0.04%	-2.19%	1.71%	1.67%	-3.83%
	05 10	1.63%	5.80%	2.32%	0.68%	3.38%
対比	05/01	99.6%	94.6%	104.2%	104.6%	91.0%
	05/94	100.4%	78.4%	120.5%	119.9%	65.1%
	05/10	92.2%	75.4%	89.2%	96.7%	84.7%



## 品目名：その他果樹

## 振興方針

りんご、ぶどう、もも、なしを中心に新品種の導入や省力化、環境にやさしい生産・流通体制の確立を図り、活力と個性ある果樹産地づくりを推進する。

区 分	栽培面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)	
ビジョン基準年(H6)	3,024	761	23,000	229	
努力目標基準年(H10)	2,790	603	16,820		
最終年(H17)	2,720	739	20,100	267	
目標年(H22)	ビジョン	3,250	640	20,800	247
	努力目標	2,950	817	24,100	
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	83.7	115.5	96.6	108.1
	努力目標	92.2	90.5	83.4	

## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

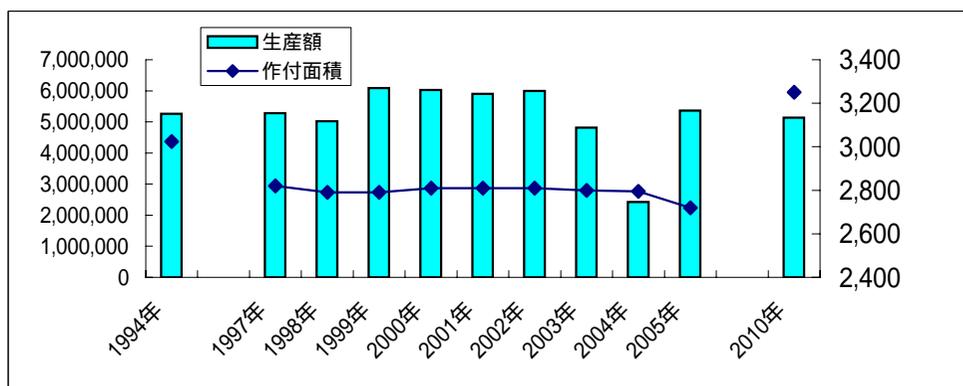
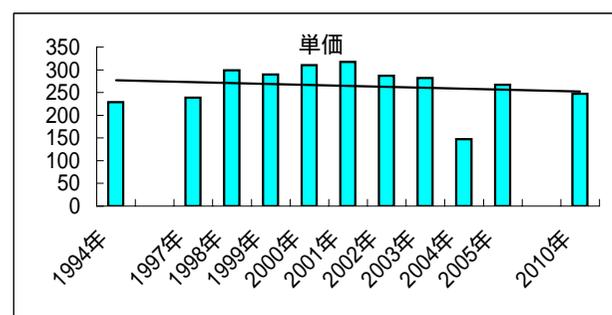
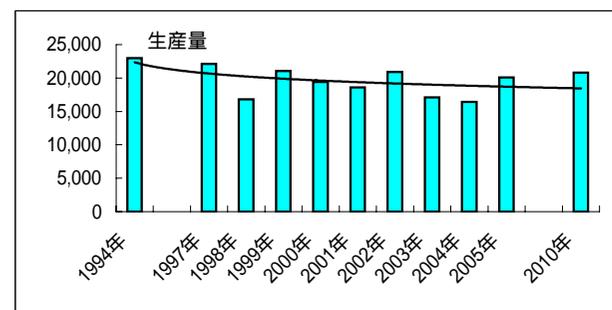
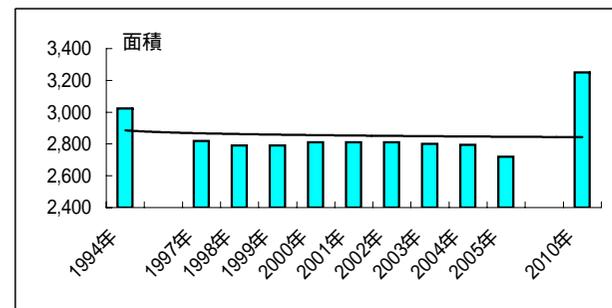
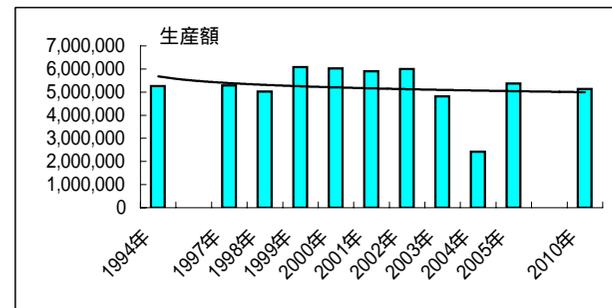
栽培面積			【達成度の評価】 生産者の高齢化の進行、宅地への転用等が進み、目標には届かなかった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 優良品目、品種の導入を推進し面積維持を図る。
	努力目標	A	
単 収			【達成度の評価】 かき、すもも等の低位生産園が減少したことから目標を上回った。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 低位生産園の解消により向上を図る。
	努力目標	A	
生産量			【達成度の評価】 栽培面積の伸び悩みから目標には届かなかった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 低位生産園の解消を図り生産量確保を図る。
	努力目標	A	
単価			【達成度の評価】 有利販売に努めたことから目標を上回った。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 複合経営及び地域特産物品目として位置付け、直販、観光農園等特徴を活かした販売の推進により価格維持を図る。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
その他果樹	6年(基準)	1994年	3,024	5,261,800	23,000	761	229
	9年	1997年	2,820	5,286,000	22,120	784	239
	10年	1998年	2,790	5,027,000	16,820	603	299
	11年	1999年	2,790	6,087,000	21,030	754	289
	12年	2000年	2,810	6,024,000	19,400	690	311
	13年	2001年	2,810	5,905,000	18,600	662	317
	14年	2002年	2,810	5,999,000	20,900	744	287
	15年	2003年	2,800	4,818,200	17,100	611	282
	16年	2004年	2,795	2,419,492	16,429	588	147
	17年	2005年	2,720	5,368,000	20,100	739	267
	22年(目標)	2010年	3,250	5,137,600	20,800	640	247

単価 直近5中3 279

年率	01 05	-0.81%	-2.36%	1.96%	2.79%	-4.23%
	94 05	-0.96%	0.18%	-1.22%	-0.27%	1.41%
	05 10	3.62%	-0.87%	0.69%	-2.83%	-1.55%
対比	05/01	96.8%	90.9%	108.1%	111.6%	84.1%
	05/94	89.9%	102.0%	87.4%	97.1%	116.6%
	05/10	83.7%	104.5%	96.6%	115.5%	108.1%



品目名: はくさい

## 野菜の振興

生産・出荷体制の確立を図り、レタス、はくさい、などの葉野菜類を中心に果菜、根菜を含めた野菜総合供給地づくりを推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		3,238	7,175	232,327	46
努力目標基準年(H10)		3,397	6,886	233,900	
最終年(H17)		2,870	7,631	219,000	34
目標年(H22)	ビジョン	3,341	9,000	300,690	50
	努力目標	3,480	8,000	278,400	
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	85.9	84.8	72.8	68.0
	努力目標	82.5	95.4	78.7	

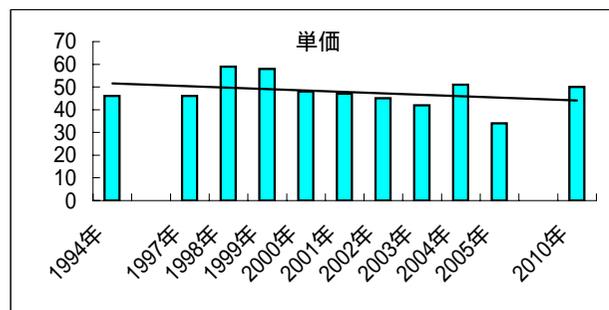
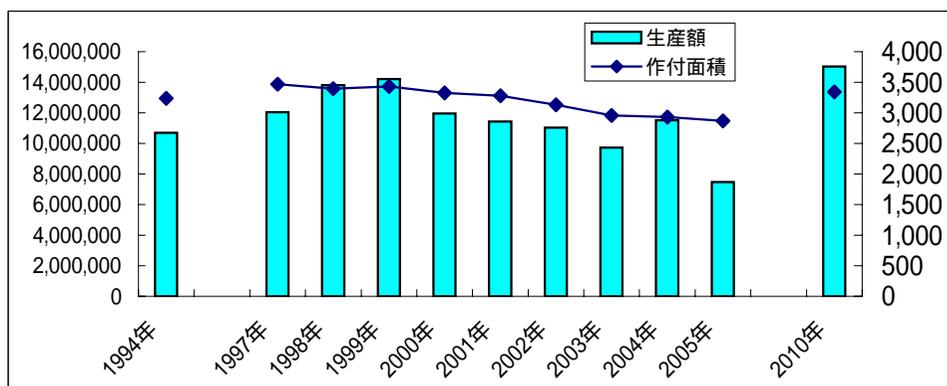
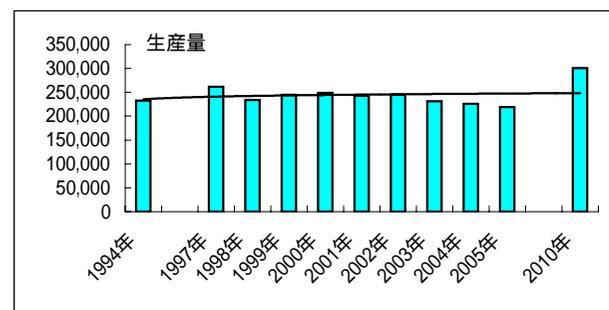
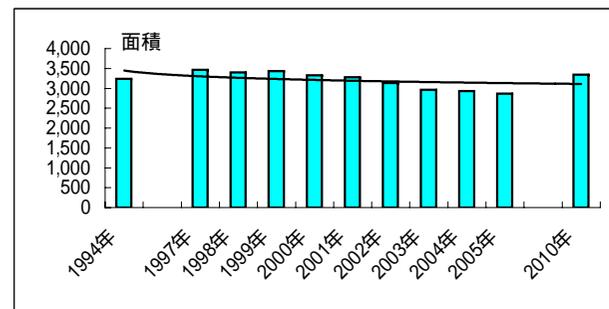
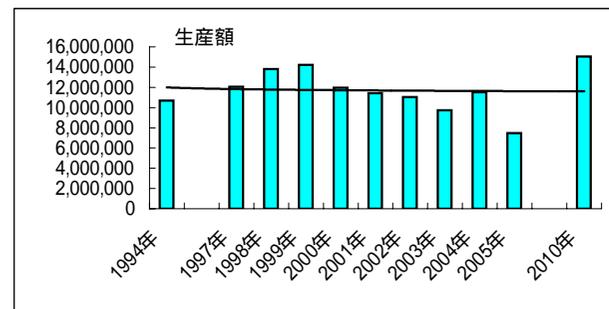
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積			[達成度の評価] 平成17年の作付面積は、ビジョンの目標に対し84.8%で減少しているものの、目標に準じた作付けがされている。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 夏秋期の需要は漬物等の加工・業務用が主体のため、需要に応じた生産が求められている。今後の生産動向は横ばいかやや減少と想定される。
	努力目標	A	
単 収			[達成度の評価] 平成17年の単収は、ビジョン基準年の106.4%と増加している。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 生理障害の発生減などにより、さらに単収の向上を図る。
	努力目標	A	
生産量			[達成度の評価] ビジョン基準年に比べ、単収は向上したものの作付面積が減少したために、生産量は94.3%と減少した。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 需要動向に沿った生産を今後とも推進していく。
	努力目標	B	
単価			[達成度の評価] 平成17年の単価は、ビジョン基準年の74%と下がっている。平成17年の野菜の販売単価は総じて大幅に下落している状況であった。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 今後の単価については、実需者の消費動向等にもよるが17年よりは高いが、大幅な向上は望めないと想定される。
	努力目標		

達成度は、A: 80%以上、B: 50%以上～80%未満、C: 50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
はくさい	6年(基準)	1994年	3,238	10,687,042	232,327	7,175	46
	9年	1997年	3,468	12,048,596	261,926	7,553	46
	10年	1998年	3,397	13,800,100	233,900	6,886	59
	11年	1999年	3,431	14,217,366	245,127	7,145	58
	12年	2000年	3,325	11,954,352	249,049	7,490	48
	13年	2001年	3,280	11,423,256	243,048	7,410	47
	14年	2002年	3,130	11,028,150	245,070	7,830	45
	15年	2003年	2,960	9,723,000	231,500	7,821	42
	16年	2004年	2,930	11,526,000	226,000	7,713	51
	17年	2005年	2,870	7,480,000	219,000	7,631	34
22年(目標)	2010年	3,341	15,034,500	300,690	9,000	50	
単価 直近5中3							45

年率	01 05	-3.28%	-10.04%	-2.57%	0.74%	-7.78%
	94 05	-1.09%	-3.19%	-0.54%	0.56%	-2.71%
	05 10	3.09%	14.98%	6.55%	3.36%	8.02%
対比	05/01	87.5%	65.5%	90.1%	103.0%	72.3%
	05/94	88.6%	70.0%	94.3%	106.4%	73.9%
	05/10	85.9%	49.8%	72.8%	84.8%	68.0%



品目名: キャベツ

野菜の振興

生産・出荷体制の確立を図り、レタス、はくさい、などの葉野菜類を中心に果菜、根菜を含めた野菜総合供給産地づくりを推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		2,062	4,478	92,340	68
努力目標基準年(H10)		1,990	4,554	90,624	
最終年(H17)		1,450	4,414	64,000	41
目標年(H22)	ビジョン	2,102	5,600	117,712	75
	努力目標	2,100	5,000	105,000	
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	69.0	78.8	54.4	54.7
	努力目標	69.0	88.3	61.0	

目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

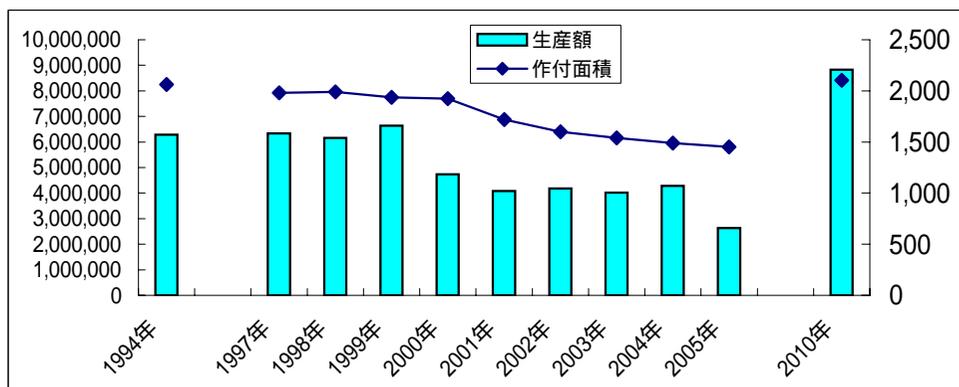
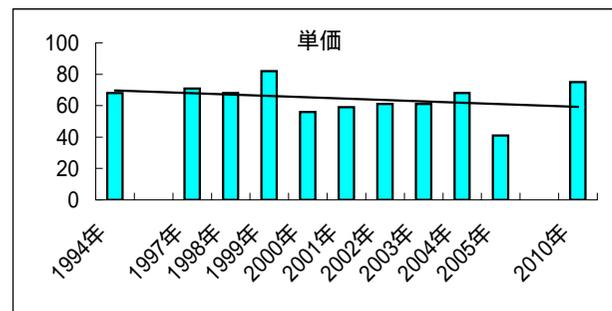
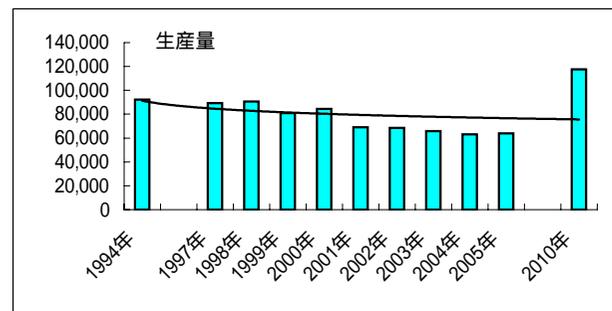
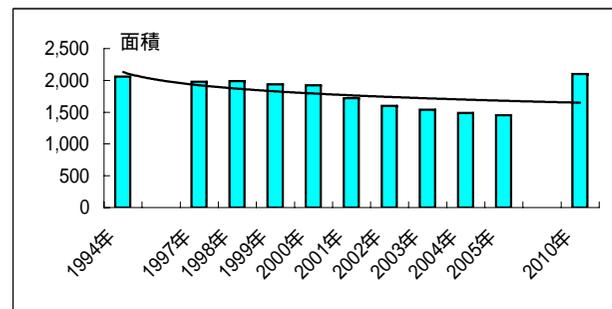
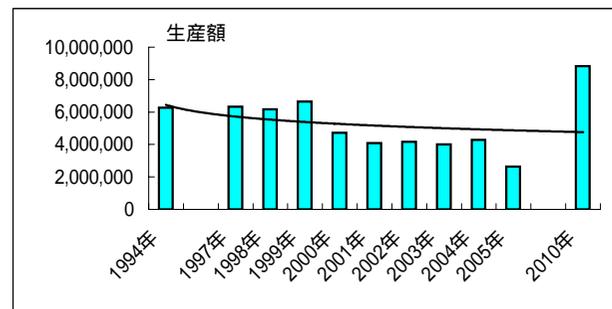
作付面積			[達成度の評価] 平成17年の作付面積は、ビジョン基準年の70.3%と減少している。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 作付け意欲の減少や生産者の高齢化が進むと今後の生産動向は横ばいからやや減少するものと想定されるが、加工用途向栽培や機械化による省力化により生産力の維持を図りたい。
	努力目標	B	
単 収			[達成度の評価] 平成17年の単収は、ビジョン基準年の98.6%とわずかに減少している。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 生産技術の向上などにより、さらに単収の向上を図る。
	努力目標	A	
生産量			[達成度の評価] ビジョン基準年に比べ、作付面積及び単収が減少したために、生産量は69.3%と減少した。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 生産量の減少が見込まれるが、単収の向上により生産力の維持に努める。
	努力目標	B	
単価			[達成度の評価] 平成17年の単価は、ビジョン基準年の60.3%と下がっている。平成17年の野菜の販売単価は総じて大幅に下落している状況であった。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 今後の単価については、実需者の消費動向等にもよるが17年よりは高いが、ビジョン基準年までの単価は望めないと想定される。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
キャベツ	6年(基準)	1994年	2,062	6,279,120	92,340	4,478	68
	9年	1997年	1,980	6,339,235	89,285	4,509	71
	10年	1998年	1,990	6,162,432	90,624	4,554	68
	11年	1999年	1,936	6,643,476	81,018	4,185	82
	12年	2000年	1,924	4,732,112	84,502	4,392	56
	13年	2001年	1,720	4,079,496	69,144	4,020	59
	14年	2002年	1,600	4,175,450	68,450	4,278	61
	15年	2003年	1,540	4,013,800	65,800	4,273	61
	16年	2004年	1,490	4,284,000	63,000	4,228	68
	17年	2005年	1,450	2,635,000	64,000	4,414	41
22年(目標)	2010年	2,102	8,828,400	117,712	5,600	75	

単価 直近5中3 60

年率	01 05	-4.18%	-10.35%	-1.91%	2.37%	-8.70%
	94 05	-3.15%	-7.59%	-3.28%	-0.13%	-4.50%
	05 10	7.71%	27.36%	12.96%	4.87%	12.84%
対比	05/01	84.3%	64.6%	92.6%	109.8%	69.5%
	05/94	70.3%	42.0%	69.3%	98.6%	60.3%
	05/10	69.0%	29.8%	54.4%	78.8%	54.7%



## 品目名: ホウレンソウ

## 野菜の振興

生産・出荷体制の確立を図り、レタス、はくさい、などの葉野菜類を中心に果菜、根菜を含めた野菜総合供給産地づくりを推進する。

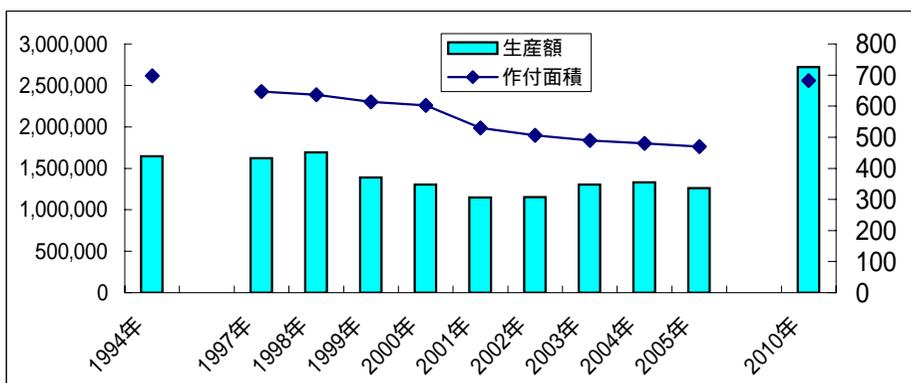
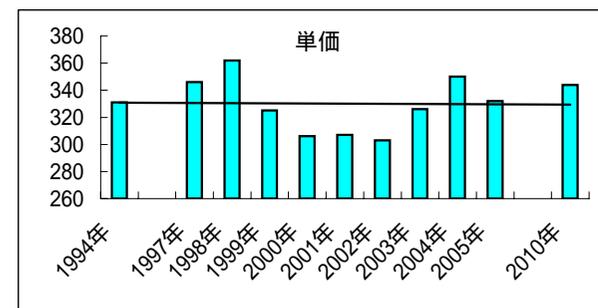
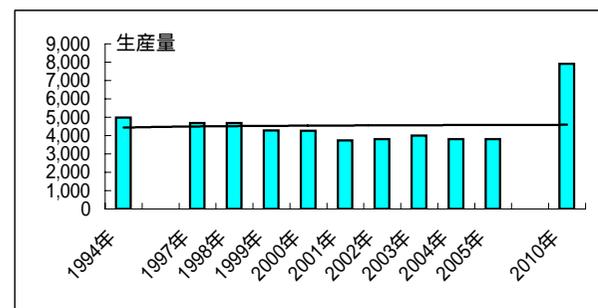
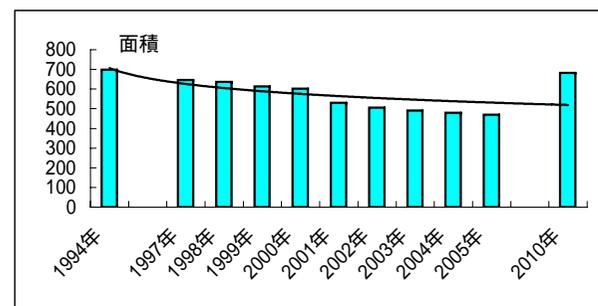
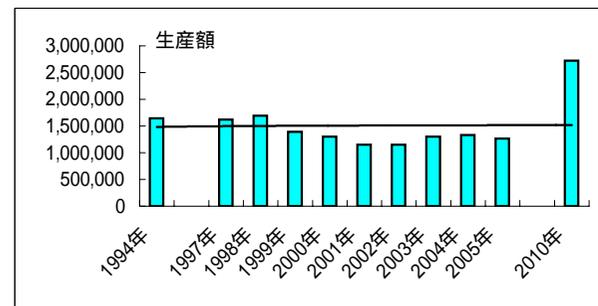
区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		698	713	4977	331
努力目標基準年(H10)					
最終年(H17)		470	809	3800	332
目標年(H22)	ビジョン	682	1160	7911	344
	努力目標				
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	68.9	69.7	48.0	96.5
	努力目標				

## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積			[達成度の評価] 平成17年の作付面積は、ビジョン基準年の67.3%と減少している。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 作付け意欲の減少や生産者の高齢化が進んでおり、横ばいからやや減少するものと想定されるが、加工用途向けの対応などにより増加を見込む。
	努力目標		
単 収			[達成度の評価] 平成17年の単収は、ビジョン基準年の113.5%と増加している。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 生産技術の向上などにより、さらに単収の向上を図る。
	努力目標		
生産量			[達成度の評価] ビジョン基準年に比べ、単収はやや増加したものの作付面積が減少したために、生産量は76.4%と減少した。
達成度	ビジョン	C	[今後の動向] 生産量の減少が見込まれるが生産力の維持に努める。
	努力目標		
単価			[達成度の評価] 平成17年の単価は、ビジョン基準年の100.3%と上っている。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 今後の単価については、直近の平均販売価格から見ると平成17年並の価格と想定される。
	努力目標		

達成度は、A: 80%以上、B: 50%以上～80%未満、C: 50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)	
ホウレンソウ	6年(基準)	1994年	698	1,647,387	4,977	713	331	
	9年	1997年	647	1,622,048	4,688	725	346	
	10年	1998年	636	1,693,798	4,679	736	362	
	11年	1999年	614	1,390,025	4,277	697	325	
	12年	2000年	602	1,302,336	4,256	707	306	
	13年	2001年	530	1,148,794	3,742	706	307	
	14年	2002年	506	1,151,400	3,800	751	303	
	15年	2003年	490	1,304,000	4,000	816	326	
	16年	2004年	480	1,330,000	3,800	792	350	
	17年	2005年	470	1,263,000	3,800	809	332	
	22年(目標)	2010年	682	2,721,453	7,911	1,160	344	
	単価 直近5中3							332



年率	01 05	-2.96%	2.40%	0.39%	3.46%	1.98%
	94 05	-3.53%	-2.39%	-2.42%	1.15%	0.03%
	05 10	7.73%	16.59%	15.79%	7.47%	0.71%
対比	05/01	88.7%	109.9%	101.5%	114.6%	108.1%
	05/94	67.3%	76.7%	76.4%	113.5%	100.3%
	05/10	68.9%	46.4%	48.0%	69.7%	96.5%

## 品目名：結球レタス

## 野菜の振興

生産・出荷体制の確立を図り、レタス、はくさい、などの葉野菜類を中心に果菜、根菜を含めた野菜総合供給地づくりを推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		6613	3156	208700	85
努力目標基準年(H10)		6916	2901	200660	
最終年(H17)		6600	2939	194000	64
目標年(H22)	ビジョン	6789	4000	271560	89
	努力目標	7600	3384	257200	
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	97.2	73.5	71.4	71.9
	努力目標	86.8	86.8	75.4	

(注) 結球レタスのみの数字

## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

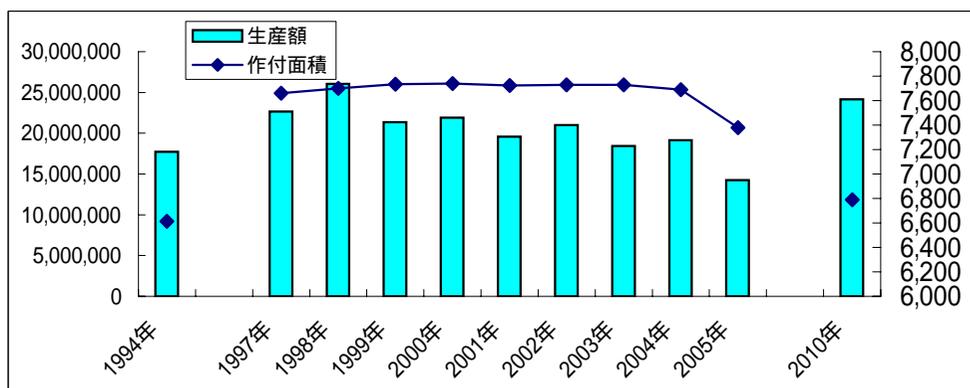
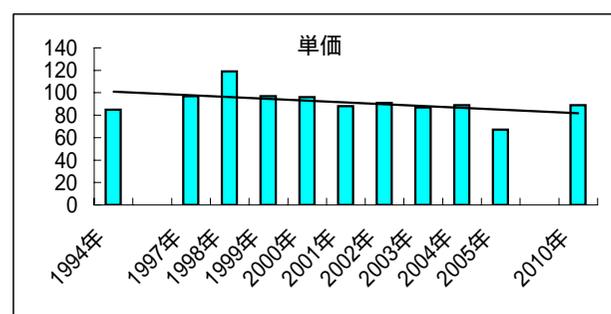
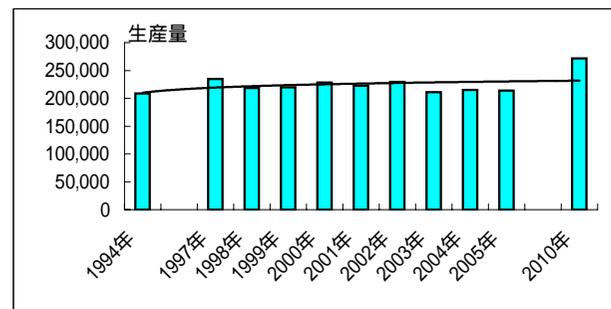
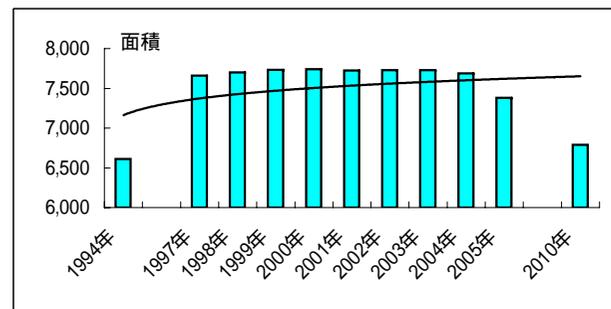
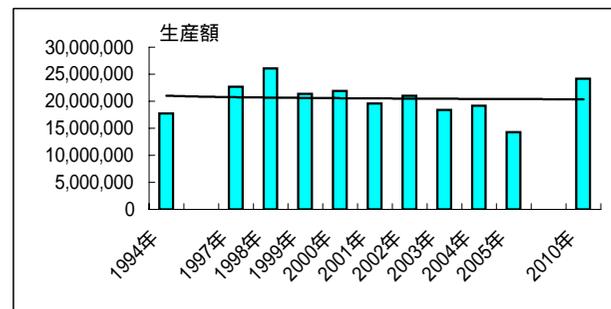
作付面積			[達成度の評価] 平成17年の作付面積は、ビジョン基準年の99.8%でほぼ同面積を維持している。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 今後も、作付面積は維持する傾向と想定されるが加工・業務用向けの対応を含め需要に応じた適正生産に努め、生産力を維持する。
	努力目標	A	
単 収			[達成度の評価] 平成17年の単収は、産地廃棄などもありビジョン基準年の93.1%と減少した。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 病害虫や連作障害の発生防止対策などにより、さらに単収の向上を図る。
	努力目標	A	
生産量			[達成度の評価] ビジョン基準年に比べ、作付面積及び単収がやや減少したために、生産量は93%と減少した。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 需要動向に沿った生産を今後とも推進していく。
	努力目標	B	
単 価			[達成度の評価] 平成17年の単価は、ビジョン基準年の75.3%と下がっている。平成17年の野菜の販売単価は総じて大幅に下落している状況であった。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 今後の単価については、平成17年よりは高い価格が想定される。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
レタス	6年(基準)	1994年	6,613	17,739,500	208,700	3,156	85
	9年	1997年	7,660	22,668,740	234,819	3,066	97
	10年	1998年	7,699	26,047,000	218,324	2,836	119
	11年	1999年	7,733	21,350,321	219,479	2,838	97
	12年	2000年	7,740	21,894,598	228,596	2,953	96
	13年	2001年	7,723	19,586,527	222,789	2,885	88
	14年	2002年	7,730	20,997,600	229,500	2,969	91
	15年	2003年	7,730	18,421,000	211,000	2,730	87
	16年	2004年	7,690	19,156,000	215,000	2,796	89
	17年	2005年	7,380	14,266,000	214,000	2,900	67
22年(目標)	2010年	6,789	24,168,840	271,560	4,000	89	

(注) 9～17年は結球及び非結球レタスの数字 単価 直近5中3 88

年率	01 05	-1.13%	-7.62%	-1.00%	0.13%	-6.59%
	94 05	1.00%	-1.96%	0.23%	-0.77%	-2.14%
	05 10	-1.66%	11.12%	4.88%	6.64%	5.84%
対比	05/01	95.6%	72.8%	96.1%	100.5%	76.1%
	05/94	111.6%	80.4%	102.5%	91.9%	78.8%
	05/10	108.7%	59.0%	78.8%	72.5%	75.3%



品目名：セルリー

## 野菜の振興

生産・出荷体制の確立を図り、レタス、はくさい、などの葉洋菜類を中心に果菜、根菜を含めた野菜総合供給産地づくりを推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		421	4046	17034	185
努力目標基準年(H10)		429	4014	17219	
最終年(H17)		300	5133	15400	158
目標年(H22)	ビジョン	411	5000	20550	162
	努力目標	430	5000	21500	
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	73.0	102.7	74.9	97.5
	努力目標	69.8	102.7	71.6	

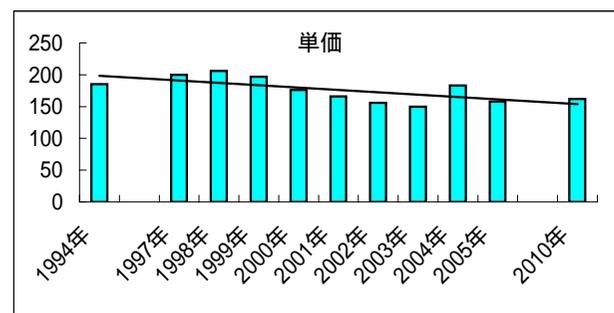
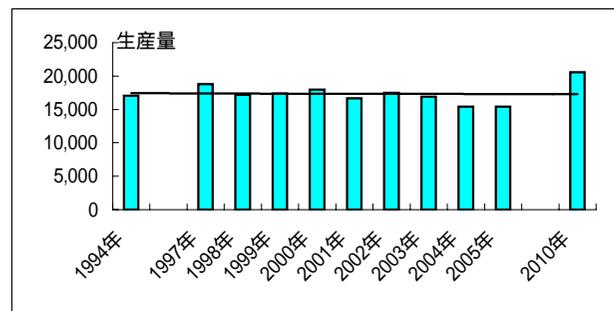
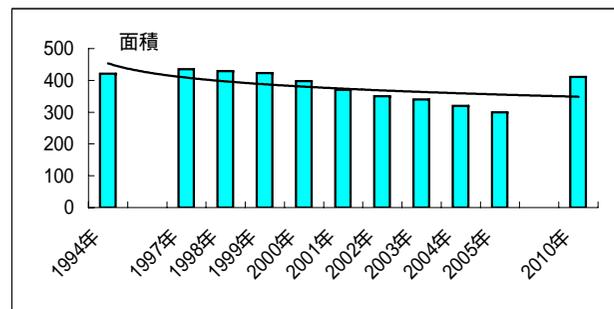
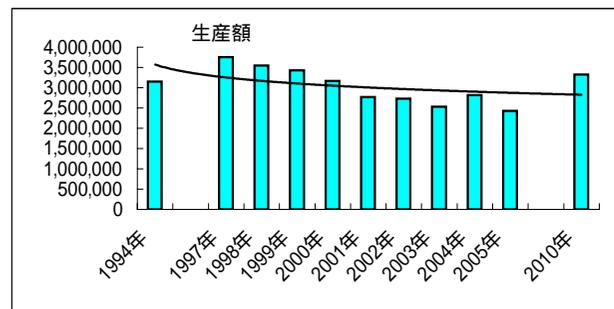
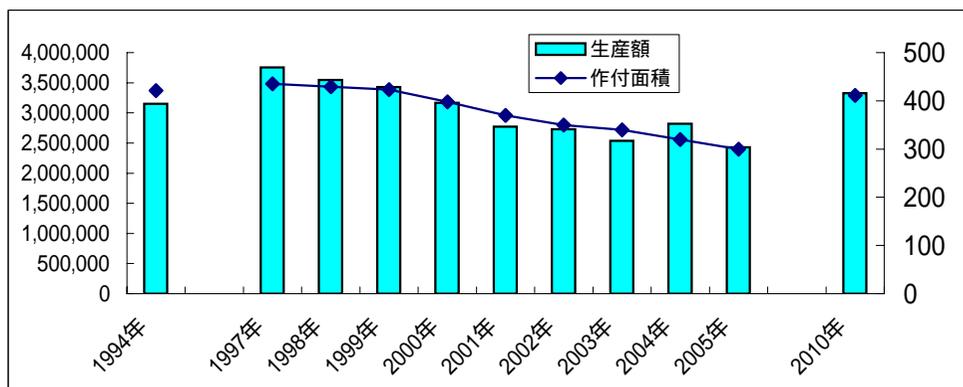
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積			[達成度の評価] 平成17年の作付面積は、中信地区の産地で減少しており、ビジョン基準年の71.3%と減少している。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 生産者の高齢化が進んでおり、今後も生産動向は横ばいからやや減少するものと想定されるが、春作の拡大や抵抗性品種の活用により、生産力の維持を図りたい。
	努力目標	B	
単 収			[達成度の評価] 平成17年の単収は、ビジョン基準年の126.9%と増加した。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 今後も栽培技術の向上や連作障害対策に努め単収を維持する。
	努力目標	A	
生産量			[達成度の評価] ビジョン基準年に比べ、単収は増加したものの作付面積が減少したために、生産量は90.4%と減少した。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 需要動向に沿った生産を今後とも推進していく。
	努力目標	B	
単価			[達成度の評価] 平成17年の単価は、ビジョン基準年の85.4%と下がっている。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 今後の単価については、直近の平均販売価格から見ると平成17年並の価格と想定される。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
セルリー	6年(基準)	1994年	421	3,151,290	17,034	4,046	185
	9年	1997年	435	3,755,600	18,778	4,317	200
	10年	1998年	429	3,547,114	17,219	4,014	206
	11年	1999年	423	3,426,027	17,391	4,111	197
	12年	2000年	398	3,164,832	17,982	4,518	176
	13年	2001年	370	2,770,042	16,687	4,510	166
	14年	2002年	350	2,730,000	17,500	5,000	156
	15年	2003年	340	2,535,000	16,900	4,971	150
	16年	2004年	320	2,818,200	15,400	4,813	183
	17年	2005年	300	2,430,000	15,400	5,133	158
22年(目標)	2010年	411	3,329,100	20,550	5,000	162	
単価 直近5中3							160

年率	01 05	-5.11%	-3.22%	-1.99%	3.29%	-1.23%
	94 05	-3.03%	-2.34%	-0.91%	2.19%	-1.42%
	05 10	6.50%	6.50%	5.94%	-0.52%	0.50%
対比	05/01	81.1%	87.7%	92.3%	113.8%	95.2%
	05/94	71.3%	77.1%	90.4%	126.9%	85.4%
	05/10	73.0%	73.0%	74.9%	102.7%	97.5%



## 品目名：アスパラガス

## 野菜の振興

生産・出荷体制の確立を図り、レタス、はくさい、などの葉野菜類を中心に果菜、根菜を含めた野菜総合供給産地づくりを推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		2626	299	7852	613
努力目標基準年(H10)		2427	338	8202	
最終年(H17)		1940	273	5300	687
目標年(H22)	ビジョン	2498	600	14988	625
	努力目標	2600	600	15600	
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	77.7	45.5	35.4	109.9
	努力目標	74.6	45.5	34.0	

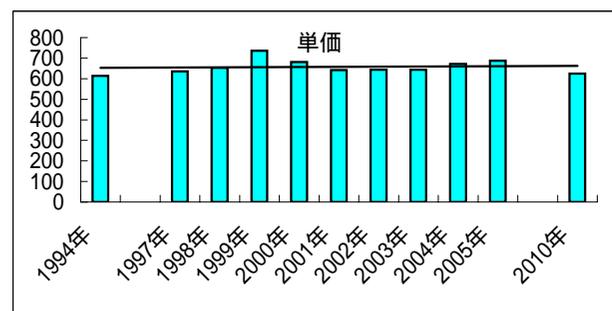
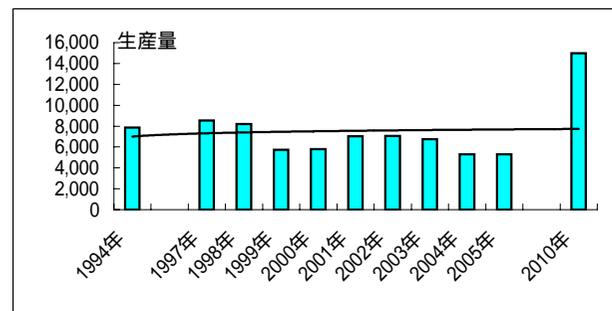
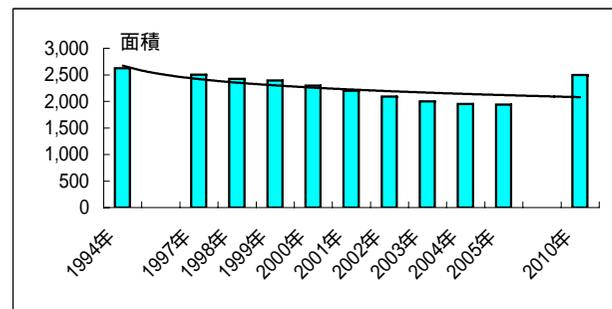
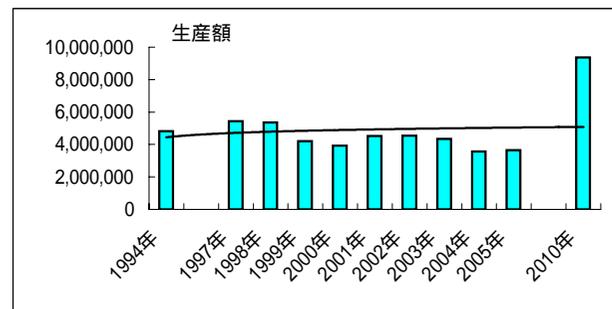
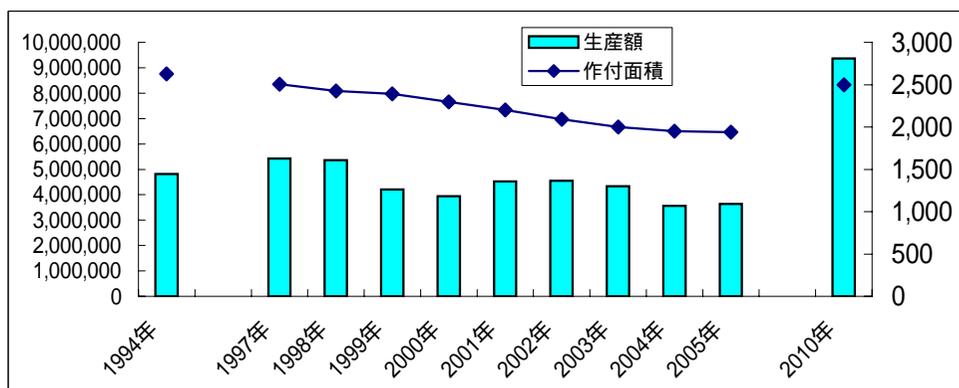
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積		【達成度の評価】平成17年の作付面積は、ビジョン基準年の73.9%と減少した。			
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】生産者の高齢化が進んでおり、今後の生産動向は横ばいからやや減少するものと想定されるが、オリジナル品種の導入等により生産力の増加を図りたい。		
	努力目標	B			
単 収		【達成度の評価】平成17年の単収は、ビジョン基準年の91.3%と減少した。			
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】重点的に栽培技術の向上を図り、株の更新や長期どり作型の導入、施設化の推進等により単収の大幅な向上を目指す。		
	努力目標	C			
生産量		【達成度の評価】ビジョン基準年に比べ、単収及び作付面積が減少したため、生産量は67.5%と減少した。			
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】耐病性のあるオリジナル品種の導入と単収の向上により、生産量の確保を図っていく。		
	努力目標	C			
単価		【達成度の評価】平成17年の単価は、ビジョン基準年の112.1%と上った。			
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】今後の単価については、直近の平均販売価格から見ると平成17年をやや下回る価格と想定される。		
	努力目標				

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
アスパラガス	6年(基準)	1994年	2,626	4,813,276	7,852	299	613
	9年	1997年	2,505	5,428,260	8,535	341	636
	10年	1998年	2,427	5,355,906	8,202	338	653
	11年	1999年	2,393	4,213,600	5,725	239	736
	12年	2000年	2,297	3,937,542	5,782	252	681
	13年	2001年	2,200	4,519,680	7,040	320	642
	14年	2002年	2,090	4,553,080	7,070	338	644
	15年	2003年	2,000	4,340,250	6,750	338	643
	16年	2004年	1,950	3,561,600	5,300	272	672
	17年	2005年	1,940	3,641,000	5,300	273	687
22年(目標)	2010年	2,498	9,367,500	14,988	600	625	
単価 直近5中3							653

年率	01 05	-3.10%	-5.26%	-6.85%	-3.89%	1.71%
	94 05	-2.71%	-2.51%	-3.51%	-0.82%	1.04%
	05 10	5.19%	20.80%	23.11%	17.06%	-1.87%
対比	05/01	88.2%	80.6%	75.3%	85.3%	107.0%
	05/94	73.9%	75.6%	67.5%	91.3%	112.1%
	05/10	77.7%	38.9%	35.4%	45.5%	109.9%



## 品目名：その他葉野菜

## 野菜の振興

生産・出荷体制の確立を図り、レタス、はくさい、などの葉野菜類を中心に果菜、根菜を含めた野菜総合供給産地づくりを推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		5713	1905	108841	201
努力目標基準年(H10)					
最終年(H17)		5450	1993	108600	134
目標年(H22)	ビジョン	5742	1960	112543	127
	努力目標				
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	94.9	101.7	96.5	105.5
	努力目標				

(注) 非結球レタスが入った数字

## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

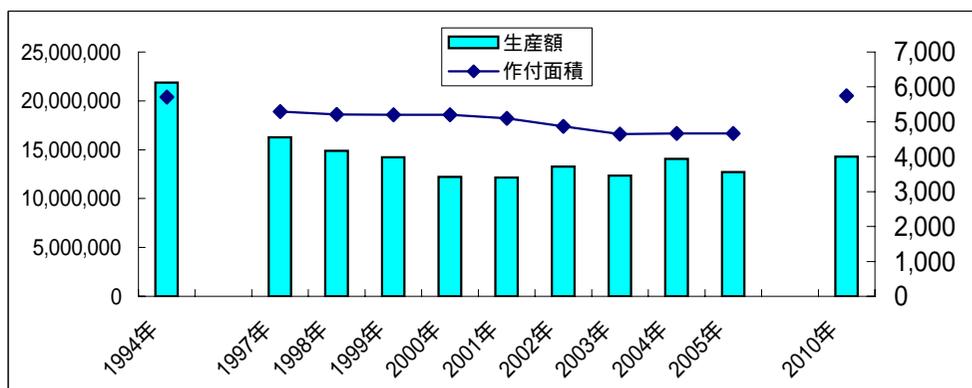
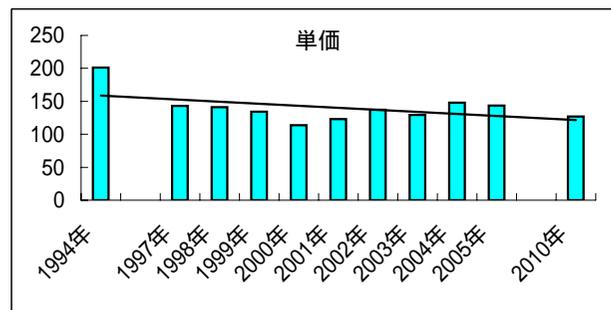
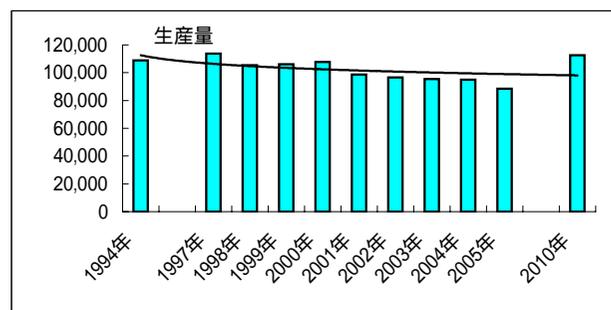
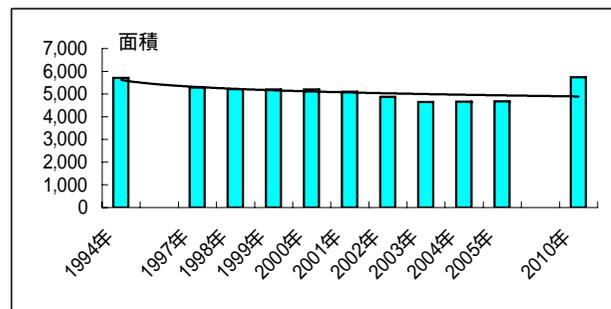
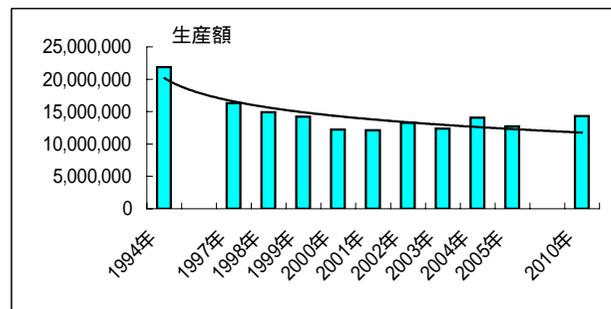
作付面積			[達成度の評価]
達成度	ビジョン	A	[今後の動向]
	努力目標		
単 収			[達成度の評価]
達成度	ビジョン	A	[今後の動向]
	努力目標		
生産量			[達成度の評価]
達成度	ビジョン	A	[今後の動向]
	努力目標		
単価			[達成度の評価]
達成度	ビジョン	A	[今後の動向]
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上~80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
その他葉洋菜類	6年(基準)	1994年	5,713	21,859,855	108,841	1,905	201
	9年	1997年	5,292	16,282,481	113,698	2,148	143
	10年	1998年	5,211	14,902,243	105,486	2,024	141
	11年	1999年	5,206	14,222,963	106,074	2,038	134
	12年	2000年	5,204	12,224,667	107,612	2,068	114
	13年	2001年	5,100	12,145,474	98,786	1,937	123
	14年	2002年	4,874	13,268,335	96,710	1,984	137
	15年	2003年	4,650	12,363,200	95,550	2,055	129
	16年	2004年	4,668	14,069,000	95,000	2,035	148
	17年	2005年	4,670	12,699,000	88,600	1,897	143
	22年(目標)	2010年	5,742	14,292,986	112,543	1,960	127

(注) 9～17年は非結球レタスの数字が入っていない。 単価 直近5中3 136

年率	01 05	-2.18%	1.12%	-2.68%	-0.52%	3.91%
	94 05	-1.82%	-4.82%	-1.85%	-0.04%	-3.03%
	05 10	4.22%	2.39%	4.90%	0.65%	-2.39%
対比	05/01	91.6%	104.6%	89.7%	97.9%	116.6%
	05/94	81.7%	58.1%	81.4%	99.6%	71.3%
	05/10	81.3%	88.8%	78.7%	96.8%	112.9%



## 品目名: トマト(青果&amp;加工)

## 野菜の振興

生産・出荷体制の確立を図り、レタス、はくさい、などの葉野菜類を中心に果菜、根菜を含めた野菜総合供給産地づくりを推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		535	4827	25823	109
努力目標基準年(H10)		570	5614	32000	
最終年(H17)		443	5530	24500	96
目標年(H22)	ビジョン	599	6995	41900	105
	努力目標	620	7065	43800	
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	74.0	79.1	58.5	91.4
	努力目標	71.5	78.3	55.9	

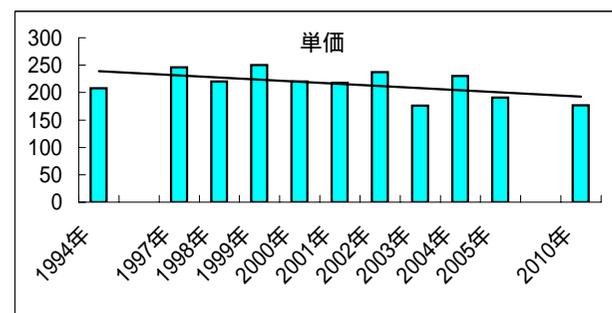
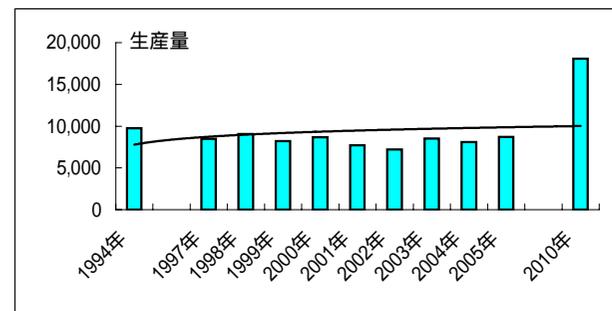
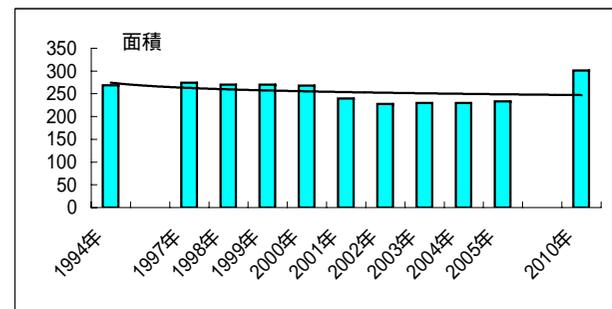
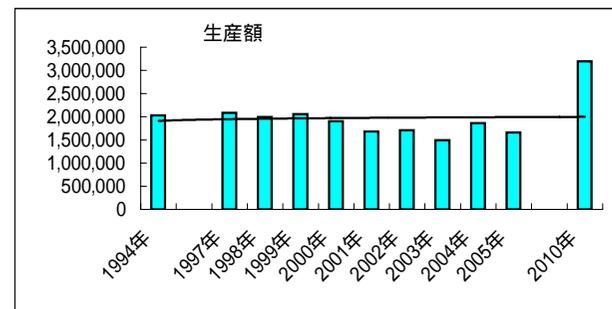
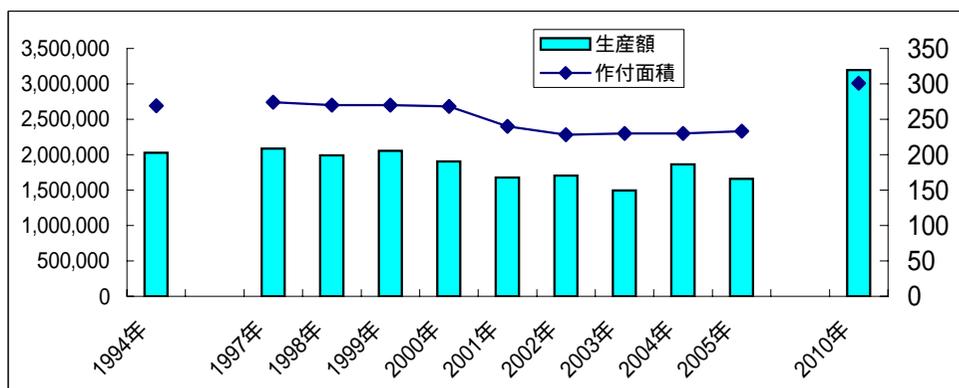
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積		[達成度の評価] 平成17年の作付面積は、ビジョン基準年の82.8%と減少しているが、一部地域で大規模施設栽培が導入されてきている。			
達成度	ビジョン	B			[今後の動向] 加工用は生産者の高齢化が進んでおり、生産動向はやや減少する。生食用は、大規模化や施設化を推進し面積の拡大を図りたい。
	努力目標	B			
単 収		[達成度の評価] 平成17年の単収は、ビジョン基準年の114.6%と増加している。			
達成度	ビジョン	B			[今後の動向] 加工用、生食用ともに今後、TYLCVなど新規病害虫の克服により単収の増加を目指す。
	努力目標	B			
生産量		[達成度の評価] ビジョン基準年に比べ、単収は増加したものの作付面積が減少したため、生産量は94.9%と減少した。			
達成度	ビジョン	B			[今後の動向] 作付面積及び単収を向上させ生産力の向上を図る必要がある。
	努力目標	B			
単価		[達成度の評価] 平成17年の単価は、ビジョン基準年の88.1%と下がった。			
達成度	ビジョン	A			[今後の動向] 今後の単価については、直近の平均販売価格から見ると平成17年並の価格と想定される。
	努力目標				

達成度は、A:80%以上、B:50%以上~80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)	
青果トマト	6年(基準)	1994年	269	2,027,792	9,749	3,624	208	
	9年	1997年	274	2,085,588	8,478	3,094	246	
	10年	1998年	270	1,992,100	9,055	3,354	220	
	11年	1999年	270	2,055,500	8,222	3,045	250	
	12年	2000年	268	1,904,760	8,658	3,231	220	
	13年	2001年	240	1,679,472	7,704	3,210	218	
	14年	2002年	228	1,706,400	7,200	3,158	237	
	15年	2003年	230	1,496,000	8,500	3,930	176	
	16年	2004年	230	1,863,000	8,100	3,522	230	
	17年	2005年	233	1,658,000	8,700	3,734	191	
	22年(目標)	2010年	301	3,196,620	18,060	6,000	177	
	単価 直近5中3							213

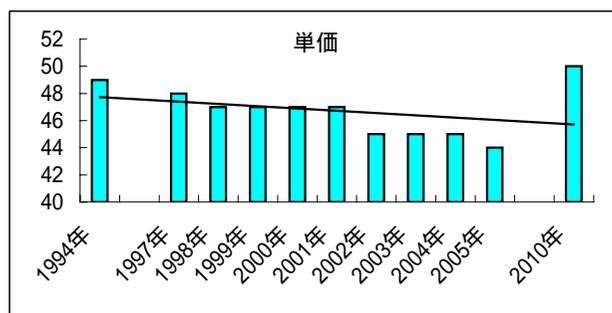
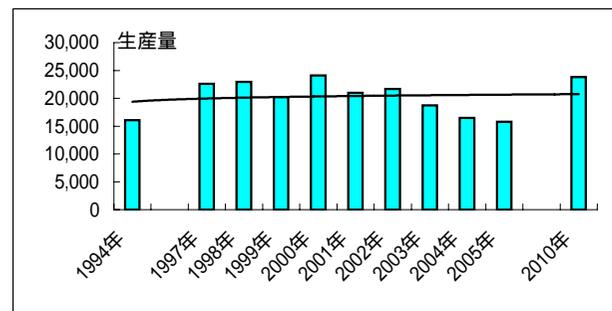
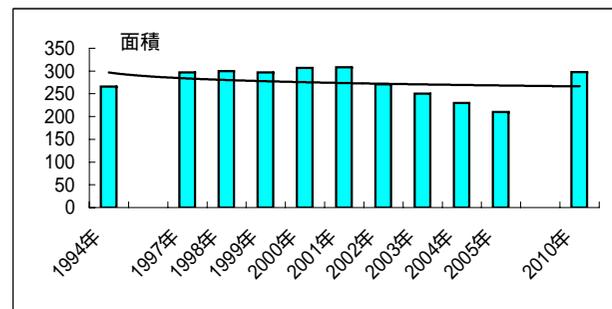
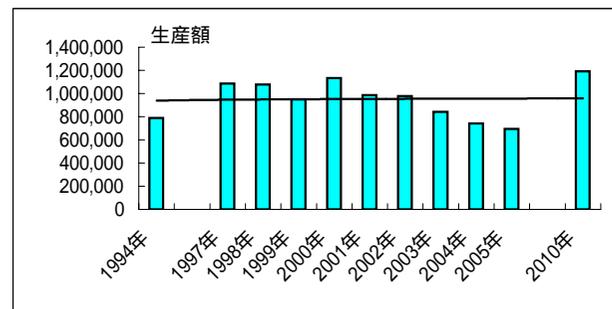
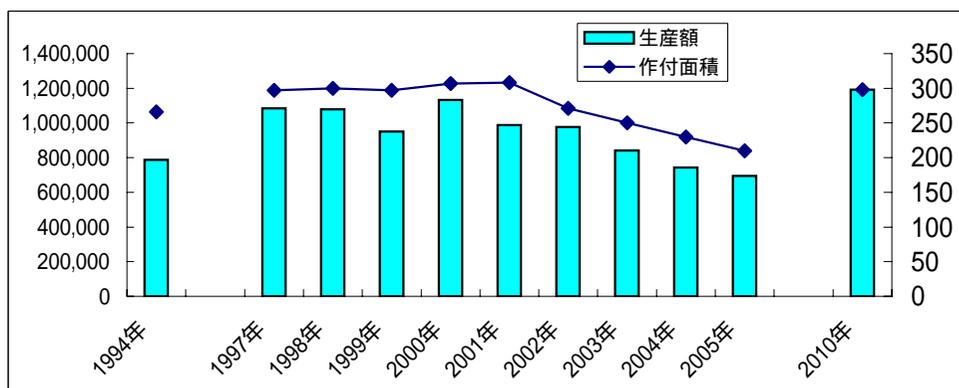
年率	01 05	-0.74%	-0.32%	3.09%	3.85%	-3.25%
	94 05	-1.30%	-1.81%	-1.03%	0.27%	-0.77%
	05 10	5.25%	14.03%	15.73%	9.95%	-1.51%
対比	05/01	97.1%	98.7%	112.9%	116.3%	87.6%
	05/94	86.6%	81.8%	89.2%	103.0%	91.8%
	05/10	77.4%	51.9%	48.2%	62.2%	107.9%



作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
加工トマト	6年(基準)	1994年	266	787,626	16,074	6,043	49
	9年	1997年	297	1,085,088	22,606	7,611	48
	10年	1998年	300	1,078,415	22,945	7,648	47
	11年	1999年	297	950,105	20,215	6,806	47
	12年	2000年	307	1,132,700	24,100	7,850	47
	13年	2001年	308	987,282	21,006	6,820	47
	14年	2002年	271	976,500	21,700	8,007	45
	15年	2003年	250	841,500	18,700	7,480	45
	16年	2004年	230	742,500	16,500	7,174	45
	17年	2005年	210	695,000	15,800	7,524	44
22年(目標)	2010年	298	1,192,000	23,840	8,000	50	

単価 直近5中3 45

年率	01 05	-9.13%	-8.40%	-6.87%	2.49%	-1.64%
	94 05	-2.13%	-1.13%	-0.16%	2.01%	-0.97%
	05 10	7.25%	11.39%	8.57%	1.23%	2.59%
対比	05/01	68.2%	70.4%	75.2%	110.3%	93.6%
	05/94	78.9%	88.2%	98.3%	124.5%	89.8%
	05/10	70.5%	58.3%	66.3%	94.1%	88.0%



品目名: きゅうり

## 野菜の振興

生産・出荷体制の確立を図り、レタス、はくさい、などの葉野菜類を中心に果菜、根菜を含めた野菜総合供給産地づくりを推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		689	4522	31157	193
努力目標基準年(H10)		647	4594	29725	
最終年(H17)		535	4822	25800	176
目標年(H22)	ビジョン	765	6000	45900	207
	努力目標	700	6000	42000	
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	69.9	80.4	56.2	85.0
	努力目標	76.4	80.4	61.4	

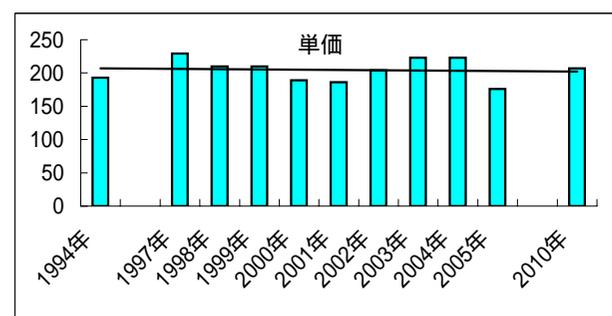
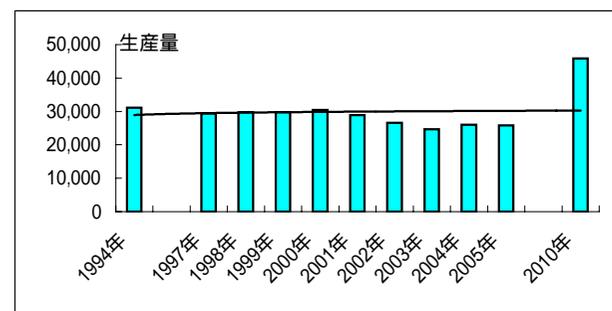
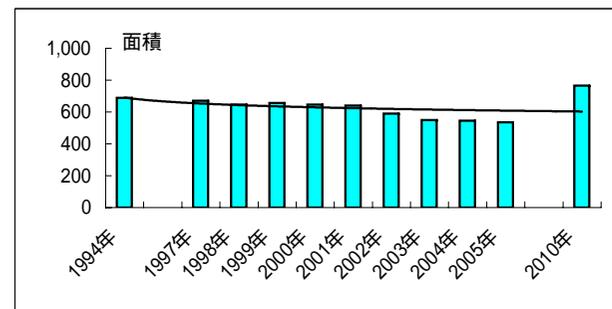
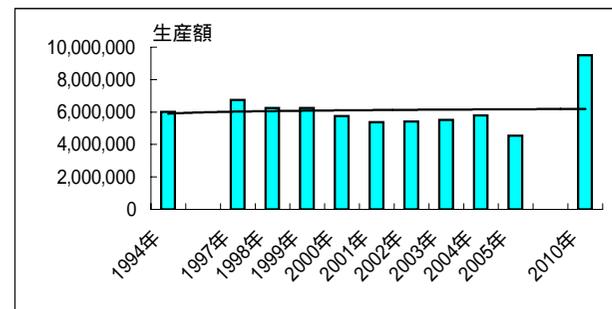
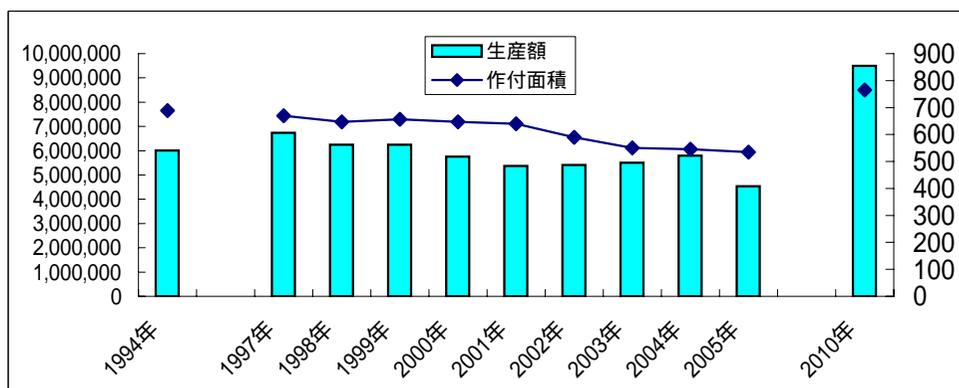
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積			【達成度の評価】平成17年の作付面積は、ビジョン基準年の77.7%と減少している。		
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】生産者の高齢化が進んでおり、今後も作付面積はやや減少するものと想定されるが、出荷方法の改善策等を進める。		
	努力目標	B			
単 収			【達成度の評価】平成17年の単収は、ビジョン基準年の106.6%と増加した。		
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】今後も、栽培技術の向上を図り単収のアップを目指す。		
	努力目標	A			
生産量			【達成度の評価】ビジョン基準年に比べ、単収は増加したものの作付面積が減少したため、生産量は82.8%と減少した。		
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】今後も、作付面積の増加及び単収の向上を図り生産量を伸ばす。		
	努力目標	B			
単価			【達成度の評価】平成17年の単価は、ビジョン基準年の91.2%と下がっている。		
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】今後の単価については、直近の平均販売価格から見るとビジョンの目標に近い価格と想定される。		
	努力目標				

達成度は、A:80%以上、B:50%以上~80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
きゅうり	6年(基準)	1994年	689	6,013,301	31,157	4,522	193
	9年	1997年	670	6,739,699	29,431	4,393	229
	10年	1998年	647	6,242,250	29,725	4,594	210
	11年	1999年	656	6,242,250	29,725	4,531	210
	12年	2000年	647	5,752,782	30,438	4,705	189
	13年	2001年	640	5,368,704	28,864	4,510	186
	14年	2002年	590	5,416,200	26,550	4,500	204
	15年	2003年	550	5,508,100	24,700	4,491	223
	16年	2004年	545	5,798,000	26,000	4,771	223
	17年	2005年	535	4,541,000	25,800	4,822	176
22年(目標)	2010年	765	9,501,300	45,900	6,000	207	
単価 直近5中3							204

年率	01 05	-4.38%	-4.10%	-2.77%	1.69%	-1.37%
	94 05	-2.27%	-2.52%	-1.70%	0.59%	-0.83%
	05 10	7.41%	15.91%	12.21%	4.47%	3.30%
対比	05/01	83.6%	84.6%	89.4%	106.9%	94.6%
	05/94	77.6%	75.5%	82.8%	106.6%	91.2%
	05/10	69.9%	47.8%	56.2%	80.4%	85.0%



## 品目名: スイートコーン

## 野菜の振興

生産・出荷体制の確立を図り、レタス、はくさい、などの葉野菜類を中心に果菜、根菜を含めた野菜総合供給産地づくりを推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		1705	1069	18226	95
努力目標基準年(H10)					
最終年(H17)		1580	759	12000	131
目標年(H22)	ビジョン	1695	1400	23730	111
	努力目標				
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	93.2	54.2	50.6	118.0
	努力目標				

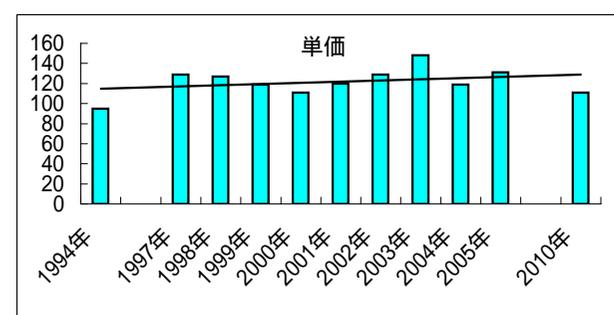
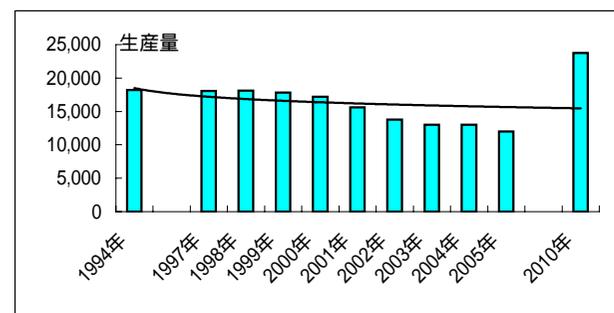
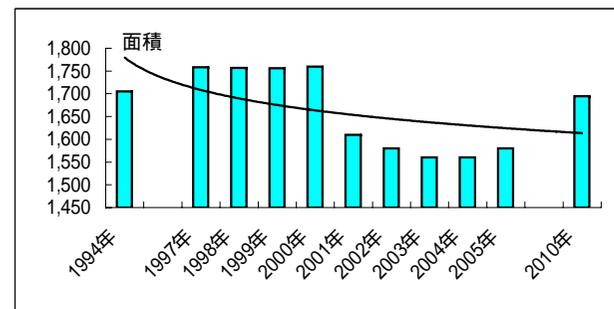
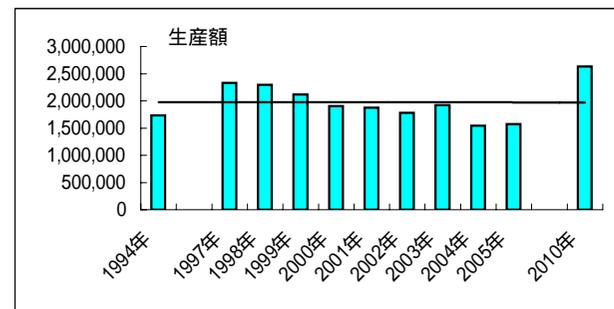
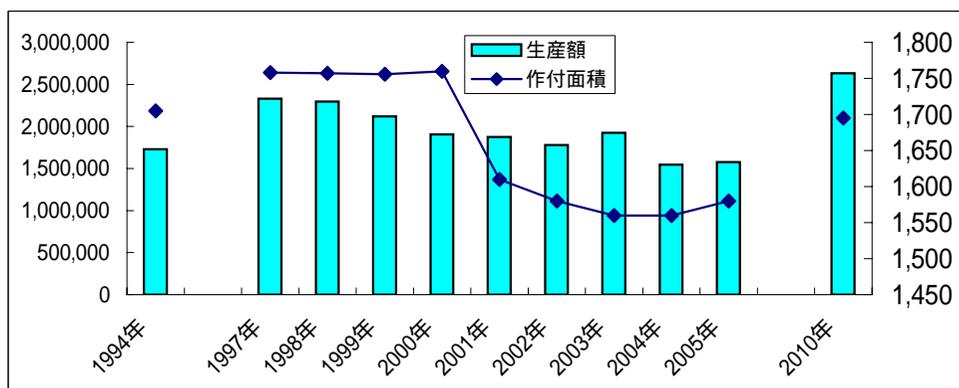
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積			【達成度の評価】平成17年の作付面積は、ビジョン基準年の92.7%と減少している。		
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】生産者の高齢化が進んでおり、今後も作付面積はやや減少するものと想定されるが、輪作作物としての導入で面積の維持を図る。		
	努力目標				
単 収			【達成度の評価】平成17年の単収は、ビジョン基準年の71%と減少している。		
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】今後も、栽培技術の向上を図り単収のアップを目指す。		
	努力目標				
生産量			【達成度の評価】ビジョン基準年に比べ、単収及び作付面積が減少したため、生産量は65.8%と減少した。		
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】需要動向に沿った生産を今後とも推進していく。		
	努力目標				
単価			【達成度の評価】平成17年の単価は、ビジョン基準年の137.9%と上っている。		
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】今後の単価については、直近の平均販売価格から見ると平成17年に近い価格と想定される。		
	努力目標				

達成度は、A: 80%以上、B: 50%以上～80%未満、C: 50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)	
スイートコーン	6年(基準)	1994年	1,705	1,731,470	18,226	1,069	95	
	9年	1997年	1,758	2,329,353	18,057	1,027	129	
	10年	1998年	1,757	2,297,811	18,093	1,030	127	
	11年	1999年	1,756	2,118,676	17,804	1,014	119	
	12年	2000年	1,760	1,907,091	17,181	976	111	
	13年	2001年	1,610	1,874,040	15,617	970	120	
	14年	2002年	1,580	1,780,200	13,800	873	129	
	15年	2003年	1,560	1,924,000	13,000	833	148	
	16年	2004年	1,560	1,547,000	13,000	833	119	
	17年	2005年	1,580	1,576,000	12,000	759	131	
	22年(目標)	2010年	1,695	2,634,030	23,730	1,400	111	
	単価 直近5中3							127

年率	01 05	-0.47%	-4.24%	-6.37%	-5.95%	2.22%
	94 05	-0.69%	-0.85%	-3.73%	-3.07%	2.96%
	05 10	1.42%	10.82%	14.61%	13.03%	-3.26%
対比	05/01	98.1%	84.1%	76.8%	78.2%	109.2%
	05/94	92.7%	91.0%	65.8%	71.0%	137.9%
	05/10	93.2%	59.8%	50.6%	54.2%	118.0%



品目名: その他果菜

野菜の振興

生産・出荷体制の確立を図り、レタス、はくさい、などの葉野菜類を中心に果菜、根菜を含めた野菜総合供給産地づくりを推進する。

区 分	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)	
ビジョン基準年(H6)	2941	2038	59925	130	
努力目標基準年(H10)					
最終年(H17)	2043	1071	21890	179	
目標年(H22)	ビジョン	3265	2116	69087	121
	努力目標				
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	62.6	50.6	31.7	147.9
	努力目標				

目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

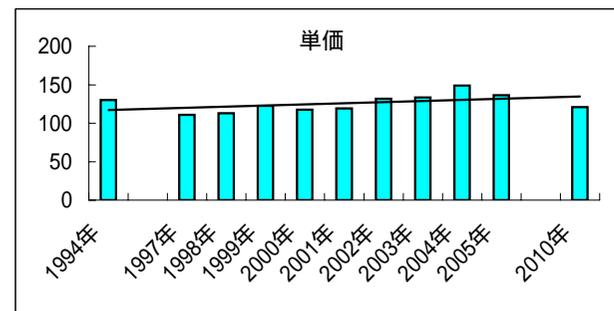
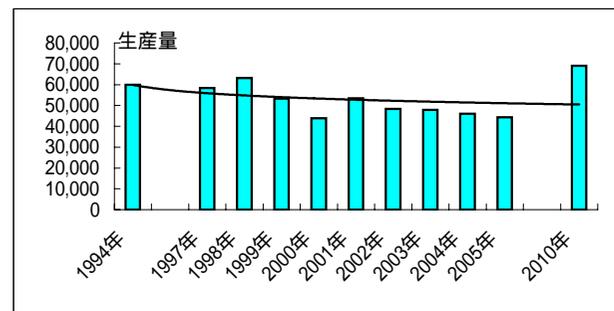
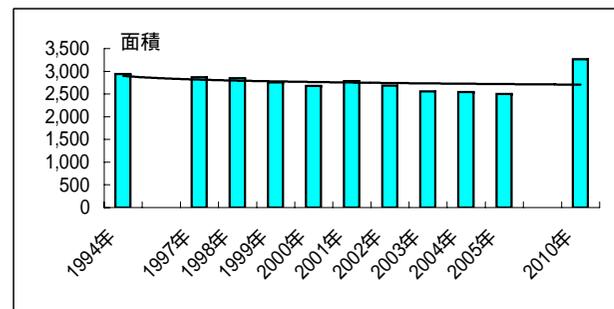
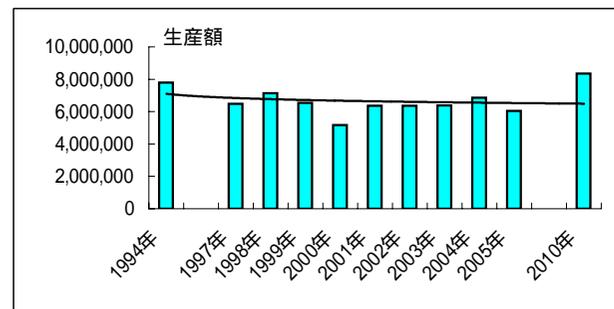
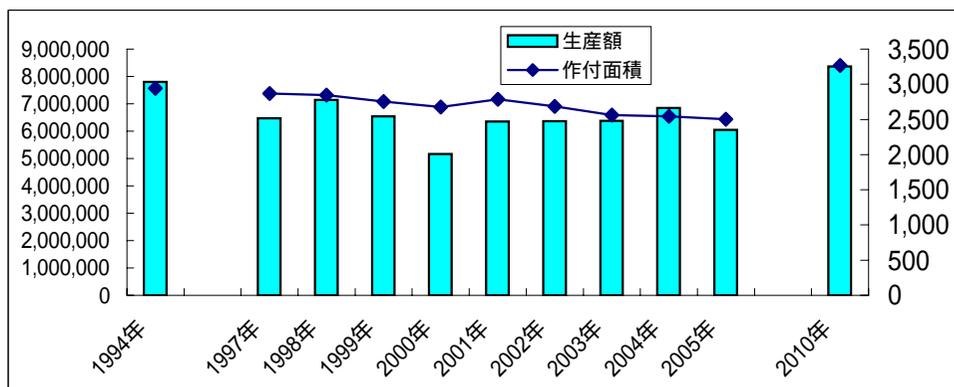
作付面積			[達成度の評価]
達成度	ビジョン	B	[今後の動向]
	努力目標		
単 収			[達成度の評価]
達成度	ビジョン	B	[今後の動向]
	努力目標		
生産量			[達成度の評価]
達成度	ビジョン	C	[今後の動向]
	努力目標		
単価			[達成度の評価]
達成度	ビジョン	A	[今後の動向]
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上~80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
その他果菜類	6年(基準)	1994年	2,941	7,799,764	59,925	2,038	130
	9年	1997年	2,870	6,474,942	58,307	2,032	111
	10年	1998年	2,845	7,142,284	63,154	2,220	113
	11年	1999年	2,754	6,537,617	53,281	1,935	123
	12年	2000年	2,678	5,167,518	43,938	1,641	118
	13年	2001年	2,787	6,353,801	53,364	1,915	119
	14年	2002年	2,686	6,367,858	48,270	1,797	132
	15年	2003年	2,560	6,381,850	47,850	1,869	133
	16年	2004年	2,546	6,851,450	46,050	1,809	149
	17年	2005年	2,503	6,052,100	44,390	1,773	136
	22年(目標)	2010年	3,265	8,359,575	69,087	2,116	121

(注) 9～17年はすいかが入った数字 単価 直近5中3 134

年率	01 05	-2.65%	-1.21%	-4.50%	-1.90%	3.44%
	94 05	-1.46%	-2.28%	-2.69%	-1.26%	0.43%
	05 10	5.46%	6.67%	9.25%	3.59%	-2.36%
対比	05/01	89.8%	95.3%	83.2%	92.6%	114.5%
	05/94	85.1%	77.6%	74.1%	87.0%	104.9%
	05/10	76.7%	72.4%	64.3%	83.8%	112.7%



## 品目名: たまねぎ

## 野菜の振興

生産・出荷体制の確立を図り、レタス、はくさい、などの葉野菜類を中心に果菜、根菜を含めた野菜総合供給産地づくりを推進する。

区 分	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)	
ビジョン基準年(H6)	178	4167	7417	102	
努力目標基準年(H10)					
最終年(H17)	180	2389	4300	59	
目標年(H22)	ビジョン	136	5000	6800	98
	努力目標				
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	132.4	47.8	63.2	60.2
	努力目標				

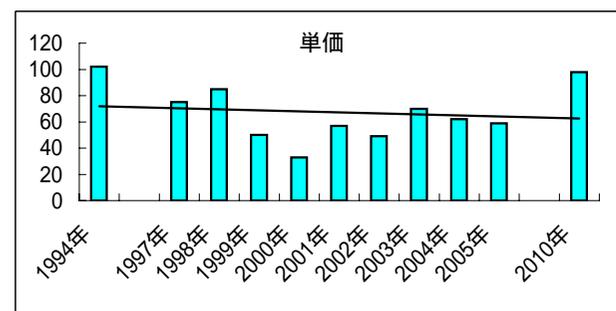
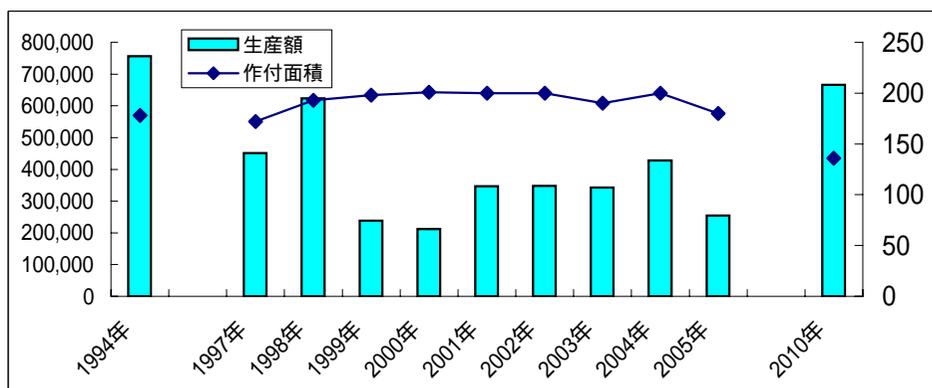
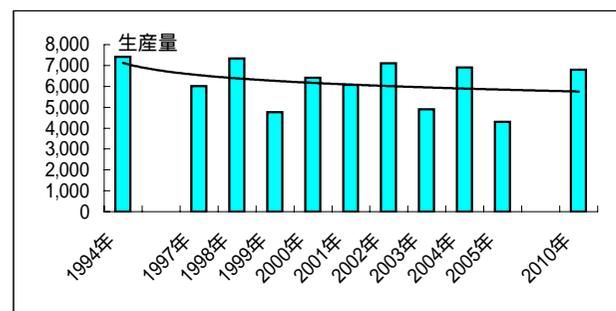
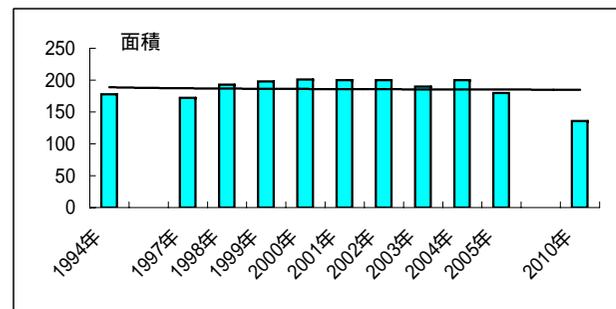
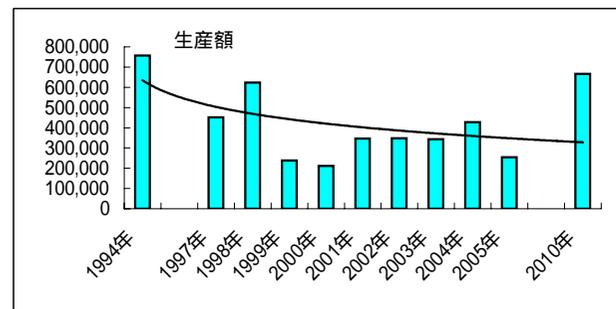
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積		【達成度の評価】平成17年の作付面積は、ビジョン基準年の101.1%と増加している。		
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】生産者の高齢化が進んでおり、今後も作付面積はやや減少するものと想定される。	
	努力目標			
単 収		【達成度の評価】平成17年の単収は、作柄が悪かったこともありビジョン基準年の57.3%と減少した。		
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】今後も、栽培技術の向上を図り単収のアップを目指す。	
	努力目標			
生産量		【達成度の評価】ビジョン基準年に比べ、作付面積はほぼ同等であったものの単収が減少したため、生産量は58%と減少した。		
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】需要動向に沿った生産を今後とも推進していく。	
	努力目標			
単価		【達成度の評価】平成17年の単価は、ビジョン基準年の57.8%と下がっている。		
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】今後の単価については、直近の平均販売価格から見ると平成17年に近い価格と想定される。	
	努力目標			

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)	
たまねぎ	6年(基準)	1994年	178	756,534	7,417	4,167	102	
	9年	1997年	172	450,900	6,012	3,495	75	
	10年	1998年	193	623,475	7,335	3,801	85	
	11年	1999年	198	238,400	4,768	2,408	50	
	12年	2000年	201	211,464	6,408	3,188	33	
	13年	2001年	200	346,560	6,080	3,040	57	
	14年	2002年	200	347,900	7,100	3,550	49	
	15年	2003年	190	343,000	4,900	2,476	70	
	16年	2004年	200	427,800	6,900	3,450	62	
	17年	2005年	180	254,000	4,300	2,389	59	
	22年(目標)	2010年	136	666,400	6,800	5,000	98	
	単価 直近5中3							59

年率	01 05	-2.60%	-7.47%	-8.30%	-5.85%	0.87%
	94 05	0.10%	-9.45%	-4.84%	-4.93%	-4.85%
	05 10	-5.45%	21.28%	9.60%	15.92%	10.68%
対比	05/01	90.0%	73.3%	70.7%	78.6%	103.5%
	05/94	101.1%	33.6%	58.0%	57.3%	57.8%
	05/10	132.4%	38.1%	63.2%	47.8%	60.2%



## 品目名: だいこん

## 野菜の振興

生産・出荷体制の確立を図り、レタス、はくさい、などの葉野菜類を中心に果菜、根菜を含めた野菜総合供給産地づくりを推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		1765	2169	38283	53
努力目標基準年(H10)					
最終年(H17)		935	2995	28000	48
目標年(H22)	ビジョン	1589	3130	49736	53
	努力目標				
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	58.8	95.7	56.3	90.6
	努力目標				

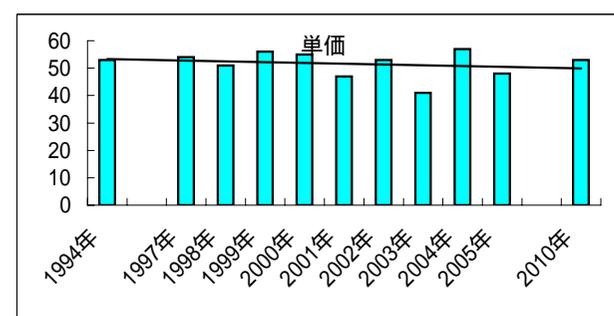
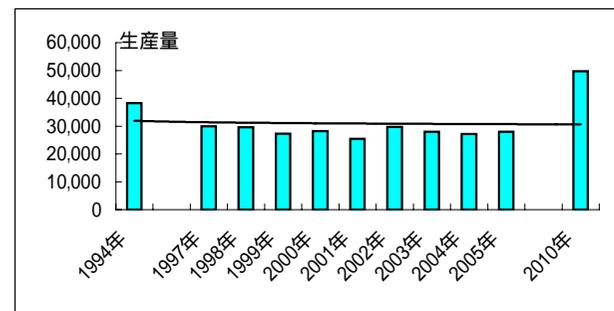
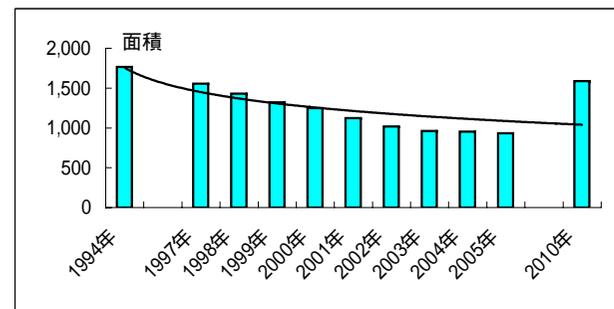
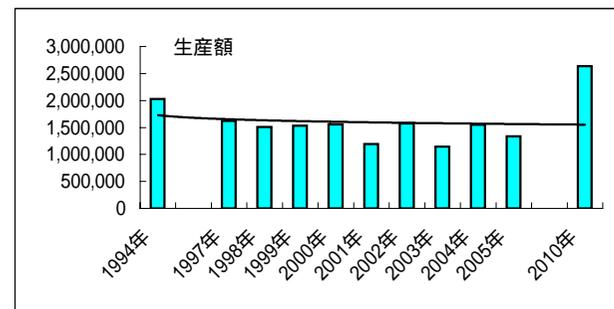
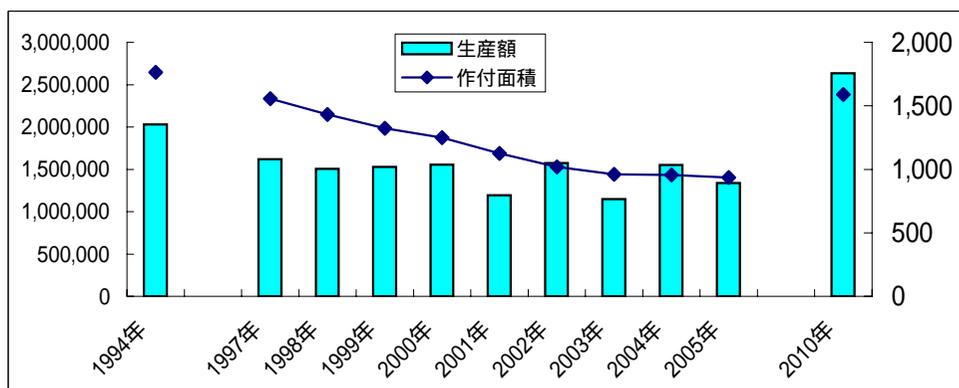
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積			[達成度の評価] 平成17年の作付面積は、ビジョン基準年の53%と減少している。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 生産者の高齢化が進んでおり、今後も作付面積はやや減少するものと想定される。
	努力目標		
単 収			[達成度の評価] 平成17年の単収は、ビジョン基準年の138.1%と増加した。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 今後も、栽培技術の向上を図り単収のアップを目指す。
	努力目標		
生産量			[達成度の評価] ビジョン基準年に比べ、単収は増加したものの作付面積が大きく減少したため、生産量は73.1%と減少した。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 需要動向に沿った生産を今後とも推進していく。
	努力目標		
単価			[達成度の評価] 平成17年の単価は、ビジョン基準年の90.6%と下がっている。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 今後の単価については、直近の平均販売価格から見ると平成17年に近い価格と想定される。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)	
だいこん	6年(基準)	1994年	1,765	2,028,999	38,283	2,169	53	
	9年	1997年	1,556	1,619,352	29,988	1,927	54	
	10年	1998年	1,432	1,506,438	29,538	2,063	51	
	11年	1999年	1,323	1,530,088	27,323	2,065	56	
	12年	2000年	1,250	1,553,860	28,252	2,260	55	
	13年	2001年	1,125	1,194,975	25,425	2,260	47	
	14年	2002年	1,020	1,573,040	29,680	2,910	53	
	15年	2003年	960	1,148,000	28,000	2,917	41	
	16年	2004年	955	1,550,400	27,200	2,848	57	
	17年	2005年	935	1,338,000	28,000	2,995	48	
	22年(目標)	2010年	1,589	2,636,010	49,736	3,130	53	
	単価 直近5中3							49

年率	01 05	-4.52%	2.87%	2.44%	7.29%	0.53%
	94 05	-5.61%	-3.71%	-2.80%	2.98%	-0.90%
	05 10	11.19%	14.52%	12.18%	0.89%	2.00%
対比	05/01	83.1%	112.0%	110.1%	132.5%	102.1%
	05/94	53.0%	65.9%	73.1%	138.1%	90.6%
	05/10	58.8%	50.8%	56.3%	95.7%	90.6%



品目名: にんじん

## 野菜の振興

生産・出荷体制の確立を図り、レタス、はくさい、などの葉野菜類を中心に果菜、根菜を含めた野菜総合供給産地づくりを推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		283	1750	4953	60
努力目標基準年(H10)					
最終年(H17)		135	1333	1800	58
目標年(H22)	ビジョン	157	2500	3925	69
	努力目標				
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	86.0	53.3	45.9	84.1
	努力目標				

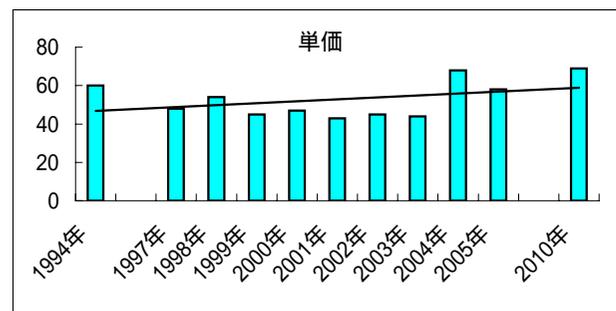
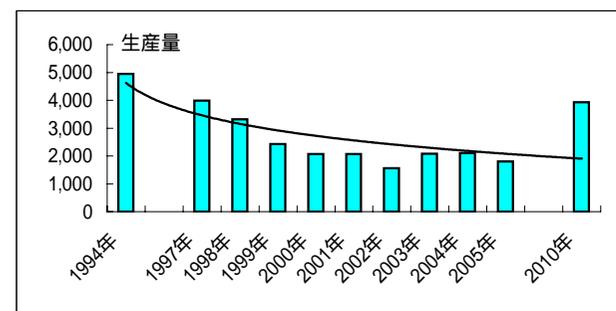
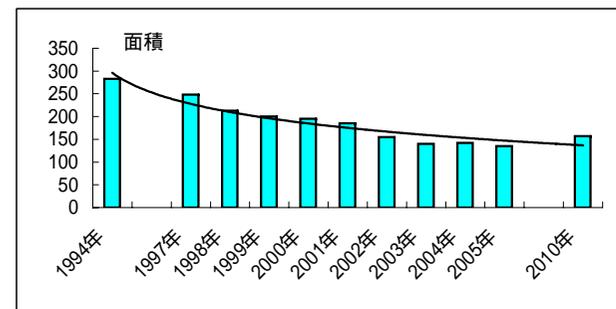
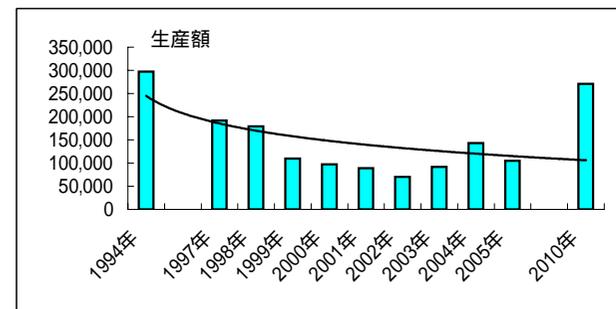
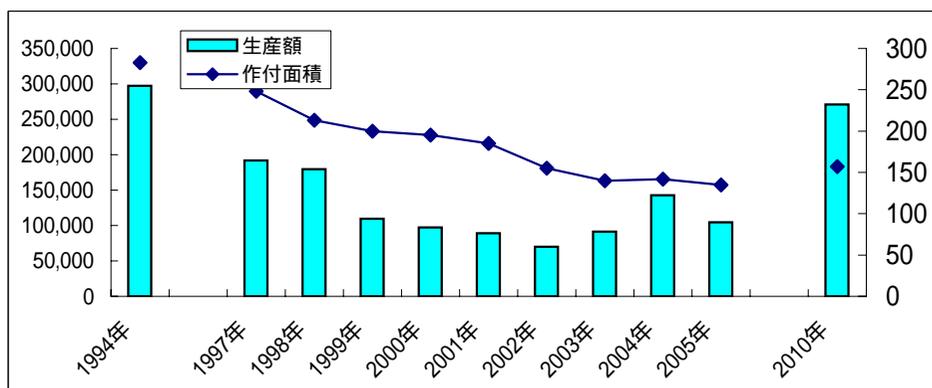
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積			[達成度の評価] 平成17年の作付面積は、ビジョン基準年の47.7%と減少している。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 生産者の高齢化が進んでおり、今後も作付面積は減少するものと想定される。
	努力目標		
単 収			[達成度の評価] 平成17年の単収は、ビジョン基準年の76.2%と減少した。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 今後は、栽培技術の向上を図り単収のアップを目指す。
	努力目標		
生産量			[達成度の評価] ビジョン基準年に比べ、単収、作付面積が大きく減少したため、生産量は36.3%と減少した。
達成度	ビジョン	C	[今後の動向] 需要動向に沿った生産を今後とも推進していく。
	努力目標		
単価			[達成度の評価] 平成17年の単価は、ビジョン基準年の96.7%と下がっている。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 今後の単価については、直近の平均販売価格から見ると下がると想定される。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上~80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)	
にんじん	6年(基準)	1994年	283	297,180	4,953	1,750	60	
	9年	1997年	248	191,712	3,994	1,611	48	
	10年	1998年	213	179,442	3,323	1,560	54	
	11年	1999年	200	109,440	2,432	1,216	45	
	12年	2000年	195	97,478	2,074	1,064	47	
	13年	2001年	185	88,881	2,067	1,060	43	
	14年	2002年	155	70,200	1,560	1,006	45	
	15年	2003年	140	91,520	2,080	1,486	44	
	16年	2004年	142	142,800	2,100	1,479	68	
	17年	2005年	135	104,700	1,800	1,333	58	
	22年(目標)	2010年	157	270,825	3,925	2,500	69	
	単価 直近5中3							49

年率	01 05	-7.57%	4.18%	-3.40%	5.90%	7.77%
	94 05	-6.51%	-9.05%	-8.79%	-2.44%	-0.31%
	05 10	3.07%	20.93%	16.87%	13.40%	3.53%
対比	05/01	73.0%	117.8%	87.1%	125.8%	134.9%
	05/94	47.7%	35.2%	36.3%	76.2%	96.7%
	05/10	86.0%	38.7%	45.9%	53.3%	84.1%



品目名：ながいも

## 野菜の振興

生産・出荷体制の確立を図り、レタス、はくさい、などの葉洋菜類を中心に果菜、根菜を含めた野菜総合供給産地づくりを推進する。

区 分	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)	
ビジョン基準年(H6)	522	2248	11735	347	
努力目標基準年(H10)					
最終年(H17)	375	4133	15500	90	
目標年(H22)	ビジョン	458	2610	11954	258
	努力目標				
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	81.9	158.4	129.7	34.9
	努力目標				

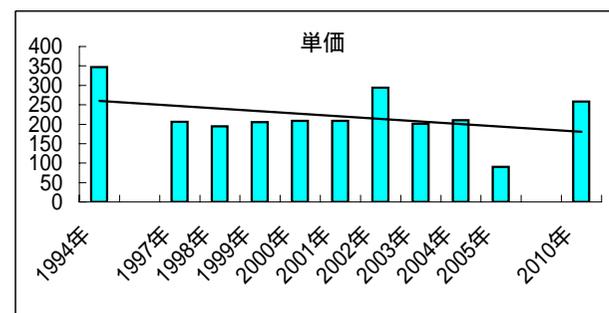
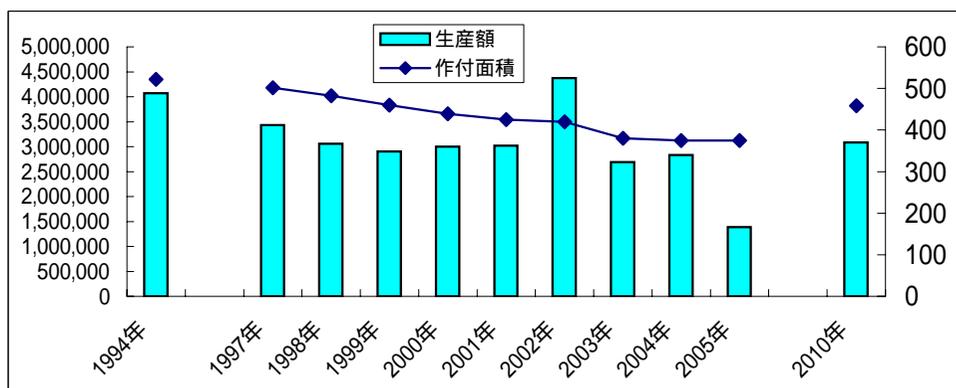
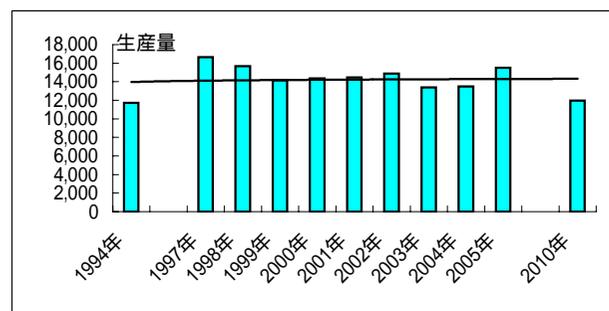
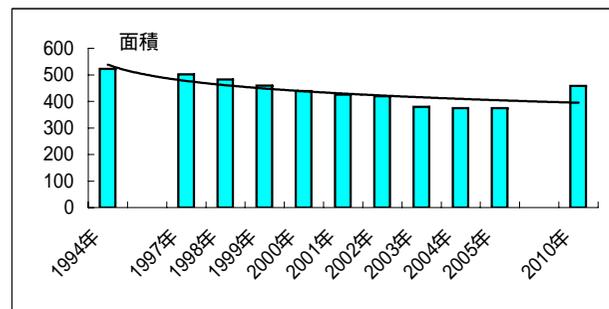
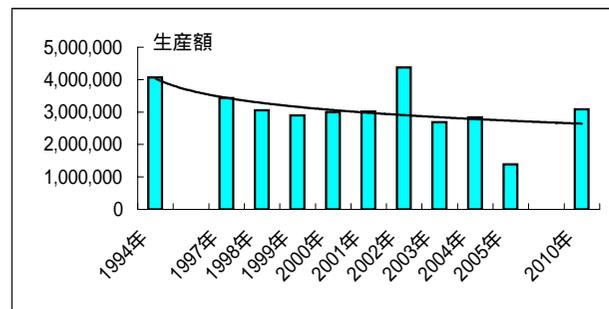
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積			[達成度の評価] 平成17年の作付面積は、ビジョン基準年の71.8%と減少している。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 今後、作付面積は横ばいからやや減少するものと想定されるが、輪作作物としての導入で面積を維持する。
	努力目標		
単 収			[達成度の評価] 平成17年の単収は、作柄が良かったことからビジョン基準年の183.9%と増加した。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 今後も、現状の単収の維持を目指す。
	努力目標		
生産量			[達成度の評価] ビジョン基準年に比べ、作付面積は減少したものの単収が大きく増加したため、生産量は132.1%と増加した。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 需要動向に沿った生産を今後とも推進していく。
	努力目標		
単価			[達成度の評価] 平成17年の単価は、大きく低迷したためビジョン基準年の25.9%で257円下がっている。
達成度	ビジョン	C	[今後の動向] 今後の単価については、直近の平均販売価格から見ると著しく低迷した平成17年の価格は上回ると想定される。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)	
ながいも	6年(基準)	1994年	522	4,072,045	11,735	2,248	347	
	9年	1997年	502	3,430,106	16,651	3,317	206	
	10年	1998年	482	3,058,575	15,685	3,254	195	
	11年	1999年	460	2,900,340	14,148	3,076	205	
	12年	2000年	439	2,998,314	14,346	3,268	209	
	13年	2001年	425	3,020,050	14,450	3,400	209	
	14年	2002年	420	4,374,720	14,880	3,543	294	
	15年	2003年	380	2,693,400	13,400	3,526	201	
	16年	2004年	375	2,835,000	13,500	3,600	210	
	17年	2005年	375	1,388,600	15,500	4,133	90	
	22年(目標)	2010年	458	3,084,130	11,954	2,610	258	
	単価 直近5中3							207

年率	01 05	-3.08%	-17.65%	1.77%	5.00%	-18.99%
	94 05	-2.96%	-9.32%	2.56%	5.69%	-11.55%
	05 10	4.08%	17.30%	-5.06%	-8.78%	23.45%
対比	05/01	88.2%	46.0%	107.3%	121.6%	43.1%
	05/94	71.8%	34.1%	132.1%	183.9%	25.9%
	05/10	81.9%	45.0%	129.7%	158.4%	34.9%



品目名：ばれいしょ

## 野菜の振興

生産・出荷体制の確立を図り、レタス、はくさい、などの葉野菜類を中心に果菜、根菜を含めた野菜総合供給産地づくりを推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		1705	1303	22216	67
努力目標基準年(H10)					
最終年(H17)		1290	1860	24000	65
目標年(H22)	ビジョン	1449	2290	33182	67
	努力目標				
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	89.0	81.2	72.3	97.0
	努力目標				

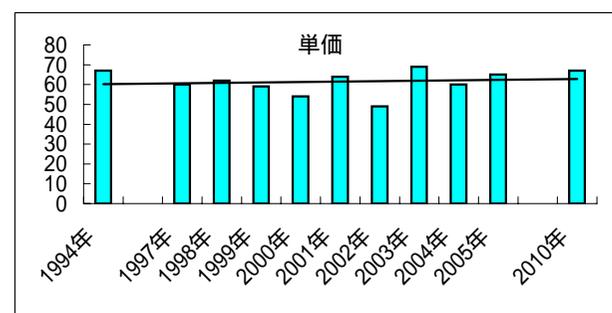
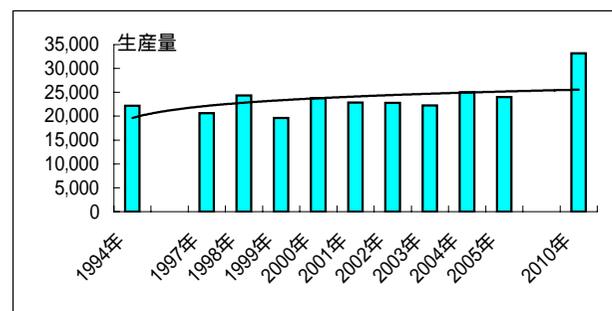
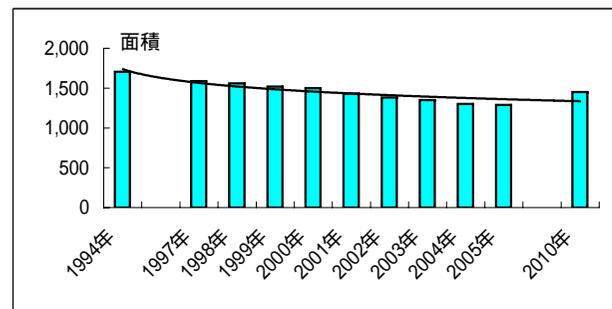
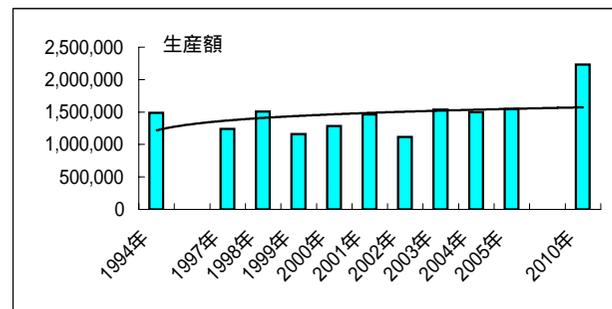
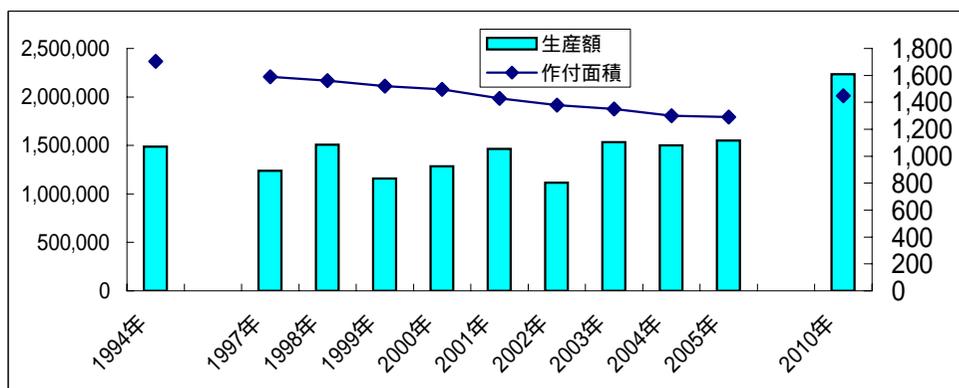
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積			[達成度の評価] 平成17年の作付面積は、ビジョン基準年の75.7%と減少している。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 今後、作付面積は横ばいからやや減少するものと想定されるが、銘柄産地の維持や地産地消栽培を推進する。
	努力目標		
単 収			[達成度の評価] 平成17年の単収は、ビジョン基準年の142.7%と増加した。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 今後も、栽培技術の向上により単収のアップを目指す。
	努力目標		
生産量			[達成度の評価] ビジョン基準年に比べ、作付面積は減少したものの単収が大きく増加したため、生産量は132.1%と増加した。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 需要動向に沿った生産を今後とも推進していく。
	努力目標		
単価			[達成度の評価] 平成17年の単価は、ビジョン基準年とほぼ同等の97%となっている。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 今後の単価については、直近の平均販売価格から見ると17年の価格を下回ると想定される。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
ばれいしょ	6年(基準)	1994年	1,705	1,488,472	22,216	1,303	67
	9年	1997年	1,589	1,237,800	20,630	1,298	60
	10年	1998年	1,560	1,508,026	24,323	1,559	62
	11年	1999年	1,521	1,159,527	19,653	1,292	59
	12年	2000年	1,497	1,285,200	23,800	1,590	54
	13年	2001年	1,430	1,464,320	22,880	1,600	64
	14年	2002年	1,380	1,115,730	22,770	1,650	49
	15年	2003年	1,350	1,535,250	22,250	1,648	69
	16年	2004年	1,300	1,500,000	25,000	1,923	60
	17年	2005年	1,290	1,550,000	24,000	1,860	65
22年(目標)	2010年	1,449	2,233,190	33,182	2,290	67	
単価 直近5中3							63

年率	01 05	-2.54%	1.43%	1.20%	3.84%	0.39%
	94 05	-2.50%	0.37%	0.70%	3.29%	-0.28%
	05 10	2.35%	7.58%	6.69%	4.25%	0.61%
対比	05/01	90.2%	105.9%	104.9%	116.3%	101.6%
	05/94	75.7%	104.1%	108.0%	142.7%	97.0%
	05/10	89.0%	69.4%	72.3%	81.2%	97.0%



品目名：その他根菜

野菜の振興

生産・出荷体制の確立を図り、レタス、はくさい、などの葉野菜類を中心に果菜、根菜を含めた野菜総合供給産地づくりを推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		1052	1963	20654	70
努力目標基準年(H10)					
最終年(H17)		805	1739	14000	78
目標年(H22)	ビジョン	900	1903	17127	63
	努力目標				
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	89.4	91.4	81.7	123.8
	努力目標				

目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

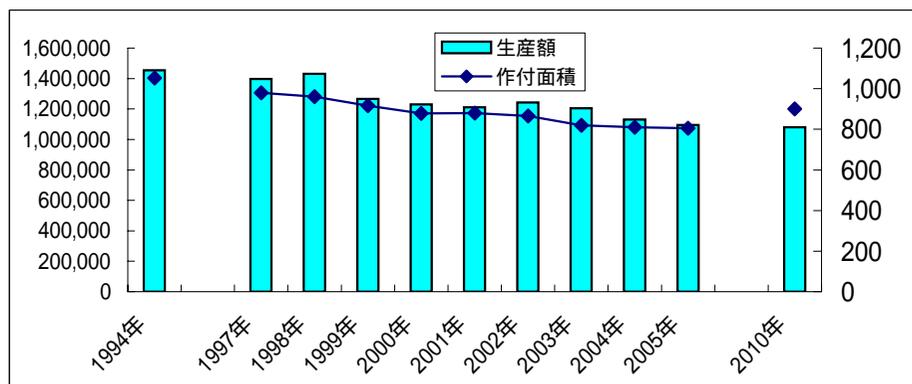
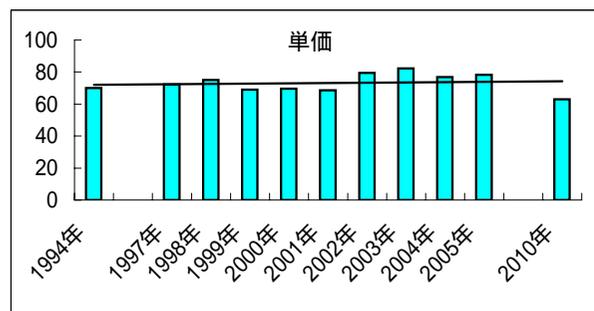
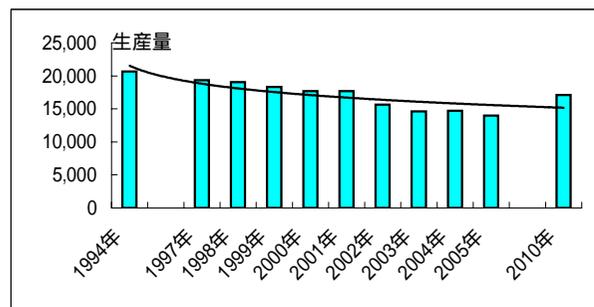
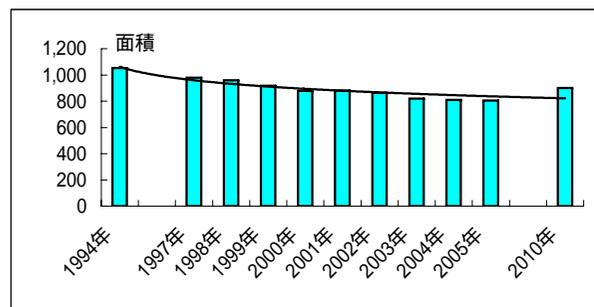
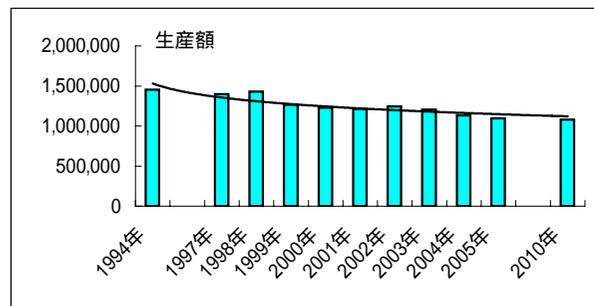
作付面積			[達成度の評価]
達成度	ビジョン	A	[今後の動向]
	努力目標		
単 収			[達成度の評価]
達成度	ビジョン	A	[今後の動向]
	努力目標		
生産量			[達成度の評価]
達成度	ビジョン	A	[今後の動向]
	努力目標		
単価			[達成度の評価]
達成度	ビジョン	A	[今後の動向]
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
その他根菜類	6年(基準)	1994年	1,052	1,454,408	20,654	1,963	70
	9年	1997年	980	1,397,125	19,352	1,975	72
	10年	1998年	960	1,431,450	19,065	1,986	75
	11年	1999年	917	1,265,765	18,321	1,998	69
	12年	2000年	878	1,229,750	17,689	2,015	70
	13年	2001年	880	1,211,760	17,680	2,009	69
	14年	2002年	865	1,243,290	15,630	1,807	80
	15年	2003年	820	1,204,140	14,620	1,783	82
	16年	2004年	810	1,130,900	14,700	1,815	77
	17年	2005年	805	1,095,000	14,000	1,739	78
	22年(目標)	2010年	900	1,079,001	17,127	1,903	63

単価 直近5中3 78

年率	01 05	-2.20%	-2.50%	-5.67%	-3.54%	3.36%
	94 05	-2.40%	-2.55%	-3.47%	-1.09%	1.01%
	05 10	2.26%	-0.29%	4.11%	1.82%	-4.23%
対比	05/01	91.5%	90.4%	79.2%	86.6%	114.1%
	05/94	76.5%	75.3%	67.8%	88.6%	111.7%
	05/10	89.4%	101.5%	81.7%	91.4%	124.1%



品目名: キク

需要を先取りしたオリジナル品種の育成、優良種苗の確保及び生産コストの低減を図り、個性と活力ある産地づくりを推進する。

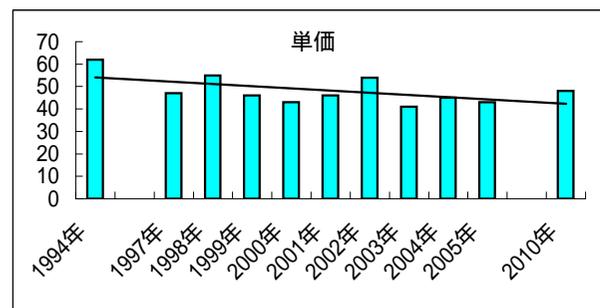
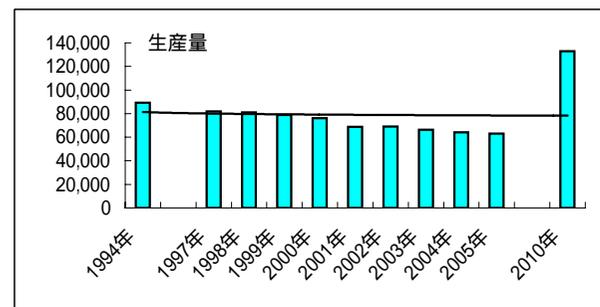
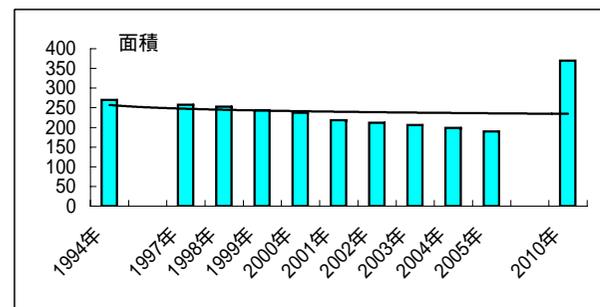
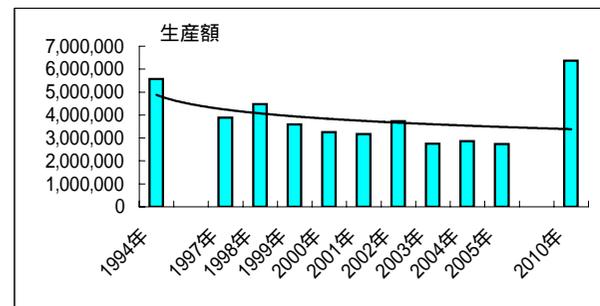
区 分	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)	
ビジョン基準年(H6)	270	33093	89352	62	
努力目標基準年(H10)	253	32805	81175		
最終年(H17)	190	33207	63003	43	
目標年(H22)	ビジョン	370	35900	132830	48
	努力目標	256	35000	89600	
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	51.4	92.5	47.4	89.6
	努力目標	74.2	94.9	70.3	

## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

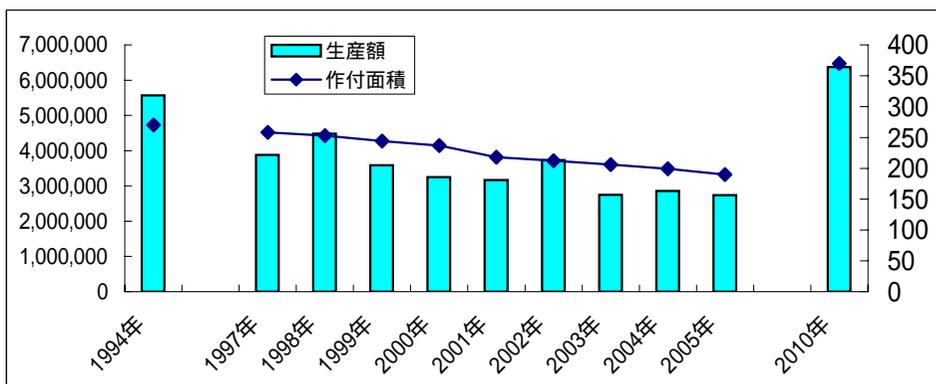
作付面積			【達成度の評価】 生産者の高齢化の進行、単価安などから年率3%を超えた減少傾向となり、ビジョンに対し51.4%、努力目標に対し74.2%であった。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 今後も一定程度、減少傾向が継続するものと見込まれるが、種苗供給体制の整備により面積を維持する。
	努力目標	B	
単 収			【達成度の評価】 達成度は、ビジョンに対し92.5%、努力目標に対し94.9%であった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 今後は、概ね現状程度で推移することが見込まれるが、施設の有効利用などにより向上を図る。
	努力目標	A	
生産量			【達成度の評価】 作付けの減少に伴い、ビジョンに対し47.4%、努力目標に対し70.3%であった。
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】 今後も一定程度の減少が継続するものと見込まれるが、開花調整技術の導入等による作期の拡大により生産量を確保する。
	努力目標	A	
単価			【達成度の評価】 達成度はビジョンに対し89.6%であった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 品質向上、品種選択などにより価格の確保を図る。
	努力目標	-	

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西曆	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (千本)	単収 (本/10a)	単価 (円/本)
キウ	6年(基準)	1994年	270	5,570,000	89,352	33,093	62
	9年	1997年	258	3,880,143	81,855	31,727	47
	10年	1998年	253	4,478,237	81,175	32,085	55
	11年	1999年	244	3,587,261	78,784	32,282	46
	12年	2000年	237	3,250,372	76,229	32,184	43
	13年	2001年	218	3,170,204	68,858	31,555	46
	14年	2002年	212	3,731,963	68,979	32,488	54
	15年	2003年	206	2,744,323	66,269	32,098	41
	16年	2004年	199	2,856,930	64,095	32,258	45
	17年	2005年	190	2,734,954	63,003	33,207	43
22年(目標)	2010年	370	6,370,000	132,830	35,900	48	
単価 直近5中3							45



年率	01 05	-3.38%	-3.62%	-2.20%	1.28%	-1.67%
	94 05	-3.14%	-6.26%	-3.13%	0.03%	-3.27%
	05 10	14.26%	18.42%	16.09%	1.57%	2.22%
対比	05/01	87.2%	86.3%	91.5%	105.2%	93.5%
	05/94	70.4%	49.1%	70.5%	100.3%	69.4%
	05/10	51.4%	42.9%	47.4%	92.5%	89.6%



品目名: カーネーション

需要を先取りしたオリジナル品種の育成、優良種苗の確保及び生産コストの低減を図り、個性と活力ある産地づくりを推進する。

区 分	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)	
ビジョン基準年(H6)	125	113738	142173	39	
努力目標基準年(H10)	108	120824	130490		
最終年(H17)	95	114118	108332	37	
目標年(H22)	ビジョン	170	133200	226440	40
	努力目標	113	132000	149160	
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	55.9	85.7	47.8	92.5
	努力目標	84.1	86.5	72.6	

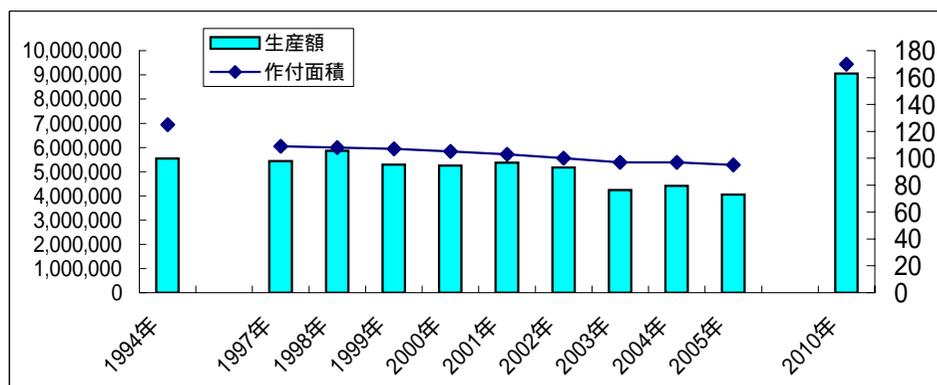
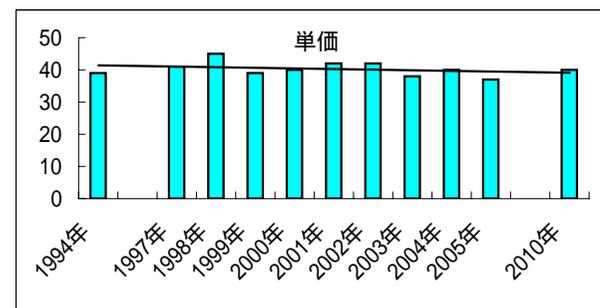
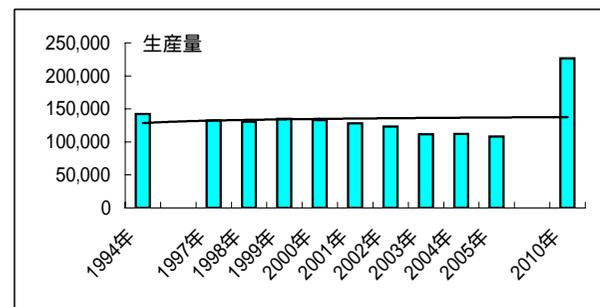
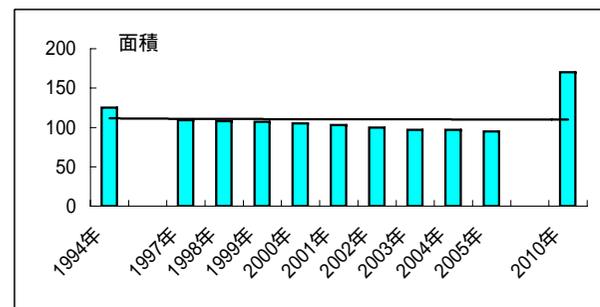
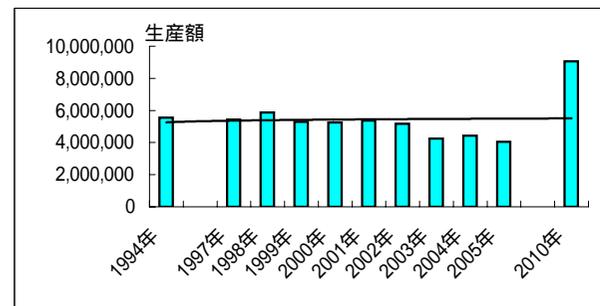
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積			【達成度の評価】 栽培者の高齢化等から年率2%を越える減少傾向であり、達成度はビジョンに対し55.9%、努力目標に対し84.1%であった。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 今後も一定程度の減少傾向が続くことが見込まれるが、秋切り作型の推進などにより面積の維持を図る。
	努力目標	A	
単 収			【達成度の評価】 達成度は、ビジョンに対し85.7%、努力目標に対し86.5%であった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 今後とも安定生産等を図り、単収の確保に努める。
	努力目標	A	
生産量			【達成度の評価】 作付面積の減少に伴い生産量が減少し、ビジョンに対し47.8%、努力目標に対し72.6%であった。
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】 周年出荷の作型導入などを図り、生産量の確保に努める。
	努力目標	B	
単価			【達成度の評価】 達成度はビジョンに対し92.5%であった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 作型分散と計画生産・出荷、鮮度保持流通への取組などにより、単価の確保をめざす。
	努力目標	-	

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (千本)	単収 (本/10a)	単価 (円/本)
カーネーション	6年(基準)	1994年	125	5,551,000	142,173	113,738	39
	9年	1997年	109	5,439,413	132,356	121,428	41
	10年	1998年	108	5,863,797	130,490	120,824	45
	11年	1999年	107	5,292,905	135,050	126,522	39
	12年	2000年	105	5,252,707	133,109	126,871	40
	13年	2001年	103	5,371,356	128,007	124,787	42
	14年	2002年	100	5,170,067	123,088	123,583	42
	15年	2003年	97	4,245,665	111,401	114,422	38
	16年	2004年	97	4,420,658	111,851	115,120	40
	17年	2005年	95	4,050,380	108,332	114,118	37
22年(目標)	2010年	170	9,060,000	226,440	133,200	40	
単価 直近5中3							40

年率	01 05	-2.00%	-6.81%	-4.09%	-2.21%	-3.12%
	94 05	-2.46%	-2.82%	-2.44%	0.03%	-0.48%
	05 10	12.34%	17.47%	15.89%	3.14%	1.57%
対比	05/01	92.2%	75.4%	84.6%	91.5%	88.1%
	05/94	76.0%	73.0%	76.2%	100.3%	94.9%
	05/10	55.9%	44.7%	47.8%	85.7%	92.5%



品目名: リンドウ

需要を先取りしたオリジナル品種の育成、優良種苗の確保及び生産コストの低減を図り、個性と活力ある産地づくりを推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		97	22408	21736	44
努力目標基準年(H10)		92	26133	24042	
最終年(H17)		53	28756	15353	33
目標年(H22)	ビジョン	155	37000	57350	41
	努力目標	93	33848	31479	
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	34.2	77.7	26.8	80.5
	努力目標	57.0	85.0	48.8	

## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

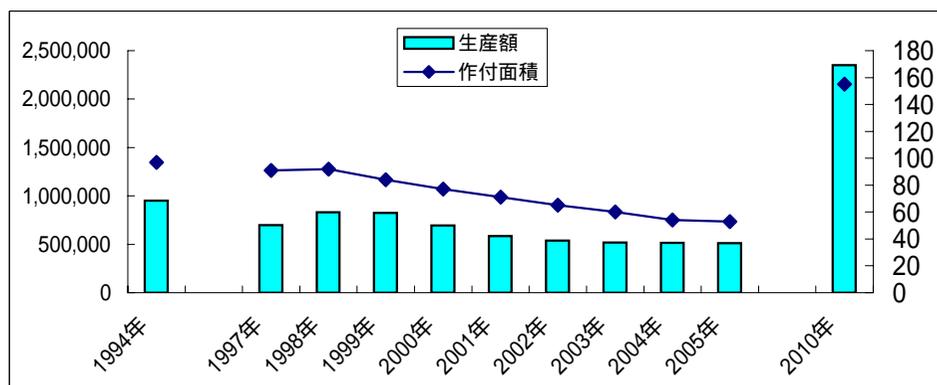
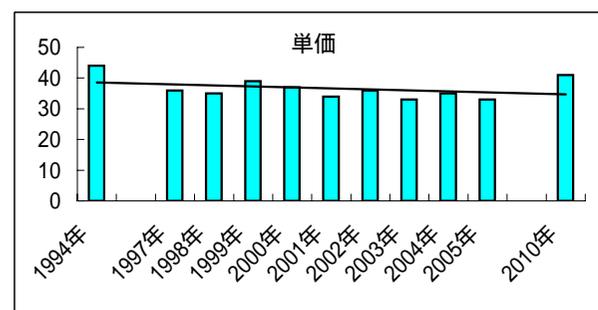
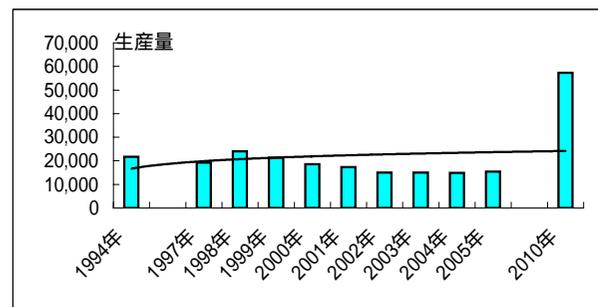
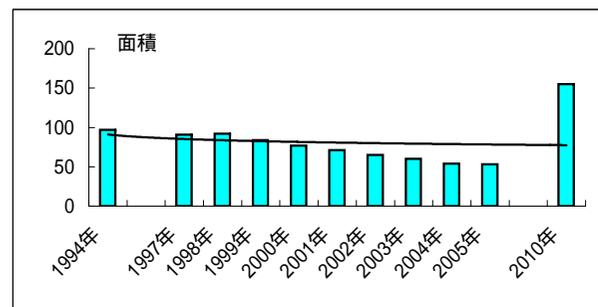
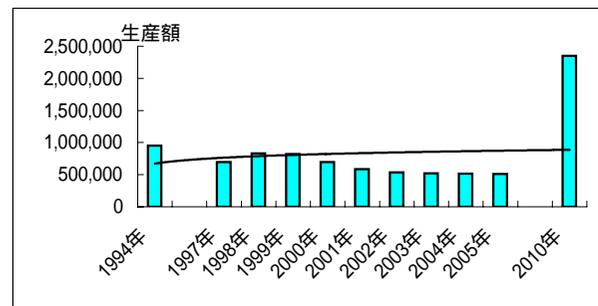
作付面積		【達成度の評価】ここ10年は年率5%を超えた減少傾向で、達成度はビジョンに対し34.2%、努力目標に対し57.0%であった。			
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】今後ともリンドウ振興プランに沿ってオリジナル品種導入等により拡大に向けた取り組みを進める。		
	努力目標	B			
単 収		【達成度の評価】近年、新植園の成園化による単収の増加が見られるが、達成度はビジョンに対し77.7%、努力目標に対し85.0%であった。			
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】今後も現状に近い収量が見込まれる。		
	努力目標	A			
生産量		【達成度の評価】達成度は、ビジョンに対し26.8%、努力目標に対し48.8%であった。			
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】今後は現状程度が見込まれるが、振興プランに沿った取り組みを進める。		
	努力目標	C			
単価		【達成度の評価】達成度は、ビジョンに対し80.5%であった。			
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】今後はオリジナル品種の生産拡大などにあわせ、品質向上を進める取り組みを行い、単価の確保を図る。		
	努力目標	-			

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (千本)	単収 (本/10a)	単価 (円/本)
リンドウ	6年(基準)	1994年	97	950,000	21,736	22,408	44
	9年	1997年	91	697,655	19,212	21,112	36
	10年	1998年	92	831,192	24,042	26,133	35
	11年	1999年	84	823,339	21,245	25,250	39
	12年	2000年	77	695,738	18,622	24,154	37
	13年	2001年	71	586,591	17,307	24,407	34
	14年	2002年	65	538,530	15,004	22,987	36
	15年	2003年	60	519,636	15,065	24,950	33
	16年	2004年	54	516,684	14,912	27,836	35
	17年	2005年	53	512,200	15,353	28,756	33
22年(目標)	2010年	155	2,351,000	57,350	37,000	41	

単価 直近5中3 34

年率	01 05	-7.05%	-3.33%	-2.95%	4.18%	-0.74%
	94 05	-5.35%	-5.46%	-3.11%	2.29%	-2.58%
	05 10	23.94%	35.63%	30.16%	5.17%	4.44%
対比	05/01	74.6%	87.3%	88.7%	117.8%	97.1%
	05/94	54.6%	53.9%	70.6%	128.3%	75.0%
	05/10	34.2%	21.8%	26.8%	77.7%	80.5%



## 品目名：トルコギキョウ

需要を先取りしたオリジナル品種の育成、優良種苗の確保及び生産コストの低減を図り、個性と活力ある産地づくりを推進する。

区 分	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)	
ビジョン基準年(H6)	76	37779	28712	59	
努力目標基準年(H10)	66	35412	23372		
最終年(H17)	67	31132	20959	72	
目標年(H22)	ビジョン	135	39000	52650	60
	努力目標	90	36255	32630	
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	49.6	79.8	39.8	120.0
	努力目標	74.4	85.9	64.2	

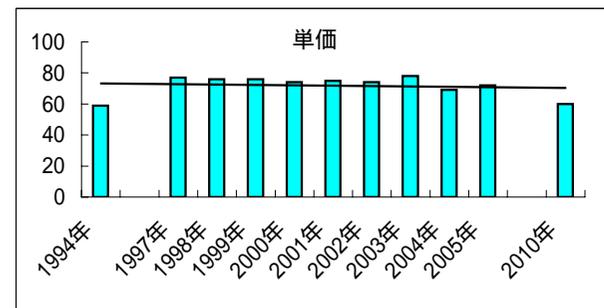
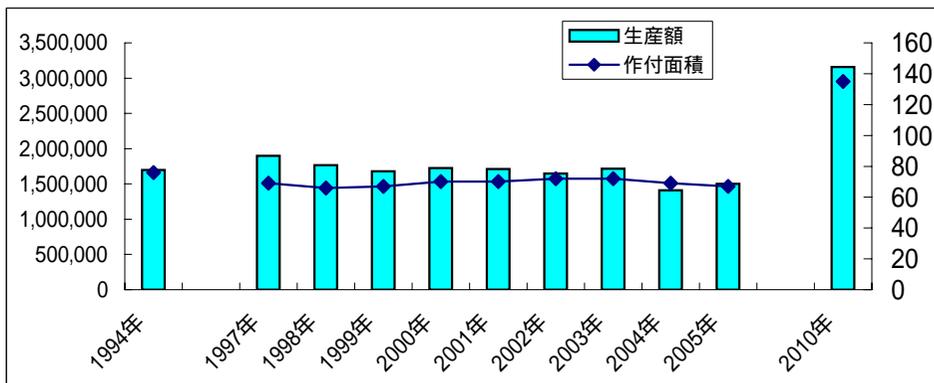
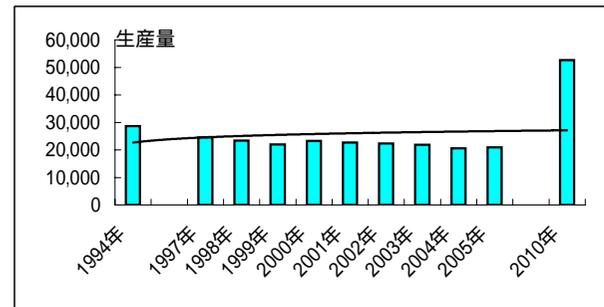
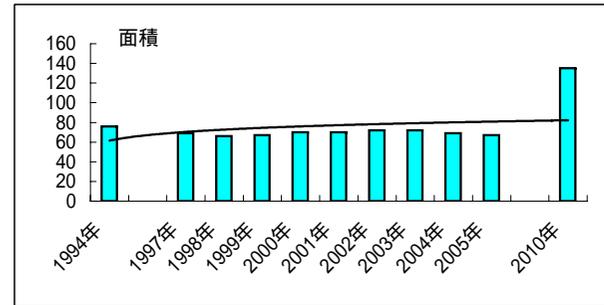
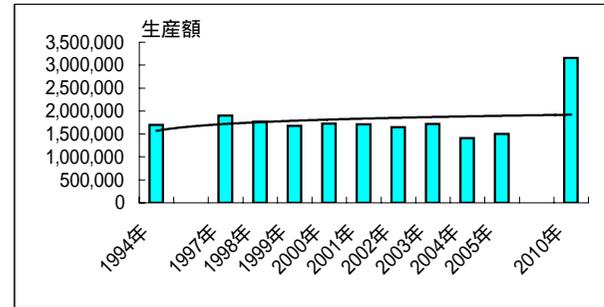
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積		【達成度の評価】 達成度は、ビジョンに対し49.6%、努力目標に対し74.4%であった。		
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】 種苗の安定供給と種子冷・稚苗定植技術による抑制作型の普及を進め、面積の維持を図る。	
	努力目標	B		
単 収		【達成度の評価】 微減傾向が続いており、達成度はビジョンに対し79.8%、努力目標に対し85.9%であった。		
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 今後も安定生産を図る。	
	努力目標	A		
生産量		【達成度の評価】 達成度は、ビジョンに対し39.8%、努力目標に対し85.9%であった。		
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】 種苗の安定供給、抑制作型の拡大により生産量の増加を図っていく。	
	努力目標	B		
単価		【達成度の評価】 単価が安定しており、達成度はビジョンに対し120.0%であった。		
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 作期の拡大による出荷分散、鮮度保持流通の導入等により単価の維持を図る。	
	努力目標			

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (千本)	単収 (本/10a)	単価 (円/本)
トルコキョウ	6年(基準)	1994年	76	1,696,000	28,712	37,779	59
	9年	1997年	69	1,897,883	24,566	35,603	77
	10年	1998年	66	1,764,948	23,372	35,412	76
	11年	1999年	67	1,679,728	21,990	32,934	76
	12年	2000年	70	1,726,762	23,296	33,054	74
	13年	2001年	70	1,710,093	22,740	32,352	75
	14年	2002年	72	1,646,552	22,311	31,178	74
	15年	2003年	72	1,716,568	21,895	30,376	78
	16年	2004年	69	1,409,324	20,574	29,981	69
	17年	2005年	67	1,501,783	20,959	31,132	72
22年(目標)	2010年	135	3,159,000	52,650	39,000	60	
単価 直近5中3							74

年率	01 05	-1.09%	-3.20%	-2.02%	-0.96%	-1.02%
	94 05	-1.14%	-1.10%	-2.82%	-1.74%	1.83%
	05 10	15.04%	16.03%	20.23%	4.61%	-3.58%
対比	05/01	95.7%	87.8%	92.2%	96.2%	96.0%
	05/94	88.2%	88.5%	73.0%	82.4%	122.0%
	05/10	49.6%	47.5%	39.8%	79.8%	120.0%



## 品目名: スターチス

需要を先取りしたオリジナル品種の育成、優良種苗の確保及び生産コストの低減を図り、個性と活力ある産地づくりを推進する。

区 分	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)	
ビジョン基準年(H6)	71	33959	24111	34	
努力目標基準年(H10)	62	36868	22858		
最終年(H17)	33	53747	17968	27	
目標年(H22)	ビジョン	130	39385	51200	37
	努力目標	64	47798	30591	
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	25.4	136.5	35.1	73.0
	努力目標	51.6	112.4	58.7	

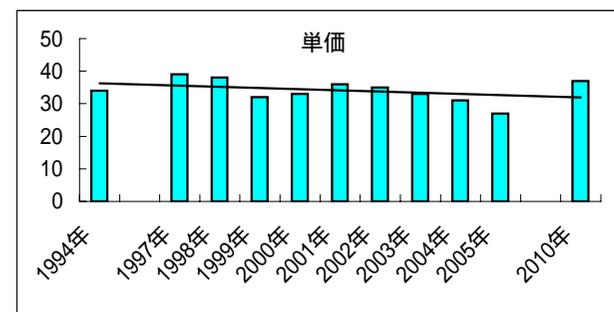
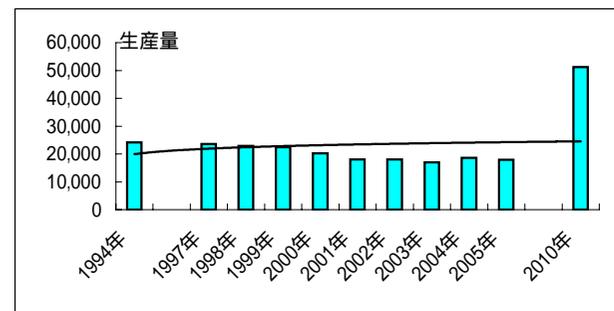
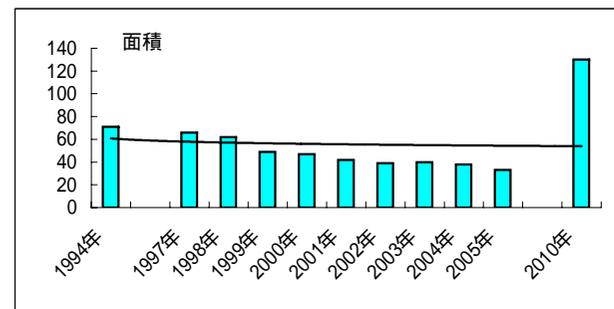
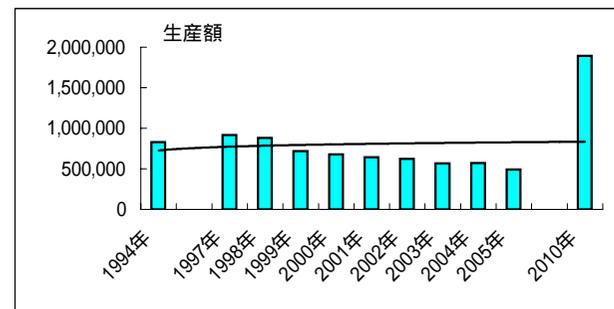
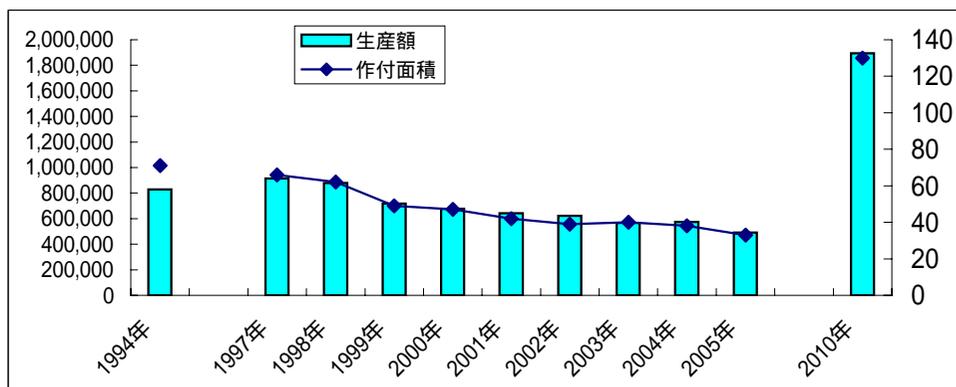
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積		【達成度の評価】 生産者の高齢化や単価安などにより、ここ10年間では年率6%を超える減少傾向で、ビジョンに対し25.4%、努力目標に対し51.6%であった。		
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】 今後も減少傾向で推移することが見込まれるが、周年栽培体系の導入などにより維持を図る。	
	努力目標	B		
単 収		【達成度の評価】 ビジョンに対し、135.5%、努力目標に対し112.4%と目標を上回る収量となった。		
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 今後も、同程度の単収が見込まれ、引き続き安定生産を図っていく。	
	努力目標	A		
生産量		【達成度の評価】 作付面積の減少に伴い、ビジョンに対し35.1%、努力目標に対し58.7%であった。		
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】 秋切り作型の安定生産、春夏作型の導入等作期拡大により生産量を維持する。	
	努力目標	B		
単価		【達成度の評価】 競合産地の台頭などから達成度は73.0%であった。		
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 2番花の品質向上、作期の分散の強化等により単価の維持を図る。	
	努力目標	-		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (千本)	単収 (本/10a)	単価 (円/本)
スターチス	6年(基準)	1994年	71	828,000	24,111	33,959	34
	9年	1997年	66	914,720	23,625	35,795	39
	10年	1998年	62	879,599	22,858	36,868	38
	11年	1999年	49	719,002	22,456	45,247	32
	12年	2000年	47	676,783	20,252	43,329	33
	13年	2001年	42	643,057	18,040	43,034	36
	14年	2002年	39	622,073	18,057	46,443	35
	15年	2003年	40	567,581	16,979	42,373	33
	16年	2004年	38	573,232	18,603	48,896	31
	17年	2005年	33	491,726	17,968	53,747	27
22年(目標)	2010年	130	1,894,000	51,200	39,385	37	
単価 直近5中3							33

年率	01 05	-5.85%	-6.49%	-0.10%	5.71%	-6.94%
	94 05	-6.73%	-4.63%	-2.64%	4.26%	-2.07%
	05 10	31.55%	30.96%	23.30%	-6.03%	6.50%
対比	05/01	78.6%	76.5%	99.6%	124.9%	75.0%
	05/94	46.5%	59.4%	74.5%	158.3%	79.4%
	05/10	25.4%	26.0%	35.1%	136.5%	73.0%



品目名: ユリ

需要を先取りしたオリジナル品種の育成、優良種苗の確保及び生産コストの低減を図り、個性と活力ある産地づくりを推進する。

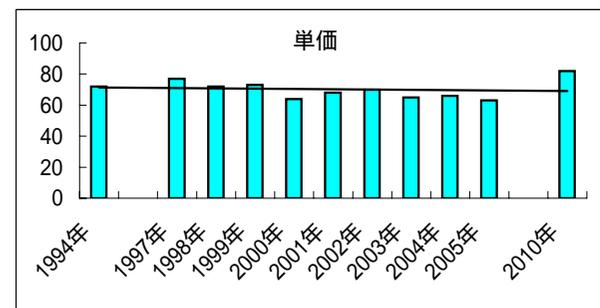
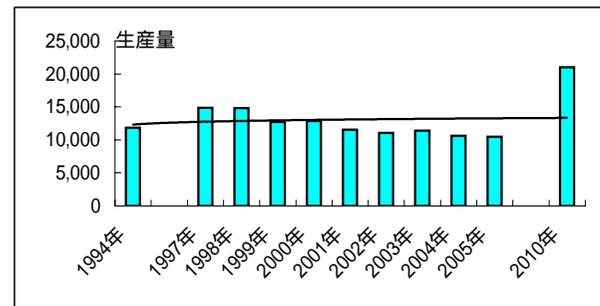
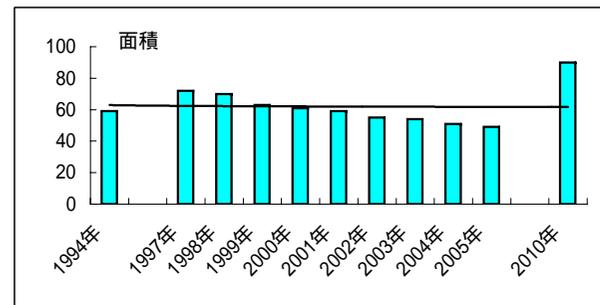
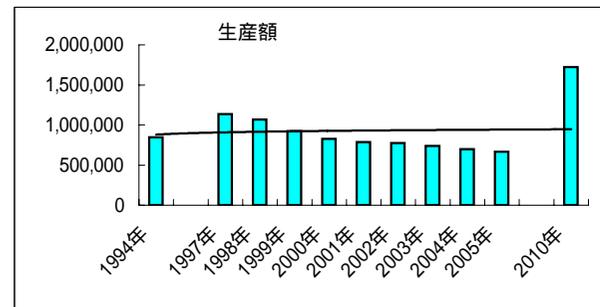
区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		59	20088	11852	72
努力目標基準年(H10)		70	21170	14819	
最終年(H17)		49	21287	10499	63
目標年(H22)	ビジョン	90	23333	21000	82
	努力目標	100	23865	23865	
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	54.4	91.2	50.0	76.8
	努力目標	49.0	89.2	44.0	

## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

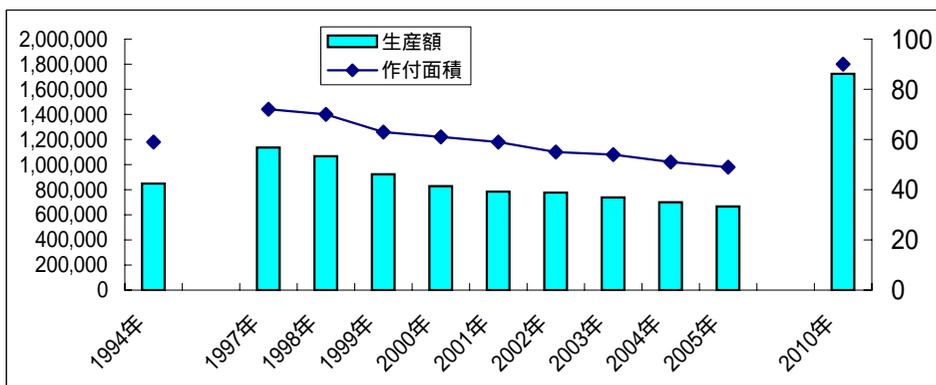
作付面積			【達成度の評価】 生産者の高齢化、価格安などから減少し、達成度は、ビジョンに対し54.4%、努力目標に対し49.0%であった。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 今後も漸減傾向が見込まれるが、既存産地においてLAユリの生産拡大、シンテッポウユリの雨よけ栽培の導入などにより、面積の確保を図る。
	努力目標	C	
単 収			【達成度の評価】 達成度はビジョンに対し91.2%、努力目標に対し89.2%であった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 今後も現状程度が見込まれる。
	努力目標	A	
生産量			【達成度の評価】 達成度はビジョンに対し50.0%、努力目標に対し44.0%であった。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 球根冷蔵による長期出荷、機械定植の普及などにより面積の維持とあわせ安定生産を図る。
	努力目標	C	
単価			【達成度の評価】 達成度はビジョンに対し76.8%であった。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 消費者ニーズを的確に把握した品目・品種の選定・導入を行い、単価の維持に努める。
	努力目標	-	

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (千本)	単収 (本/10a)	単価 (円/本)
グリ	6年(基準)	1994年	59	848,000	11,852	20,088	72
	9年	1997年	72	1,136,683	14,849	20,624	77
	10年	1998年	70	1,066,360	14,819	21,170	72
	11年	1999年	63	922,763	12,736	20,136	73
	12年	2000年	61	827,155	12,842	20,904	64
	13年	2001年	59	785,538	11,541	19,539	68
	14年	2002年	55	776,125	11,064	20,143	70
	15年	2003年	54	737,450	11,393	21,177	65
	16年	2004年	51	700,718	10,634	20,816	66
	17年	2005年	49	665,528	10,499	21,287	63
22年(目標)	2010年	90	1,722,000	21,000	23,333	82	
単価 直近5中3							66



年率	01 05	-4.54%	-4.06%	-2.34%	2.17%	-1.89%
	94 05	-1.67%	-2.18%	-1.10%	0.53%	-1.21%
	05 10	12.93%	20.94%	14.87%	1.85%	5.41%
対比	05/01	83.1%	84.7%	91.0%	108.9%	92.6%
	05/94	83.1%	78.5%	88.6%	106.0%	87.5%
	05/10	54.4%	38.6%	50.0%	91.2%	76.8%



品目名：アルストロメリア

需要を先取りしたオリジナル品種の育成、優良種苗の確保及び生産コストの低減を図り、個性と活力ある産地づくりを推進する。

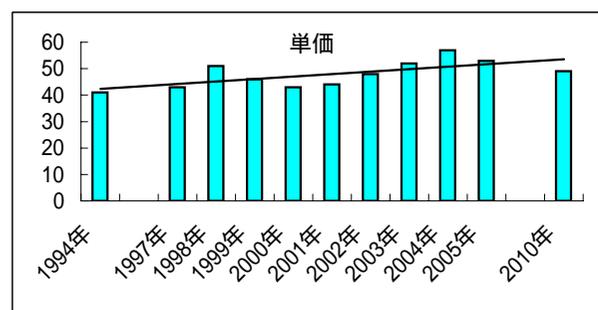
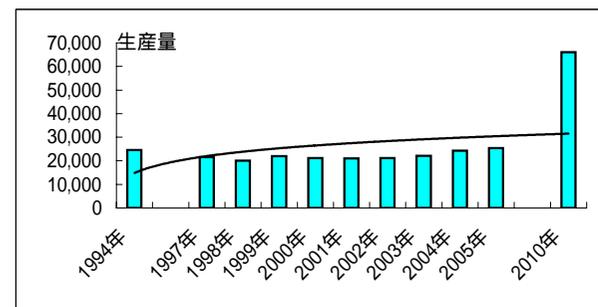
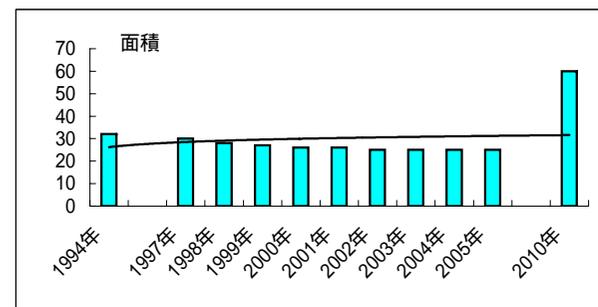
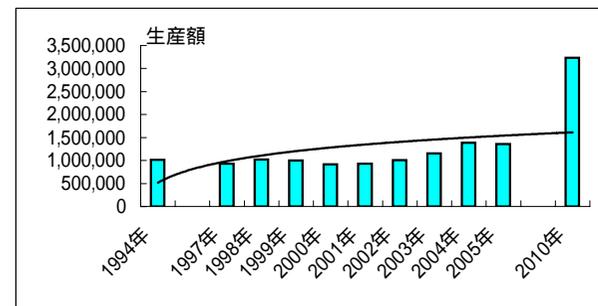
区 分	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)	
ビジョン基準年(H6)	32	76659	24531	41	
努力目標基準年(H10)	28	71564	20038		
最終年(H17)	25	98589	25367	53	
目標年(H22)	ビジョン	60	110000	66000	49
	努力目標	35	100810	35284	
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	41.7	89.6	38.4	108.2
	努力目標	71.4	97.8	71.9	

## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

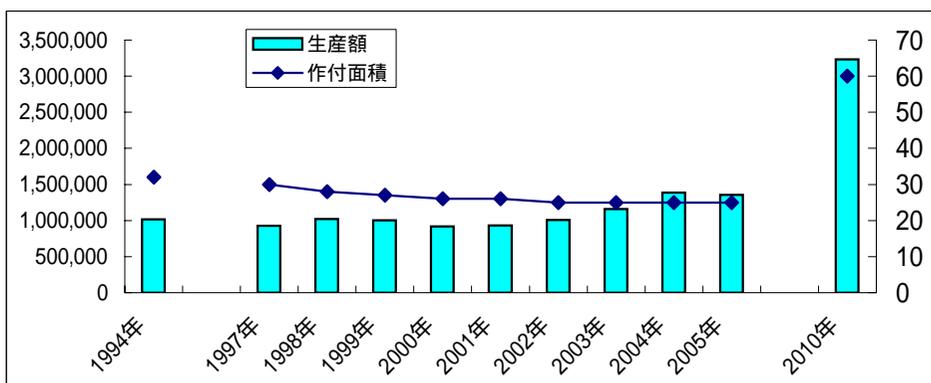
作付面積		【達成度の評価】 達成度は、ビジョンに対し41.7%、努力目標に対し71.4%と目標を下回った。		
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】 冬期基幹品目として、既存産地で生産拡大を図る。	
	努力目標	B		
単 収		【達成度の評価】 近年漸増傾向であるが、達成度はビジョンに対し89.6%、努力目標に対し97.8%であった。		
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 今後は、現状程度を見込み、品質確保に重点を置く。	
	努力目標	A		
生産量		【達成度の評価】 達成度は、ビジョンに対し38.4%、努力目標に対し71.9%と目標を下回った。		
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】 地中冷却技術、地中加温技術を導入しつつ、需要期をにらんだ長期安定出荷により生産量の拡大を図る。	
	努力目標	B		
単価		【達成度の評価】 達成度は、ビジョンに対し108.2%であった。		
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 今後とも、品質向上、鮮度保持対策の徹底など価格確保に重点的に取り組む。	
	努力目標	-		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (千本)	単収 (本/10a)	単価 (円/本)
アロストロミア	6年(基準)	1994年	32	1,016,000	24,531	76,659	41
	9年	1997年	30	929,462	21,547	71,823	43
	10年	1998年	28	1,021,357	20,038	71,564	51
	11年	1999年	27	1,002,284	21,971	82,909	46
	12年	2000年	26	919,390	21,206	82,642	43
	13年	2001年	26	931,048	21,060	81,850	44
	14年	2002年	25	1,008,308	21,090	83,196	48
	15年	2003年	25	1,157,721	22,090	88,679	52
	16年	2004年	25	1,387,623	24,340	96,819	57
	17年	2005年	25	1,354,834	25,367	98,589	53
22年(目標)	2010年	60	3,234,000	66,000	110,000	49	
単価 直近5中3							51



年率	01 05	-0.98%	9.83%	4.76%	4.76%	4.76%
	94 05	-2.22%	2.65%	0.31%	2.31%	2.36%
	05 10	19.14%	19.01%	21.08%	2.21%	-1.56%
対比	05/01	96.2%	145.5%	120.5%	120.5%	120.5%
	05/94	78.1%	133.3%	103.4%	128.6%	129.3%
	05/10	41.7%	41.9%	38.4%	89.6%	108.2%



品目名: パラ

需要を先取りしたオリジナル品種の育成、優良種苗の確保及び生産コストの低減を図り、個性と活力ある産地づくりを推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		27	73641	19883	41
努力目標基準年(H10)		20	82435	16487	
最終年(H17)		15	102201	15463	32
目標年(H22)	ビジョン	45	105000	47250	39
	努力目標	21	99624	20921	
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	33.3	97.3	32.7	82.1
	努力目標	71.4	102.6	73.9	

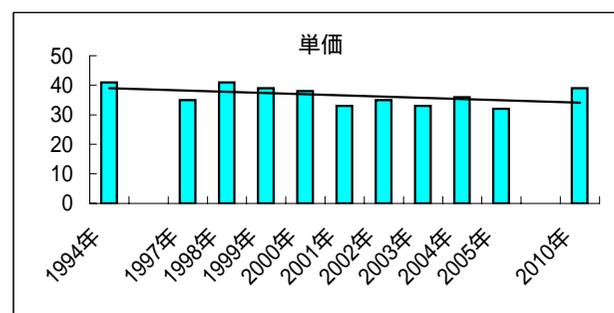
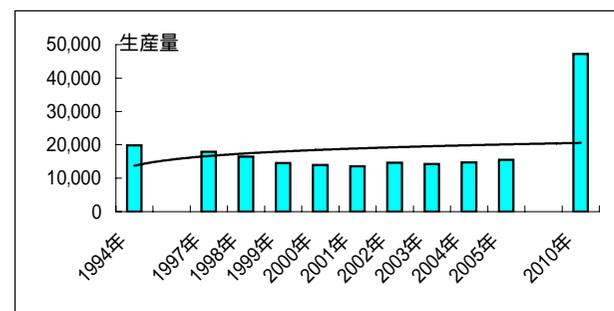
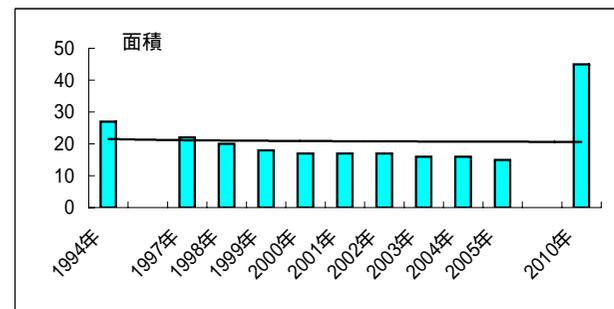
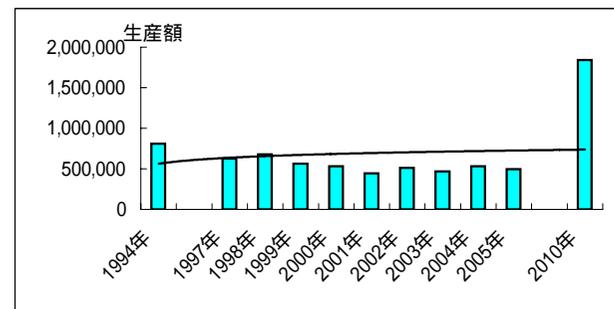
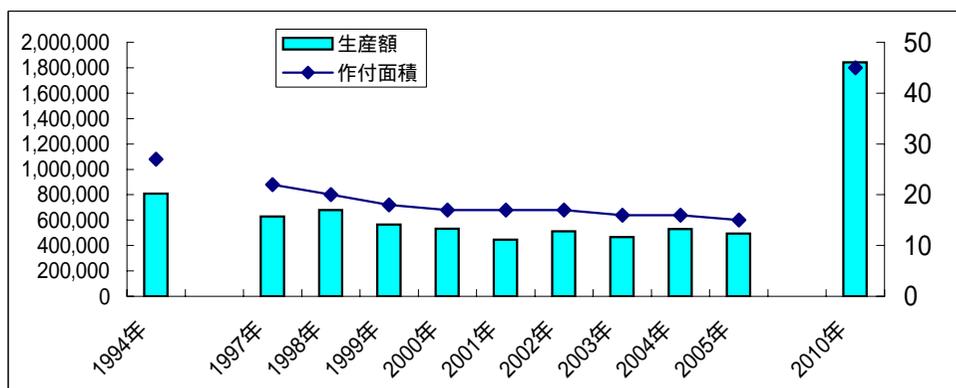
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積		【達成度の評価】 生産者の高齢化などから減少傾向であり、ビジョンに対し33.3%、努力目標に対し71.4%であった。			
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】 今後は横ばい傾向が見込まれる。		
	努力目標	B			
単 収		【達成度の評価】 達成度は、ビジョンに対し97.3%、努力目標に対し102.6%であった。			
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 今後とも現状程度の単収が見込まれる。		
	努力目標	A			
生産量		【達成度の評価】 面積の減少に伴い、達成度は、ビジョンに対し32.7%、努力目標に対し73.9%であった。			
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】 今後は横ばい傾向から漸減傾向が見込まれる。		
	努力目標	B			
単価		【達成度の評価】 ここ10年で年率2%を超える単価減があり、達成度はビジョンに対し82.1%であった。			
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 今後は、契約取引の促進等による価格の確保を図る。		
	努力目標	-			

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (千本)	単収 (本/10a)	単価 (円/本)
バラ	6年(基準)	1994年	27	809,000	19,883	73,641	41
	9年	1997年	22	627,936	17,919	81,450	35
	10年	1998年	20	678,217	16,487	82,435	41
	11年	1999年	18	564,152	14,546	82,460	39
	12年	2000年	17	532,974	13,930	81,709	38
	13年	2001年	17	445,237	13,625	80,815	33
	14年	2002年	17	513,036	14,626	87,476	35
	15年	2003年	16	466,333	14,271	87,930	33
	16年	2004年	16	529,848	14,778	90,331	36
	17年	2005年	15	494,527	15,463	102,201	32
22年(目標)	2010年	45	1,843,000	47,250	105,000	39	
単価 直近5中3							34

年率	01 05	-3.08%	2.66%	3.21%	6.05%	-0.77%
	94 05	-5.20%	-4.38%	-2.26%	3.02%	-2.23%
	05 10	24.57%	30.10%	25.03%	0.54%	4.04%
対比	05/01	88.2%	111.1%	113.5%	126.5%	97.0%
	05/94	55.6%	61.1%	77.8%	138.8%	78.0%
	05/10	33.3%	26.8%	32.7%	97.3%	82.1%



## 品目名: その他切り花

需要を先取りしたオリジナル品種の育成、優良種苗の確保及び生産コストの低減を図り、個性と活力ある産地づくりを推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		443	13825	61246	49
努力目標基準年(H10)					
最終年(H17)		386	16922	65318	41
目標年(H22)	ビジョン	710	15465	109802	49
	努力目標				
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	54.4	109.4	59.5	83.7
	努力目標				

## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

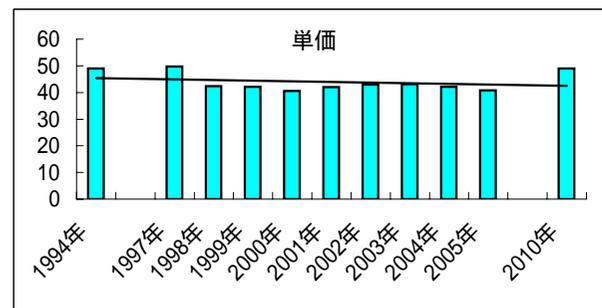
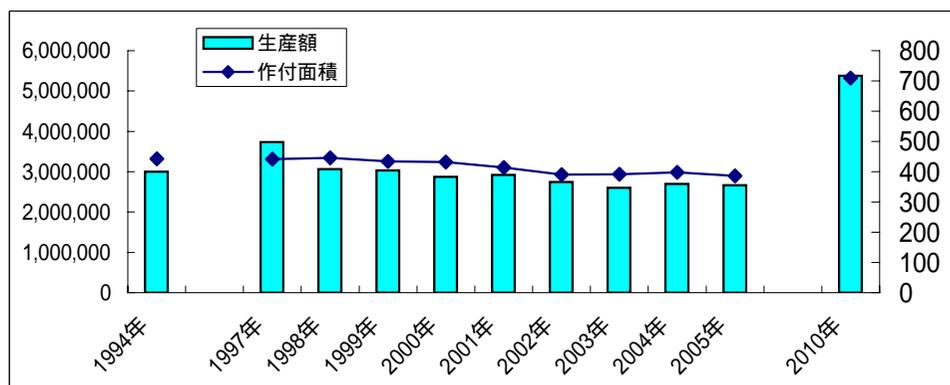
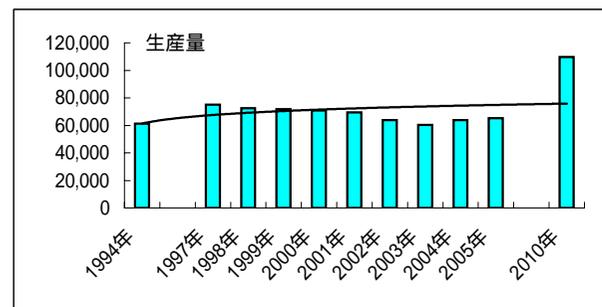
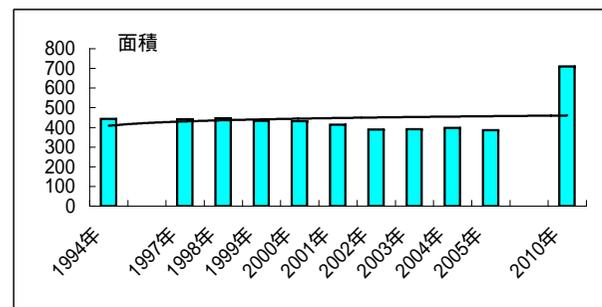
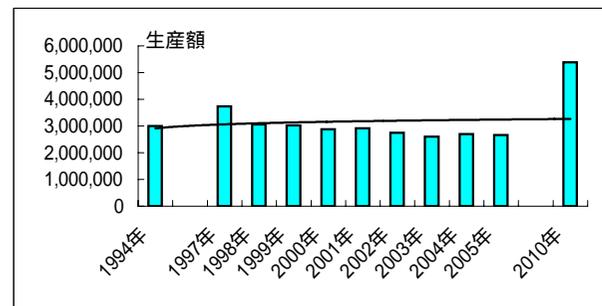
作付面積			【達成度の評価】生産者の高齢化、単価安等から、達成度はビジョンに対し54.4%であった。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 全体的には減少傾向が見込まれるが、多品目化や実もの・葉物花木などの積極的導入により、面積の維持に努める。
	努力目標	-	
単 収			【達成度の評価】 達成度はビジョンに対し109.4%であった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 今後も現状程度の単収確保を図る。
	努力目標	-	
生産量			【達成度の評価】 栽培面積の減少から、達成度はビジョンに対し59.5%であった。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 多品目化や周年栽培により農地を有効活用し、生産量の確保を図る。
	努力目標	-	
単価			【達成度の評価】 達成度はビジョンに対し83.7%であった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 今後も契約度の高い取引などの価格確保に向けた対応に努める。
	努力目標	-	

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (千本)	単収 (本/10a)	単価 (円/kg)
その他切り花	6年(基準)	1994年	443	3,001,000	61,246	13,825	49
	9年	1997年	442	3,736,297	75,165	17,006	50
	10年	1998年	446	3,065,854	72,414	16,236	42
	11年	1999年	434	3,028,723	71,837	16,552	42
	12年	2000年	432	2,874,012	70,867	16,404	41
	13年	2001年	414	2,917,969	69,491	16,785	42
	14年	2002年	390	2,745,904	63,932	16,393	43
	15年	2003年	391	2,601,939	60,450	15,460	43
	16年	2004年	398	2,696,213	63,944	16,066	42
	17年	2005年	386	2,661,433	65,318	16,922	41
	22年(目標)	2010年	710	5,380,000	109,802	15,465	49

単価 直近5中3 42

年率	01 05	-1.74%	-2.27%	-1.54%	0.20%	-0.75%
	94 05	-1.24%	-1.09%	0.59%	1.85%	-1.66%
	05 10	12.96%	15.12%	10.95%	-1.78%	3.76%
対比	05/01	93.2%	91.2%	94.0%	100.8%	97.0%
	05/94	87.1%	88.7%	106.6%	122.4%	83.2%
	05/10	54.4%	49.5%	59.5%	109.4%	83.2%



## 品目名: シクラメン

需要を先取りしたオリジナル品種の育成、優良種苗の確保及び生産コストの低減を図り、個性と活力ある産地づくりを推進する。

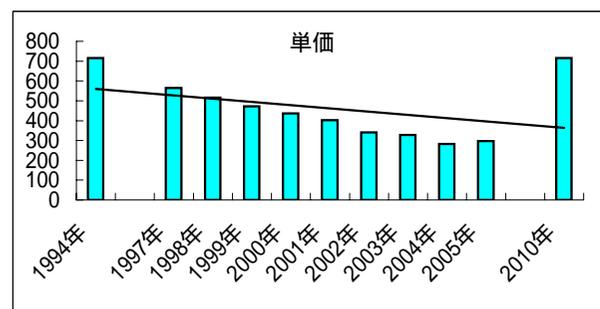
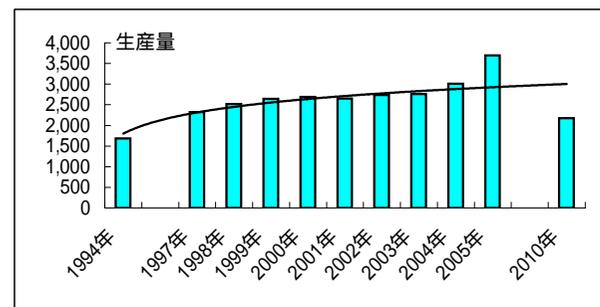
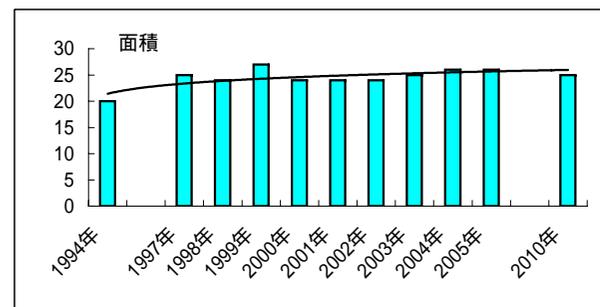
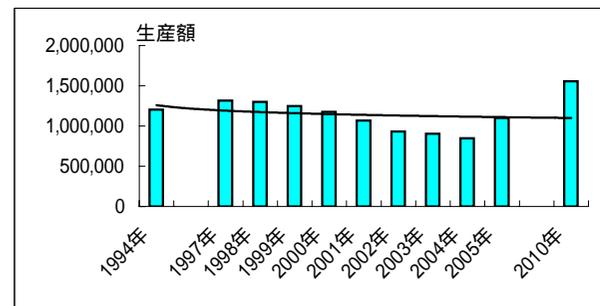
区 分	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)	
ビジョン基準年(H6)	20	8410	1682	716	
努力目標基準年(H10)	24	10492	2518		
最終年(H17)	26	14472	3699	297	
目標年(H22)	ビジョン	25	8700	2175	716
	努力目標	28	10548	2953	
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	104.0	166.3	170.1	41.5
	努力目標	92.9	137.2	125.3	

## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

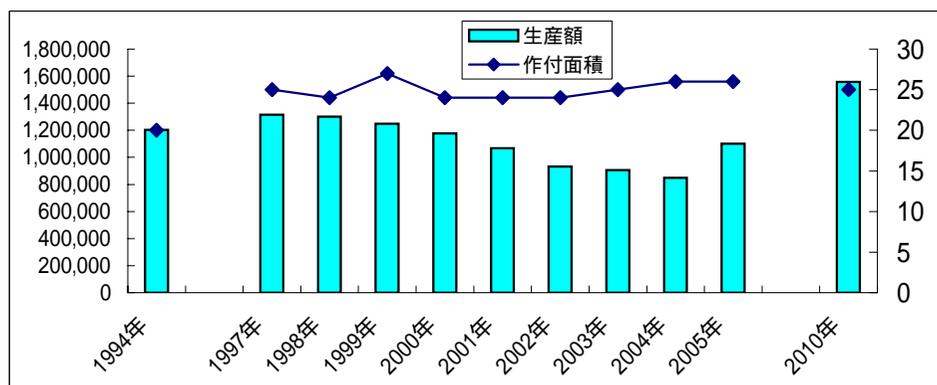
作付面積			【達成度の評価】 栽培面積は、横ばいから漸増傾向で推移しており、達成度はビジョンに対し104.0%、努力目標に対し92.9%であった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 ほぼ現状面積が見込まれる。
	努力目標	A	
単 収			【達成度の評価】 鉢サイズのミニ化により増加し、ビジョンに対し166.3%、努力目標に対し、125.3%であった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 小鉢化に対応した増加が見込まれる。
	努力目標	A	
生産量			【達成度の評価】 ミニ系の拡大により生産量が増加し、ビジョンに対し170.1%、努力目標に対し、125.3%であった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 需要に応じた鉢サイズへの移行により増加が見込まれる。
	努力目標	A	
単価			【達成度の評価】 ミニ系の拡大に伴い鉢当り単価は減少し、ビジョンに対し41.5%の達成度となった。
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】 今後は、商品性の向上と計画生産、需要に合った鉢サイズの確保に努め、併せて単価の確保を図る。
	努力目標	-	

達成度は、A: 80%以上、B: 50%以上～80%未満、C: 50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (千鉢)	単収 (本/10a)	単価 (円/本)	
シクラメン	6年(基準)	1994年	20	1,204,000	1,682	8,410	716	
	9年	1997年	25	1,315,287	2,326	9,304	565	
	10年	1998年	24	1,299,580	2,518	10,492	516	
	11年	1999年	27	1,247,589	2,643	11,133	472	
	12年	2000年	24	1,176,109	2,689	11,075	437	
	13年	2001年	24	1,067,003	2,653	11,168	402	
	14年	2002年	24	932,193	2,734	11,425	341	
	15年	2003年	25	905,230	2,761	11,269	328	
	16年	2004年	26	848,100	3,007	11,660	282	
	17年	2005年	26	1,099,746	3,699	14,472	297	
	22年(目標)	2010年	25	1,557,000	2,175	8,700	716	
	単価 直近5中3							322



年率	01 05	2.02%	0.76%	8.66%	6.69%	-7.29%
	94 05	2.41%	-0.82%	7.43%	5.06%	-7.69%
	05 10	-0.78%	7.20%	-10.08%	-9.68%	19.24%
対比	05/01	108.3%	103.1%	139.4%	129.6%	73.9%
	05/94	130.0%	91.3%	219.9%	172.1%	41.5%
	05/10	104.0%	70.6%	170.1%	166.3%	41.5%



## 品目名: その他鉢物

需要を先取りしたオリジナル品種の育成、優良種苗の確保及び生産コストの低減を図り、個性と活力ある産地づくりを推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		38	26929	10233	211
努力目標基準年(H10)					
最終年(H17)		70	48616	34031	130
目標年(H22)	ビジョン	90	20333	18300	188
	努力目標				
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	77.8	239.1	186.0	69.1
	努力目標				

## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

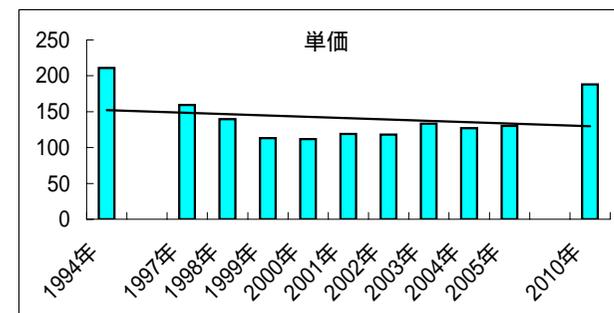
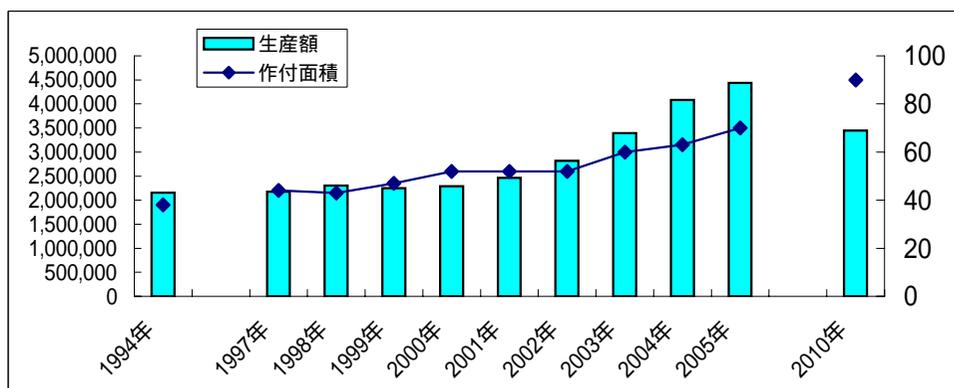
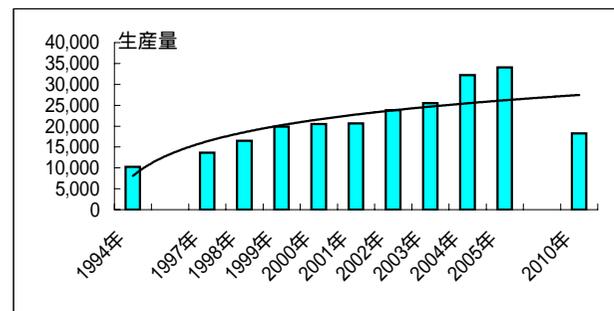
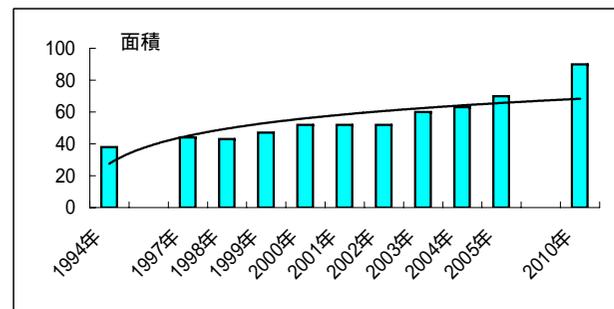
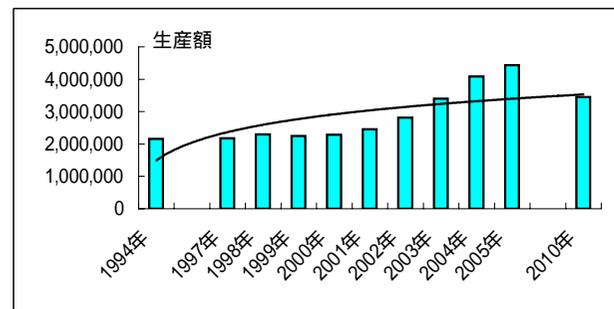
作付面積		【達成度の評価】 達成度は、ビジョンに対し77.8%であった。			
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 今後も、本県の立地条件を生かした鉢物類の生産拡大を図る。		
	努力目標	-			
単 収		【達成度の評価】 全体的な小鉢化傾向により、達成度はビジョンに対し239.1%であった。			
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 今後も生産性の向上を図る。		
	努力目標	-			
生産量		【達成度の評価】 栽培の拡大とミニ系の増加により、達成度はビジョンに対し186.0%であった。			
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 今後は、消費動向を的確に把握し、品目、品種、鉢サイズの多様化と生産拡大を図る。		
	努力目標	-			
単価		【達成度の評価】 ミニ系の拡大により、鉢当り単価はビジョンに対し69.1%となった。			
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 今後はさらに商品性の向上と鉢サイズの多様化等により単価の確保を図る。		
	努力目標	-			

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (千鉢)	単収 (本/10a)	単価 (円/kg)
その他鉢物	6年(基準)	1994年	38	2,155,000	10,233	26,929	211
	9年	1997年	44	2,175,028	13,664	31,055	159
	10年	1998年	43	2,300,650	16,459	38,277	140
	11年	1999年	47	2,249,320	19,852	42,238	113
	12年	2000年	52	2,290,867	20,508	39,438	112
	13年	2001年	52	2,460,113	20,673	39,756	119
	14年	2002年	52	2,815,467	23,806	45,781	118
	15年	2003年	60	3,396,868	25,473	42,455	133
	16年	2004年	63	4,085,430	32,197	51,106	127
	17年	2005年	70	4,435,175	34,031	48,616	130
	22年(目標)	2010年	90	3,449,000	18,300	20,333	188

単価 直近5中3 125

年率	01 05	7.71%	15.87%	13.27%	5.16%	2.30%
	94 05	5.71%	6.78%	11.54%	5.52%	-4.29%
	05 10	5.15%	-4.91%	-11.67%	-16.00%	7.60%
対比	05/01	134.6%	180.3%	164.6%	122.3%	109.5%
	05/94	184.2%	205.8%	332.6%	180.5%	61.8%
	05/10	77.8%	128.6%	186.0%	239.1%	69.3%



品目名：えのきたけ

品質・コスト管理の徹底や省力技術、新品目等の開発・普及により、きのこ農家の経営安定を図り、競合産地に負けない新鮮で高品質なきのこ産地づくりを推進する。

区 分	生産ビン数 (千本)	単収 (kg/万本)	生産量 (t)	単価 (円/kg)	
ビジョン基準年(H6)	432,252	1,310	56,626	490	
努力目標基準年(H10)			63,290		
最終年(H17)	478,195	1,330	63,600	263	
目標年(H22)	ビジョン	466,667	1,500	70,000	490
	努力目標			69,600	
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	102.5	88.7	90.9	53.7
	努力目標			91.4	

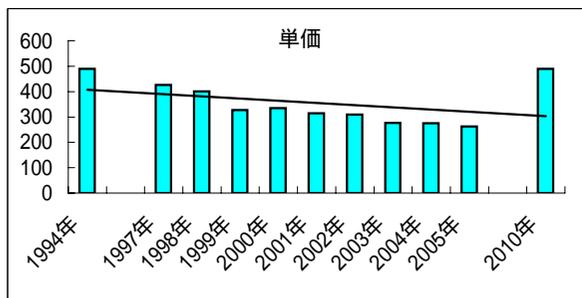
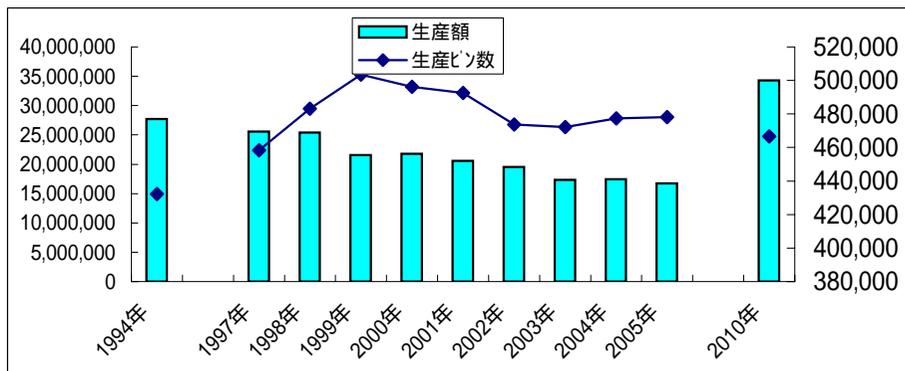
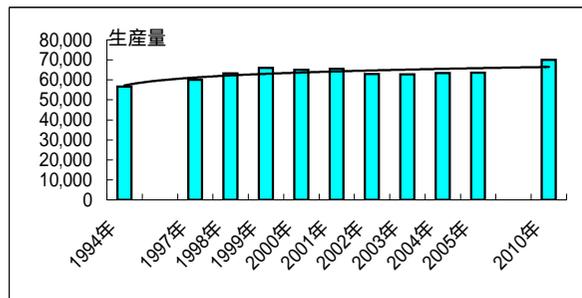
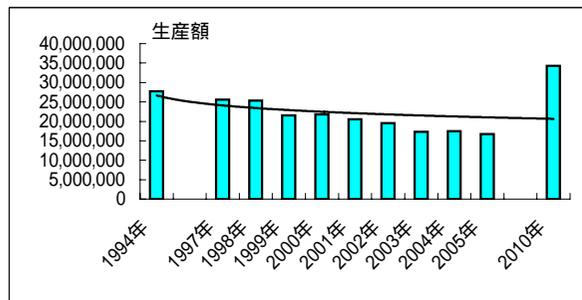
目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

生産ビン数			[達成度の評価] 大型培養センターの利用により効率的な生産が進み規模拡大も図られたため、生産ビン数は目標年数値を上回った。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向]
	努力目標		
単 収			[達成度の評価] 栽培技術の向上により単収はわずかに増加したが、目標年数値には届かなかった。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 栽培の大型化が更に進むことが見込まれるため、目標年数値の達成が期待できる。
	努力目標		
生産量			[達成度の評価] 大型培養センターの利用により効率的な生産が進み規模拡大も図られたため生産量は増加したが、目標年数値には届かなかった。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 今後も価格が低迷し小規模農家、高齢農家の減少が予想されるが、大型培養センターを活用しつつ生産量を維持する。
	努力目標	A	
単 価			[達成度の評価] 消費量が飽和状況下でデフレ経済が続いたことなどから単価が急速に低下したため、目標年数値を大幅に下回った。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 単価が低迷する状況は変わらないため、目標年数値の単価回復は見込めない。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	生産ピンの数 (千本)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/1万本)	単価 (円/kg)	
えのきたけ	6年(基準)	1994年	432,252	27,720,793	56,626	1,310	490	
	9年	1997年	458,397	25,581,300	60,050	1,310	426	
	10年	1998年	483,130	25,379,290	63,290	1,310	401	
	11年	1999年	503,435	21,565,650	65,950	1,310	327	
	12年	2000年	496,183	21,775,000	65,000	1,310	335	
	13年	2001年	492,481	20,567,000	65,500	1,330	314	
	14年	2002年	473,684	19,530,000	63,000	1,330	310	
	15年	2003年	472,180	17,332,800	62,800	1,330	276	
	16年	2004年	477,444	17,462,500	63,500	1,330	275	
	17年	2005年	478,195	16,726,800	63,600	1,330	263	
	22年(目標)	2010年	466,667	34,300,000	70,000	1,500	490	
	単価 直近5中3							287

年率	01 05	-0.73%	-5.04%	-0.73%	0.00%	-4.33%
	94 05	0.92%	-4.49%	1.06%	0.14%	-5.50%
	05 10	-0.49%	15.45%	1.94%	2.43%	13.25%
対比	05/01	97.1%	81.3%	97.1%	100.0%	83.8%
	05/94	110.6%	60.3%	112.3%	101.5%	53.7%
	05/10	102.5%	48.8%	90.9%	88.7%	53.7%



品目名：ぶなしめじ

品質・コスト管理の徹底や省力技術、新品目等の開発・普及により、きのこ農家の経営安定を図り、競合産地に負けない新鮮で高品質なきのこ産地づくりを推進する。

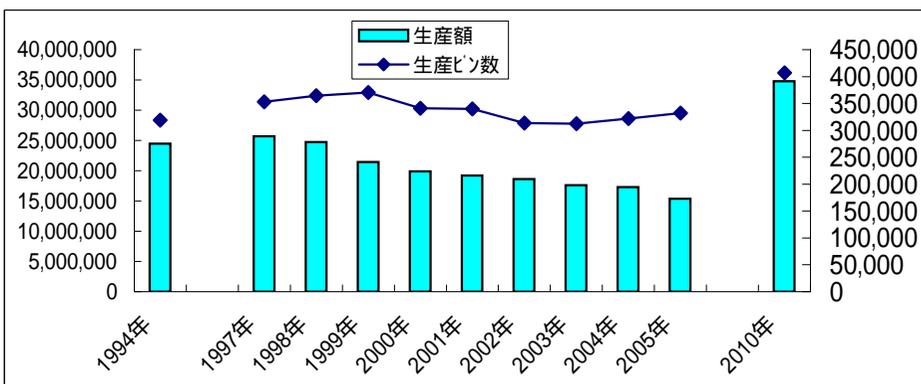
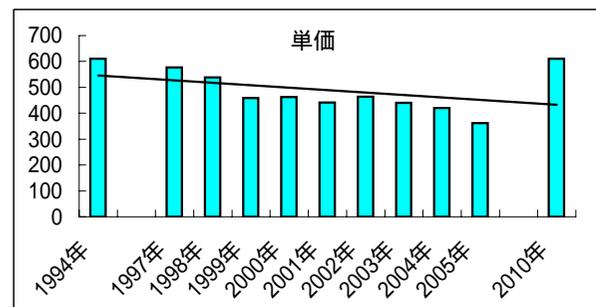
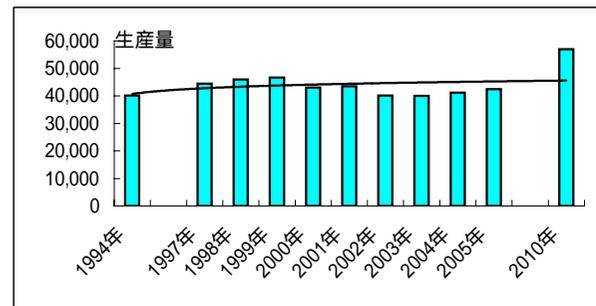
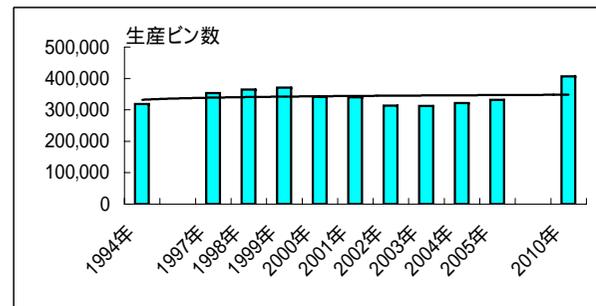
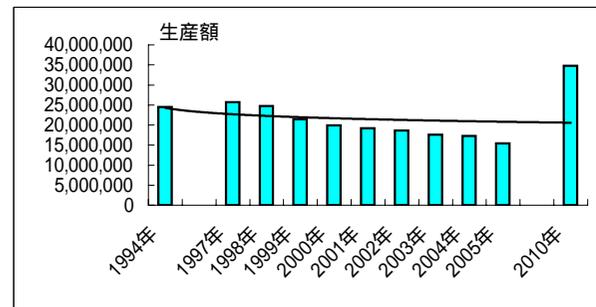
区 分		生産ビン数 (千本)	単収 (kg/万本)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		318,666	1,260	40,152	610
努力目標基準年(H10)				45,940	
最終年(H17)		332,031	1,280	42,500	362
目標年(H22)	ビジョン	407,143	1,400	57,000	610
	努力目標			46,700	
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	81.6	91.4	74.6	59.3
	努力目標			91.0	

目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

生産ビン数			[達成度の評価] 培養センターの利用による効率的な生産が進んだことや大手企業による増産が行われたため生産量は増加したが、生産ビン数は目標年数値には届かなかった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】
	努力目標		
単 収			[達成度の評価] 栽培技術の向上により単収はわずかに増加したが、目標年数値には届かなかった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 今後は小規模農家が減り栽培の大型化が更に進むことが見込まれるため、目標年数値の達成が期待できる。
	努力目標		
生産量			[達成度の評価] 培養センターの利用による効率的な生産が進んだことや大手企業による増産が行われたため、生産量は増加したが、目標年数値には届かなかった。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 今後も企業生産の拡大の一方で小規模農家、高齢農家の減少が予想されるが、消費動向を注視しつつ生産量を維持する。
	努力目標	A	
単価			[達成度の評価] 消費量が頭打ちの状況下で企業が増産体制を進めていることやデフレ経済が続いたことなどから単価が急速に低下したため、目標年数値を大幅に下回った。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 今後もその状況は変わらず、目標年数値の単価回復は見込めない。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	生産ビン数 (千本)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/1万本)	単価 (円/kg)
ぶなしめじ	6年(基準)	1994年	318,666	24,458,295	40,152	1,260	610
	9年	1997年	353,016	25,664,960	44,480	1,260	577
	10年	1998年	364,603	24,715,720	45,940	1,260	538
	11年	1999年	370,635	21,435,300	46,700	1,260	459
	12年	2000年	341,270	19,909,000	43,000	1,260	463
	13年	2001年	339,844	19,227,000	43,500	1,280	442
	14年	2002年	313,281	18,606,400	40,100	1,280	464
	15年	2003年	312,500	17,600,000	40,000	1,280	440
	16年	2004年	321,875	17,304,000	41,200	1,280	420
	17年	2005年	332,031	15,385,000	42,500	1,280	362
22年(目標)	2010年	407,143	34,770,000	57,000	1,400	610	
単価 直近5中3							434



年率	01 05	-0.58%	-5.42%	-0.58%	0.00%	-4.87%
	94 05	0.37%	-4.13%	0.52%	0.14%	-4.63%
	05 10	4.16%	17.71%	6.05%	1.81%	11.00%
対比	05/01	97.7%	80.0%	97.7%	100.0%	81.9%
	05/94	104.2%	62.9%	105.8%	101.6%	59.3%
	05/10	81.6%	44.2%	74.6%	91.4%	59.3%

品目名：ひらたけ

品質・コスト管理の徹底や省力技術、新品目等の開発・普及により、きのか農家の経営安定を図り、競合産地に負けない新鮮で高品質なきのか産地づくりを推進する。

区 分	生産ビン数 (千本)	単収 (kg/万本)	生産量 (t)	単価 (円/kg)	
ビジョン基準年(H6)	5,200	900	468	485	
努力目標基準年(H10)					
最終年(H17)	778	900	70	351	
目標年(H22)	ビジョン	5,000	900	450	485
	努力目標				
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	15.6	100.0	15.6	72.4
	努力目標				

目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

生産ビン数			[達成度の評価] ぶなしめじへの品目転換により、目標年数値を大きく下回った。
達成度	ビジョン	C	[今後の動向]
	努力目標		
単 収			[達成度の評価] 目標年数値を達成した。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向]
	努力目標		
生産量			[達成度の評価] 栽培が難しく夏場の日持ちが良くないことや「ぶなしめじ」との品目間競合により価格が低下したことから、目標年数値を大きく下回った。
達成度	ビジョン	C	[今後の動向] 今後は、その傾向は変わらず、目標年数値の達成は見込めない。
	努力目標		
単価			[達成度の評価] きのか全体の消費量は頭打ちできのか同士の品目間競合により単価が低迷し、目標年数値を下回った。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 今後もその状況は変わらず、目標年数値の単価回復は見込めない。
	努力目標		

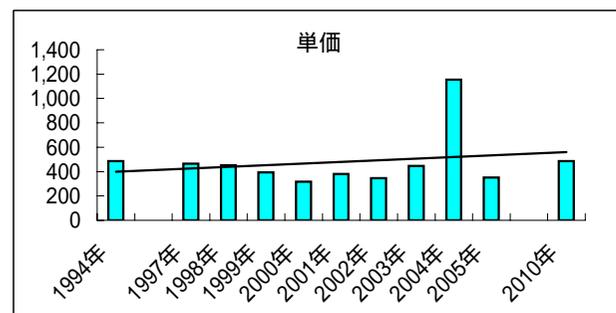
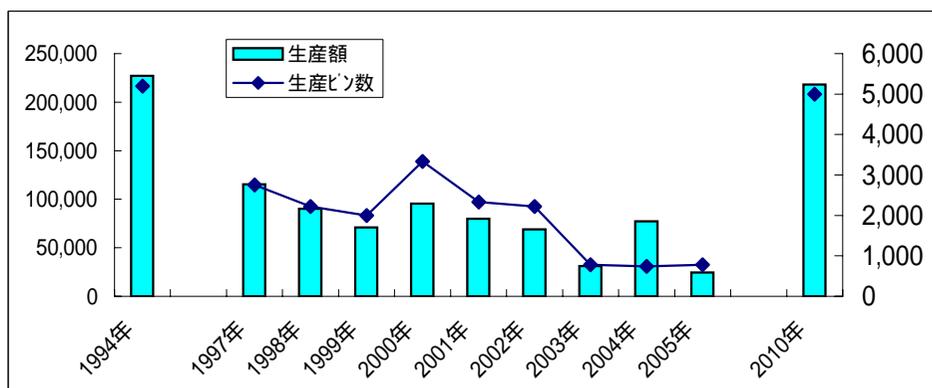
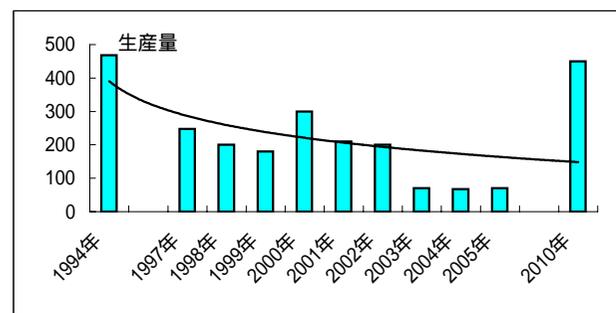
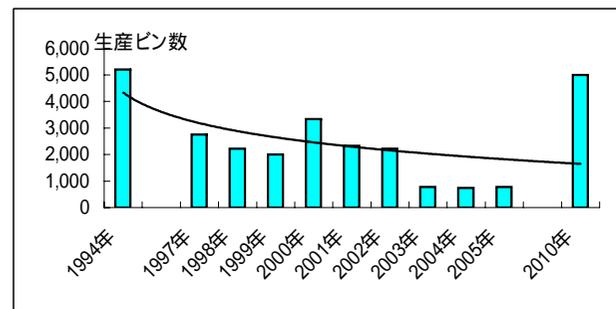
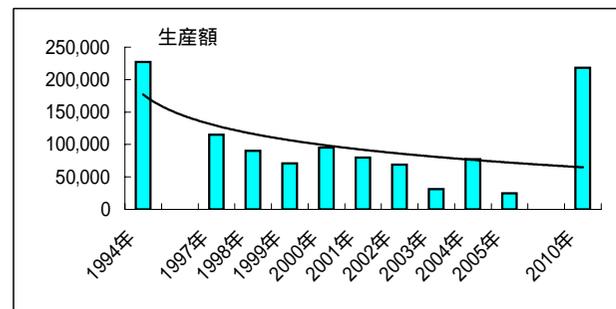
達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

ひらたけを「その他きのか」へ分類変更

作物名	平成	西暦	生産ビンの数 (千本)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/1万本)	単価 (円/kg)
ひらたけ	6年(基準)	1994年	5,200	227,137	468	900	485
	9年	1997年	2,756	115,320	248	900	465
	10年	1998年	2,222	90,200	200	900	451
	11年	1999年	2,000	70,920	180	900	394
	12年	2000年	3,333	95,400	300	900	318
	13年	2001年	2,333	80,010	210	900	381
	14年	2002年	2,222	69,000	200	900	345
	15年	2003年	778	31,290	70	900	447
	16年	2004年	744	77,385	67	900	1,155
	17年	2005年	778	24,570	70	900	351
22年(目標)	2010年	5,000	218,250	450	900	485	

単価 直近5中3 393

年率	01 05	-24.01%	-25.56%	-24.02%	0.00%	-2.03%
	94 05	-15.86%	-18.31%	-15.86%	0.00%	-2.90%
	05 10	45.08%	54.78%	45.09%	0.00%	6.68%
対比	05/01	33.3%	30.7%	33.3%	100.0%	92.1%
	05/94	15.0%	10.8%	15.0%	100.0%	72.4%
	05/10	15.6%	11.3%	15.6%	100.0%	72.4%



品目名：その他きのこ

品質・コスト管理の徹底や省力技術、新品目等の開発・普及により、きのこ農家の経営安定を図り、競合産地に負けない新鮮で高品質なきのこ産地づくりを推進する。

区 分		生産ピン数 (千本)	単収 (kg/万本)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		1,644	760	125	772
努力目標基準年(H10)					
最終年(H17)		95,632	760	7,268	439
目標年(H22)	ビジョン	25,000	800	2,000	770
	努力目標				
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	382.5	95.0	363.4	57.0
	努力目標				

目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

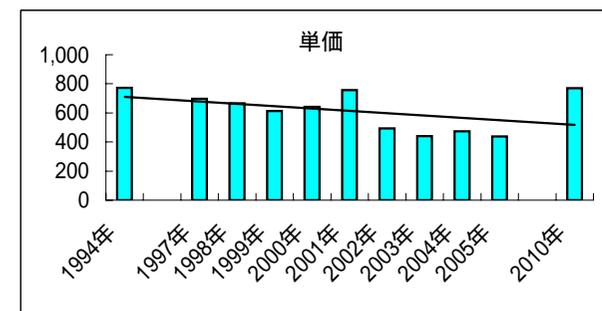
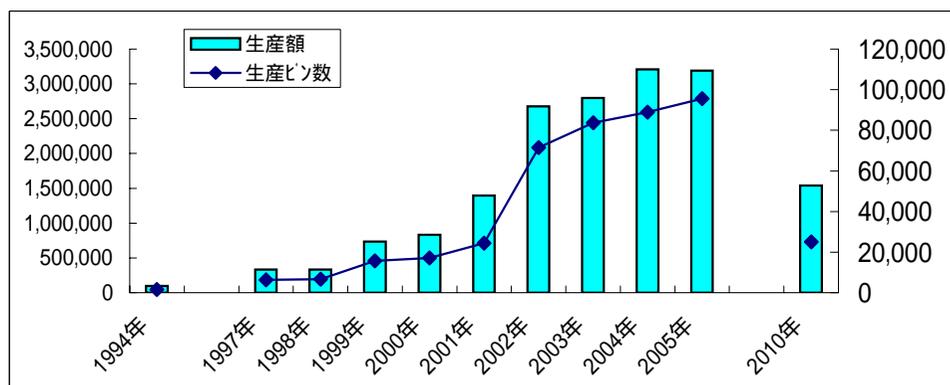
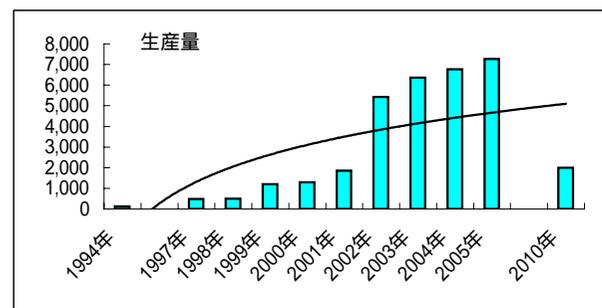
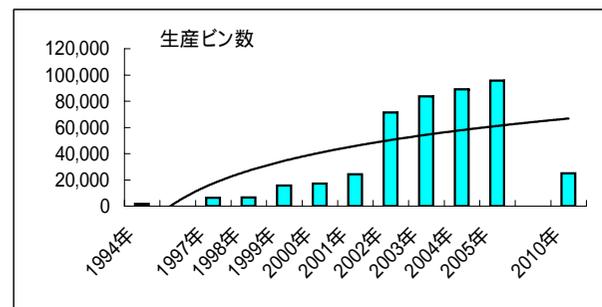
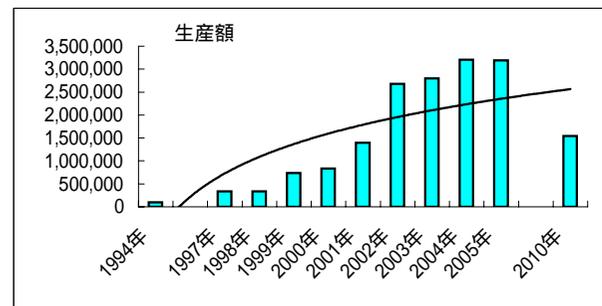
生産ピン数			[達成度の評価] 新品目「エリンギ」の生産量が大手企業を中心に大幅に増えたため、目標年数値を大きく上回った。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 新品目・新品種きのこ導入により、増加が見込まれる。
	努力目標		
単 収			[達成度の評価] エリンギを除く他の品目は多量生産でないことなどから、目標年数値には届かなかった。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 今後も多量生産でなく品質に重点を置くため、単収は現状維持を見込む。
	努力目標		
生産量			[達成度の評価] 新品目「エリンギ」の生産量が大手企業を中心に大幅に増えた。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 新品目・新品種が導入されるため、生産の拡大が見込まれる。
	努力目標		
単価			[達成度の評価] きのこ全体の消費量は頭打ちできのこ同士の品目間競争により単価が低迷し、目標年数値を下回った。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 新品目・新品種きのこの導入により、単価を維持していく。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上~80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	生産ビン数 (千本)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/1万本)	単価 (円/kg)
その他きのこ	6年(基準)	1994年	1,644	96,499	125	760	772
	9年	1997年	6,315	334,535	480	760	697
	10年	1998年	6,579	333,198	500	760	666
	11年	1999年	15,763	733,810	1,198	760	613
	12年	2000年	17,106	832,840	1,300	760	641
	13年	2001年	24,342	1,398,190	1,850	760	756
	14年	2002年	71,448	2,678,030	5,430	760	493
	15年	2003年	83,684	2,796,480	6,360	760	440
	16年	2004年	88,961	3,206,827	6,761	760	474
	17年	2005年	95,632	3,189,424	7,268	760	439
22年(目標)	2010年	25,000	1,540,000	2,000	800	770	

単価 直近5中3 469

年率	01 05	40.79%	22.90%	40.79%	0.00%	-12.71%
	94 05	44.69%	37.44%	44.68%	0.00%	-5.01%
	05 10	-23.53%	-13.55%	-22.75%	1.03%	11.90%
対比	05/01	392.9%	228.1%	392.9%	100.0%	58.1%
	05/94	5817.0%	3305.1%	5814.4%	100.0%	56.8%
	05/10	382.5%	207.1%	363.4%	95.0%	57.0%



品目名: たばこ

高齢者でも栽培ができ、契約栽培により安定収入が得られる中山間地域の重要作物として、品質の向上や低コスト省力化及び安全性の高い葉たばこづくりを推進する。

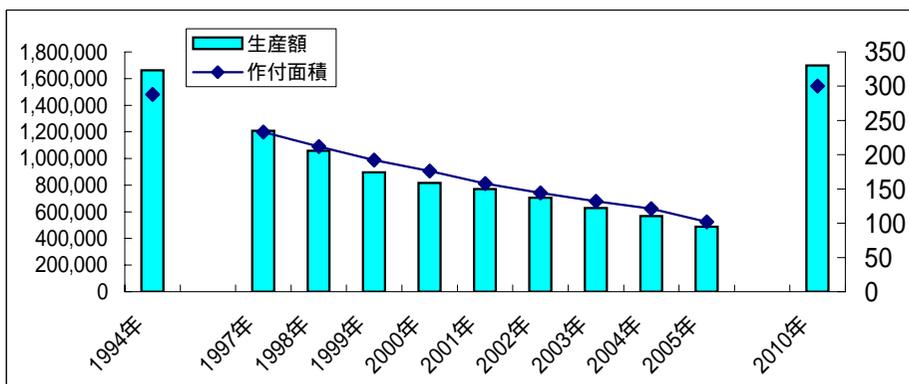
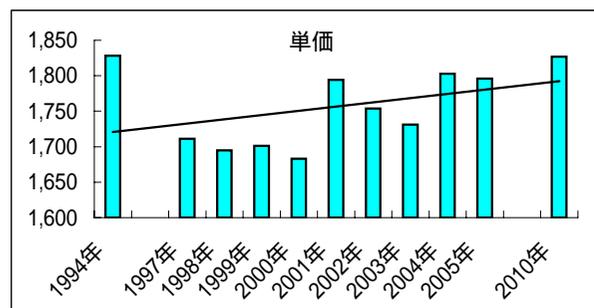
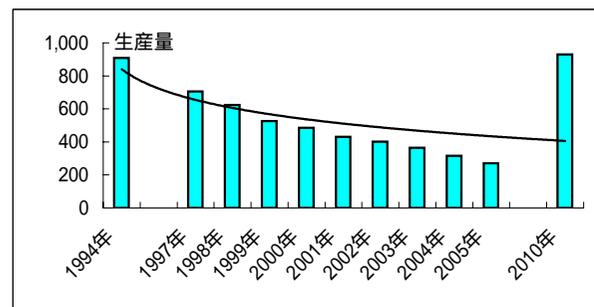
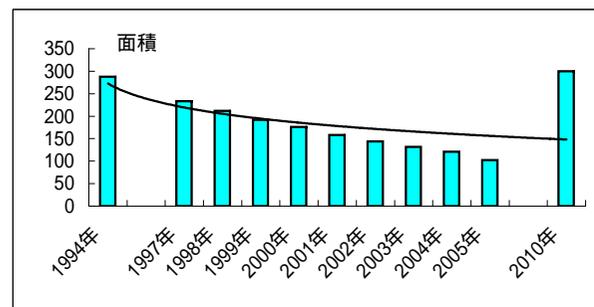
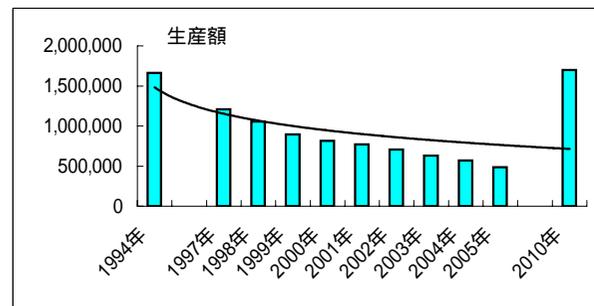
区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		288	316	909	1,828
努力目標基準年(H10)					
最終年(H17)		102	265	271	1,796
目標年(H22)	ビジョン	300	310	930	1,827
	努力目標				
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	34.0	85.5	29.1	98.3
	努力目標				

目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積		【達成度の評価】 大幅な需要減少に伴う廃作の実施などにより作付面積も減少した。		
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】 更なる需要減少により、作付面積の大幅な減少が見込まれる。	
	努力目標			
単 収		【達成度の評価】 耕作組合が推進している適正目標収量の270kg/10aにほぼ近づいている。		
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 品質向上のため組合目標収量を確保する。	
	努力目標			
生産量		【達成度の評価】 作付面積の減少により、生産量も減少傾向にある。		
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】 作付面積の傾向により、生産量の減少が見込まれる。	
	努力目標			
単価		【達成度の評価】 単価は政策価格のため、他の作物に比べ緩やかな低下となっている。		
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 ほぼ同額程度の単価で維持されられると思われる。	
	努力目標			

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
たばこ	6年(基準)	1994年	288	1,661,428	909	316	1,828
	9年	1997年	233	1,207,052	706	303	1,711
	10年	1998年	212	1,057,820	624	294	1,695
	11年	1999年	192	896,825	527	274	1,701
	12年	2000年	176	816,182	485	276	1,683
	13年	2001年	158	771,381	430	272	1,794
	14年	2002年	144	705,390	402	279	1,754
	15年	2003年	132	629,355	364	276	1,731
	16年	2004年	121	568,910	316	261	1,803
	17年	2005年	102	487,330	271	265	1,796
	22年(目標)	2010年	300	1,699,110	930	310	1,827
						単価 直近5中3	1,781



年率	01 05	-10.36%	-10.85%	-10.90%	-0.65%	0.03%
	94 05	-9.00%	-10.55%	-10.42%	-1.59%	-0.16%
	05 10	24.08%	28.37%	27.97%	3.19%	0.34%
対比	05/01	64.6%	63.2%	63.0%	97.4%	100.1%
	05/94	35.4%	29.3%	29.8%	83.9%	98.2%
	05/10	34.0%	28.7%	29.1%	85.5%	98.3%

品目名: わさび

耕種的防除と組み合わせた防除体系の確立による安全・安心生産の振興

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		195	1,275	1,632	541
努力目標基準年(H10)					
最終年(H17)		108	1,731	1,869	403
目標年(H22)	ビジョン	195	1,580	1,548	600
	努力目標				
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	55.4	109.6	120.7	67.2
	努力目標				

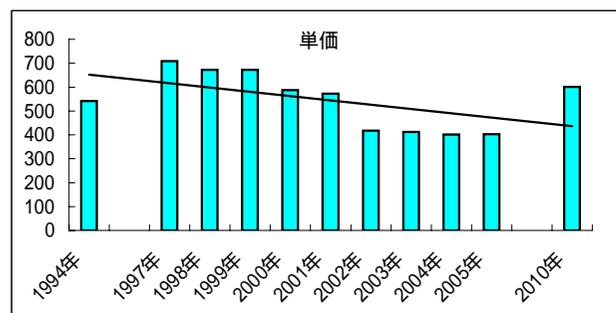
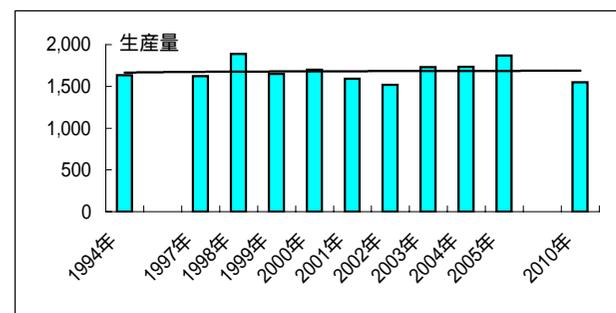
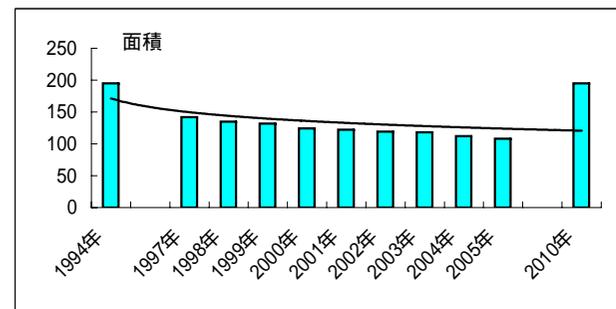
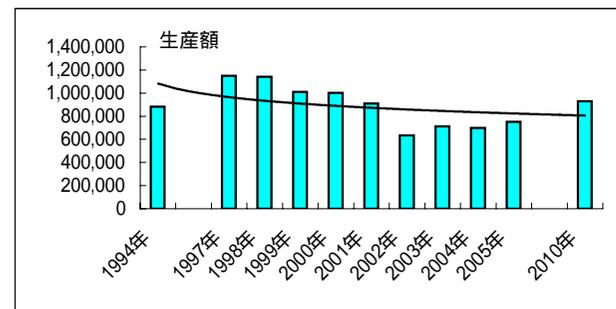
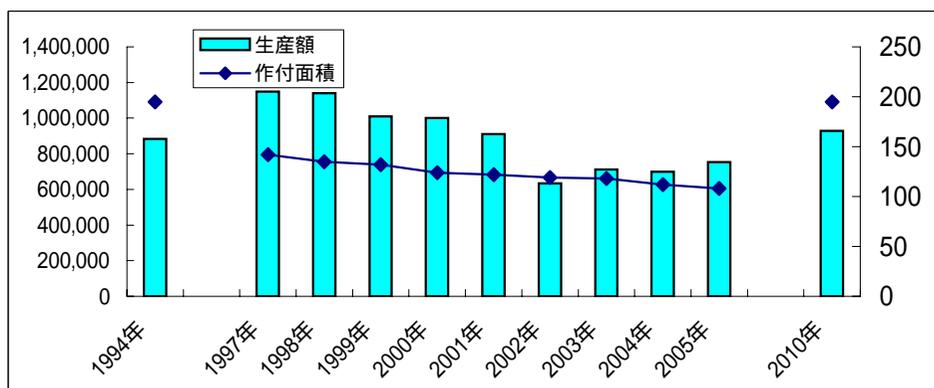
目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積			【達成度の評価】 水わさびの作付面積はほぼ横ばいで、陸わさびは減少傾向にある。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 横ばい傾向が続くものと見込まれる。
	努力目標		
単 収			【達成度の評価】 ハウス栽培の単収は向上したものの、露地栽培の単収が伸びず目標に届かなかった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 ハウス栽培面積の増加により単収増を図る。
	努力目標		
生産量			【達成度の評価】 生産量の95%を占める水わさびの施設化による単収増により目標を上回った。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 横ばい傾向が続くものと見込まれる。
	努力目標		
単価			【達成度の評価】 消費者の低価格志向などから目標を大幅に下回った。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 消費者の低価格志向などから、横ばい傾向が続くものと見込まれる。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)	
わさび	6年(基準)	1994年	195	883,015	1,632	1,275	541	
	9年	1997年	142	1,149,514	1,622	1,410	709	
	10年	1998年	135	1,140,607	1,887	1,714	672	
	11年	1999年	132	1,009,532	1,649	1,266	672	
	12年	2000年	124	1,001,439	1,698	1,658	587	
	13年	2001年	122	911,060	1,593	1,306	572	
	14年	2002年	119	634,258	1,517	1,275	418	
	15年	2003年	118	712,562	1,729	1,465	412	
	16年	2004年	112	699,003	1,735	1,549	402	
	17年	2005年	108	752,428	1,869	1,731	403	
	22年(目標)	2010年	195	928,800	1,548	1,580	600	
	単価 直近5中3							411

年率	01 05	-3.00%	-4.67%	4.08%	7.30%	-8.38%
	94 05	-5.23%	-1.44%	1.24%	2.82%	-2.64%
	05 10	12.54%	4.30%	-3.70%	-1.81%	8.29%
対比	05/01	88.5%	82.6%	117.3%	132.5%	70.5%
	05/94	55.4%	85.2%	114.5%	135.8%	74.5%
	05/10	55.4%	81.0%	120.7%	109.6%	67.2%



品目名：薬用人参

全国有数の産地として、形状・質量を向上する生産の振興

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		121	369	107	2,600
努力目標基準年(H10)					
最終年(H17)		15	407	17	2,980
目標年(H22)	ビジョン	110	450	126	2,500
	努力目標				
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	13.6	90.4	13.5	119.2
	努力目標				

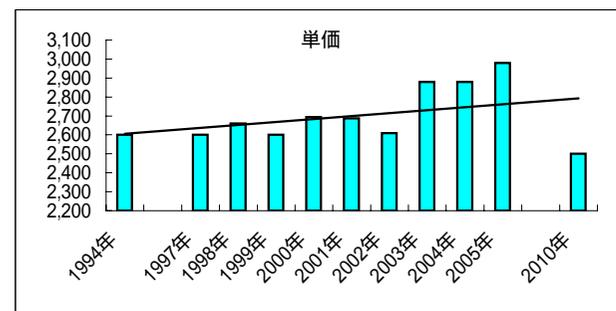
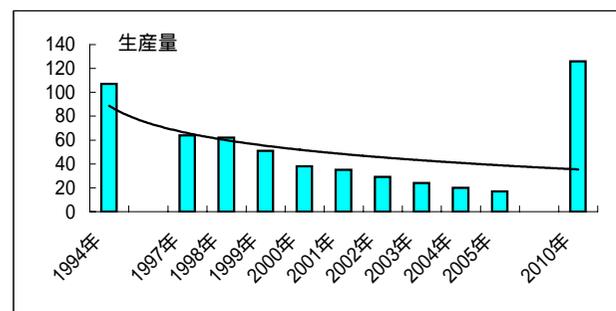
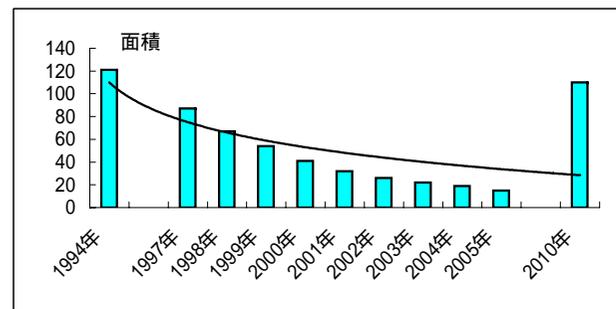
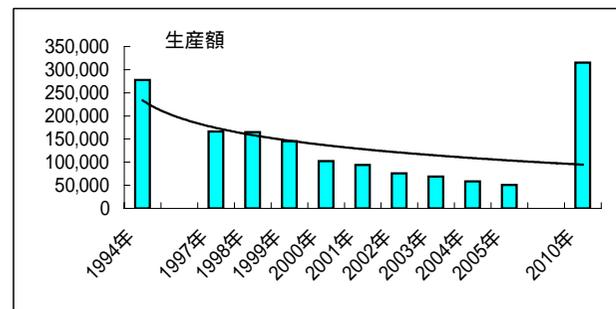
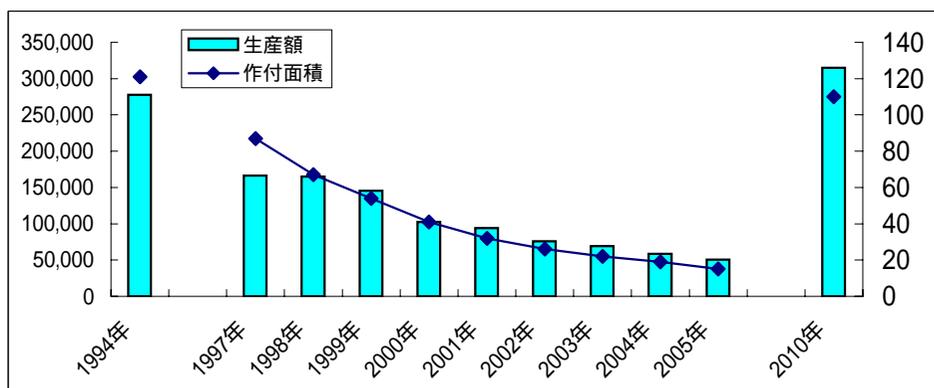
目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積			[達成度の評価] 育成期間が6年と長く、連作が難しいことや作付け地の確保が難しいことなどにより減少した。
達成度	ビジョン	C	[今後の動向] 育成期間が長期であり、新たな担い手確保が難しいため、現状維持から徐々に減少する見込み
	努力目標		
単 収			[達成度の評価] 気象変動による影響が少なかったことや生産者個々の栽培管理の徹底により反収が上がった。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 施設化や機械化が進まないため現状維持の見込み。
	努力目標		
生産量			[達成度の評価] 2年生での間引き根への需要が高まったことから、6年生での出荷が減少した。
達成度	ビジョン	C	[今後の動向] 栽培面積の減少により生産量も減少する見込み。
	努力目標		
単価			[達成度の評価] 契約出荷であり、輸出物については為替の影響により単価が上昇した。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 海外での需要もあり、契約単価は現状維持される見込み
	努力目標		

達成度は、A：80%以上、B：50%以上～80%未満、C：50%未満

作物名	平成	西曆	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)	
薬用人参	6年(基準)	1994年	121	277,680	107	369	2,600	
	9年	1997年	87	166,400	64	356	2,600	
	10年	1998年	67	164,920	62	413	2,660	
	11年	1999年	54	145,600	51	392	2,600	
	12年	2000年	41	102,410	38	422	2,695	
	13年	2001年	32	94,095	35	410	2,688	
	14年	2002年	26	75,690	29	403	2,610	
	15年	2003年	22	69,120	24	407	2,880	
	16年	2004年	19	58,752	20	407	2,880	
	17年	2005年	15	50,660	17	407	2,980	
	22年(目標)	2010年	110	315,000	126	450	2,500	
	単価 直近5中3							2,816

年率	01 05	-17.26%	-14.34%	-16.52%	-0.18%	2.61%
	94 05	-17.29%	-14.33%	-15.40%	0.90%	1.25%
対比	05 10	48.96%	44.12%	49.27%	2.03%	-3.45%
	05/01	46.9%	53.8%	48.6%	99.3%	110.9%
	05/94	12.4%	18.2%	15.9%	110.3%	114.6%
	05/10	13.6%	16.1%	13.5%	90.4%	119.2%



品目名: こんにゃく

中山間地域の土壌条件などを活かした地域特産物として、品質の向上や低コスト省力化を推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		57	987	306	160
努力目標基準年(H10)					
最終年(H17)		41	1,495	314	154
目標年(H22)	ビジョン	50	2,000	560	250
	努力目標				
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	82.0	74.8	56.1	61.6
	努力目標				

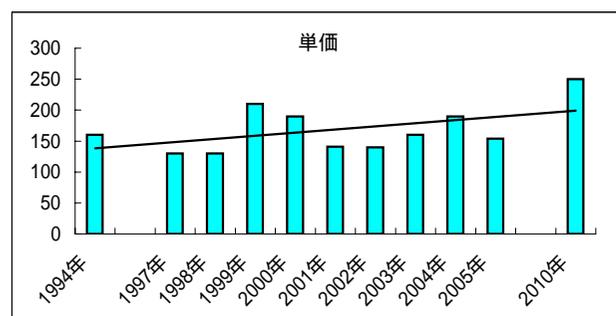
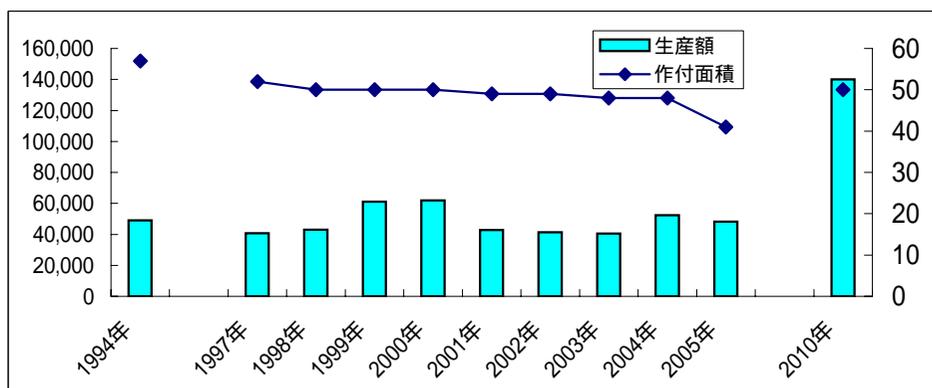
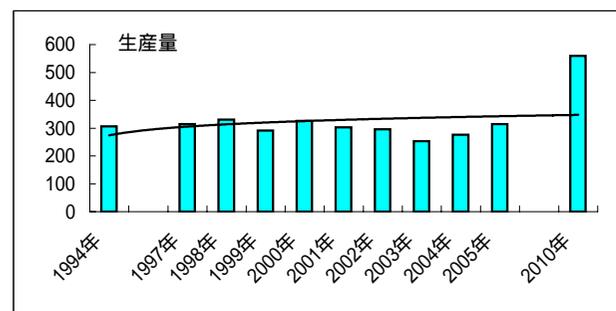
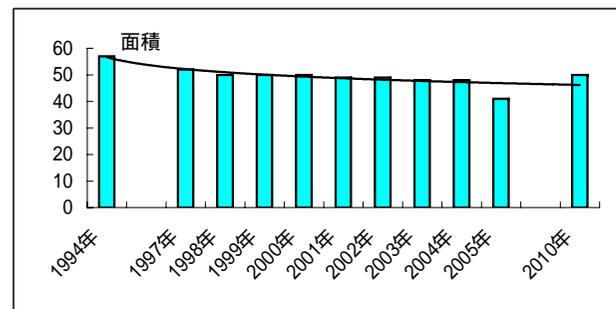
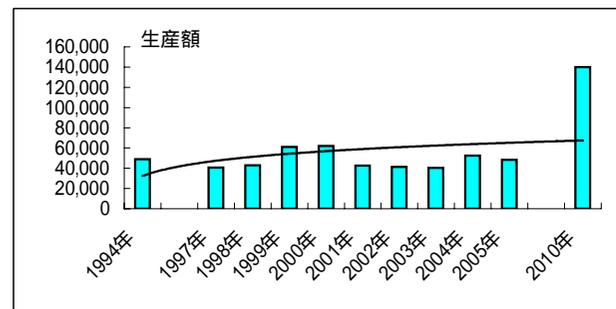
目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積			[達成度の評価] 耕作者の高齢化に伴う減少により、作付面積も減少した。
達成度	ビジョン	A	[今後の動向] 担い手の高齢化、後継者不足等により、作付面積の減少が見込まれる。
	努力目標		
単 収			[達成度の評価] 気象災害に弱いいため単収の変動も大きくなる傾向にあるが、良質な肥培管理などにより増収した。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 良質な肥培管理により、単収の増加を図る。
	努力目標		
生産量			[達成度の評価] 単収は増えたものの作付面積の減少により、生産量は横ばい傾向。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 作付面積の減少により、生産量の減少が見込める。
	努力目標		
単価			[達成度の評価] 気象災害に弱く収穫まで複数年を要することから、生産量の増減や価格の変動が大きい。
達成度	ビジョン	B	[今後の動向] 生産量の確保と品質安定による単価の安定を図る。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)	
こんにゃく	6年(基準)	1994年	57	48,960	306	987	160	
	9年	1997年	52	40,820	314	1,163	130	
	10年	1998年	50	43,030	331	1,226	130	
	11年	1999年	50	61,110	291	1,078	210	
	12年	2000年	50	61,940	326	1,207	190	
	13年	2001年	49	42,723	303	1,212	141	
	14年	2002年	49	41,440	296	1,184	140	
	15年	2003年	48	40,496	253	1,077	160	
	16年	2004年	48	52,440	276	1,117	190	
	17年	2005年	41	48,308	314	1,495	154	
	22年(目標)	2010年	50	140,000	560	2,000	250	
	単価 直近5中3							152

年率	01 05	-4.36%	3.12%	0.90%	5.39%	2.23%
	94 05	-2.95%	-0.12%	0.23%	3.85%	-0.35%
	05 10	4.05%	23.71%	12.27%	5.99%	10.18%
対比	05/01	83.7%	113.1%	103.6%	123.3%	109.2%
	05/94	71.9%	98.7%	102.6%	151.5%	96.3%
	05/10	82.0%	34.5%	56.1%	74.8%	61.6%



品目名：その他特用作物

センブリ、甘茶、ハーブ、山菜などについて、契約栽培を基本とした需要に基づいた安定生産を推進する。

区 分		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		464	121	452	1,284
努力目標基準年(H10)					
最終年(H17)		159	128	204	1,282
目標年(H22)	ビジョン	460	140	515	1,200
	努力目標				
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	34.6	91.4	39.6	106.8
	努力目標				

目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

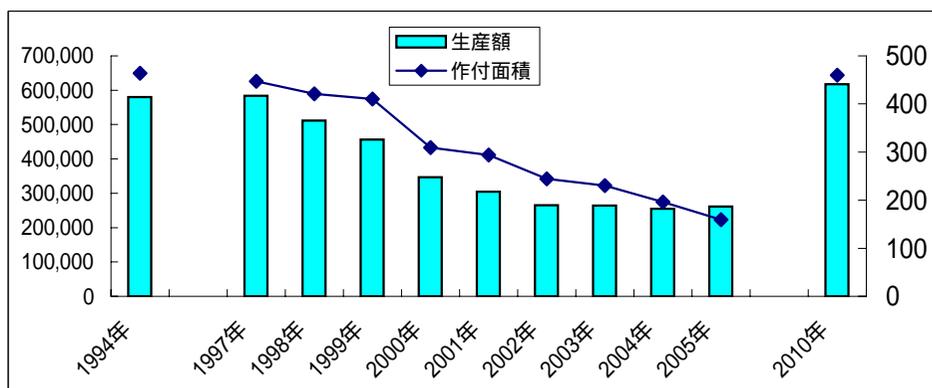
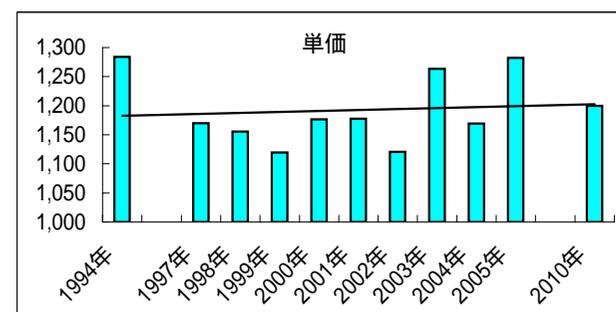
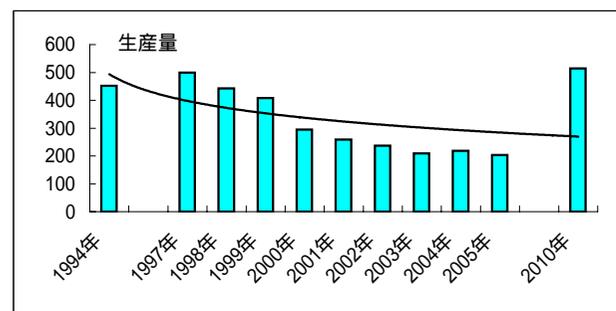
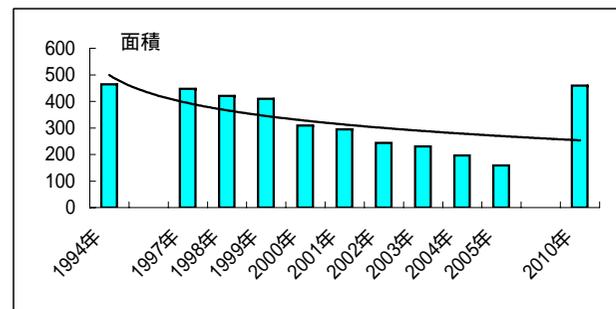
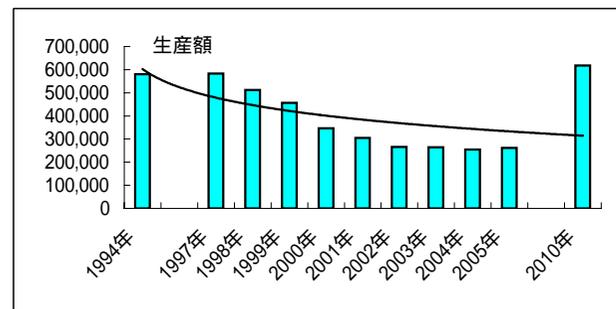
作付面積			【達成度の評価】 生産者の高齢化などにより作付面積は減少傾向である。
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】 センブリ、甘茶、ハーブなど契約栽培を推進して作付面積の確保を図る。
	努力目標		
単 収			【達成度の評価】 ほぼ横ばい傾向である。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 生産性の向上などにより、単収を確保する。
	努力目標		
生産量			【達成度の評価】 山菜類の生産量が大幅に減少した。
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】 需要動向に沿った生産を推進していく。
	努力目標		
単価			【達成度の評価】 ほぼ目標を達成した。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 需要動向に沿った生産を通して単価の維持を図る。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	単価 (円/kg)
その他特用作物	6年(基準)	1994年	464	580,477	452	121	1,284
	9年	1997年	447	583,779	499	112	1,170
	10年	1998年	421	511,938	443	105	1,156
	11年	1999年	410	456,701	408	100	1,119
	12年	2000年	309	347,075	295	95	1,177
	13年	2001年	294	304,996	259	88	1,178
	14年	2002年	244	265,638	237	97	1,121
	15年	2003年	230	264,019	209	91	1,263
	16年	2004年	196	254,962	218	111	1,170
	17年	2005年	159	261,619	204	128	1,282
	22年(目標)	2010年	460	618,000	515	140	1,200

単価 直近5中3 1,204

年率	01 05	-14.24%	-3.76%	-5.79%	9.86%	2.16%
	94 05	-9.28%	-6.99%	-6.98%	0.53%	-0.01%
	05 10	23.67%	18.76%	20.35%	1.76%	-1.32%
対比	05/01	54.1%	85.8%	78.8%	145.6%	108.9%
	05/94	34.3%	45.1%	45.1%	106.0%	99.9%
	05/10	34.6%	42.3%	39.6%	91.6%	106.9%



品目名: 養蚕

養蚕・製糸が残した伝統文化を継承するとともに、消費ニーズの把握により蚕糸関係者が連携し製品化することで、繭の高付加価値化を推進する。

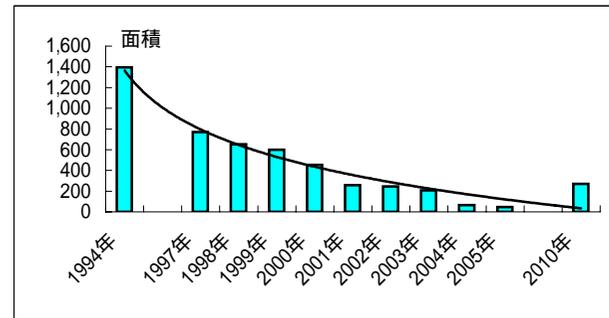
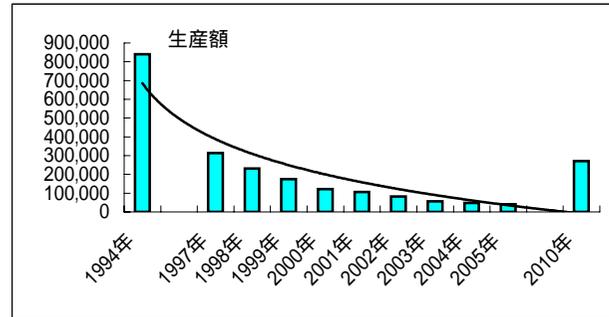
区 分	作付面積 (ha)	生産額 (百万円)
ビジョン基準年(H6)	1,394	840
努力目標基準年(H10)		
最終年(H17)	46	42
目標年(H22)	ビジョン	270
	努力目標	
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	17.0
	努力目標	

目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

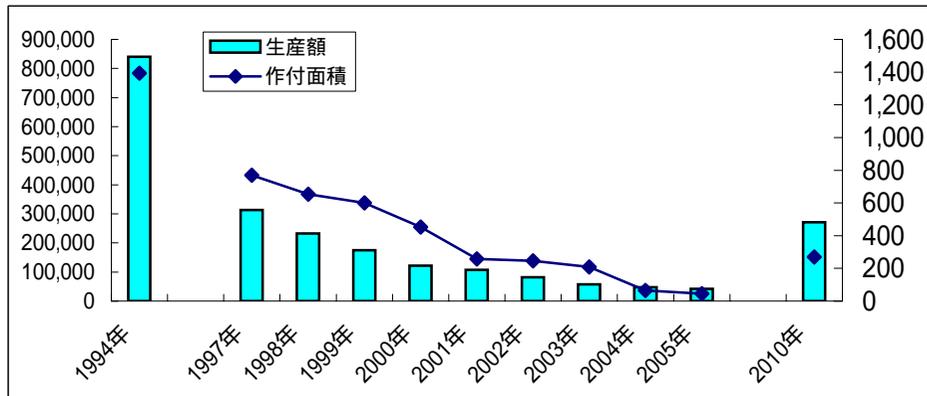
作付面積			[達成度の評価] 中国等の安い外国産生糸・絹製品の輸入増加、化学繊維への転換により養蚕農家は大幅に減少し、栽培面積が大幅に減少した。
達成度	ビジョン	C	[今後の動向] 今後も養蚕農家の大幅な減少傾向は続くものの、高付加価値かへの取組などにより面積維持に努める。
	努力目標		
生産額			[達成度の評価] 養蚕農家の大幅な減少に伴い繭生産量も大幅に減少したことにより、生産額も大幅に減少した。
達成度	ビジョン	C	[今後の動向] 繭生産量の減少に歯止めをかけるため、県産繭のブランド化により繭単価のアップを図り、生産量の維持に努める。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	作付面積 (ha)	生産額 (千円)
養蚕	6年(基準)	1994年	1,394	840,108
	9年	1997年	770	313,000
	10年	1998年	653	232,000
	11年	1999年	600	175,000
	12年	2000年	453	122,000
	13年	2001年	258	106,972
	14年	2002年	246	82,023
	15年	2003年	209	57,409
	16年	2004年	64	47,237
	17年	2005年	46	41,830
22年(目標)	2010年	270	271,490	



年率	01 05	-35.02%	-20.92%
	94 05	-26.66%	-23.87%
	05 10	42.47%	45.36%
対比	05/01	17.8%	39.1%
	05/94	3.3%	5.0%
	05/10	17.0%	15.4%



## 品目名: 生乳

## 畜産の振興

先進的な技術の導入、飼養管理・経営管理技術の向上及び自給飼料の増産等により生産コストの低減を図るとともに、高品質で安全な畜産物の生産拡大と安定供給を推進する。

区 分		飼養頭数 (頭)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		40,700	186,152	99
努力目標基準年(H10)		33,100	168,049	
最終年(H17)		25,000	135,124	95
目標年(H22)	ビジョン	35,400	197,600	99
	努力目標	30,410	190,888	
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	70.6	68.4	96.0
	努力目標	82.2	70.8	

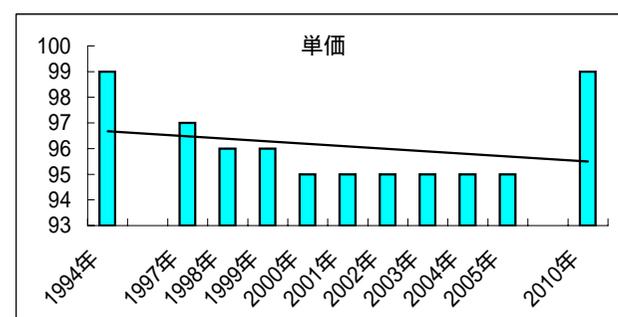
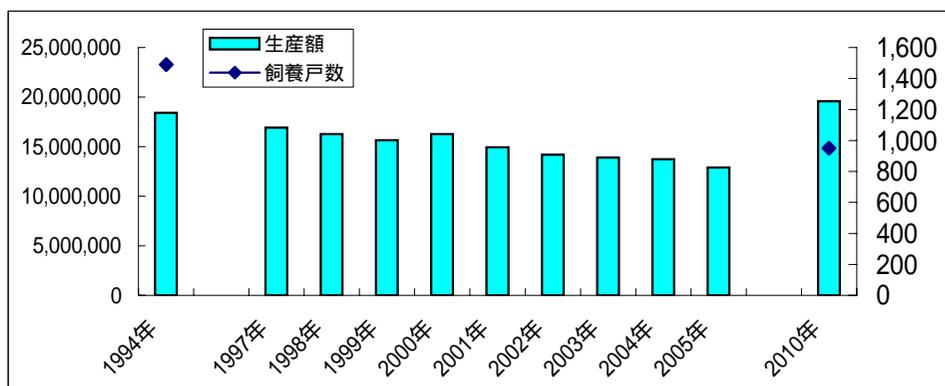
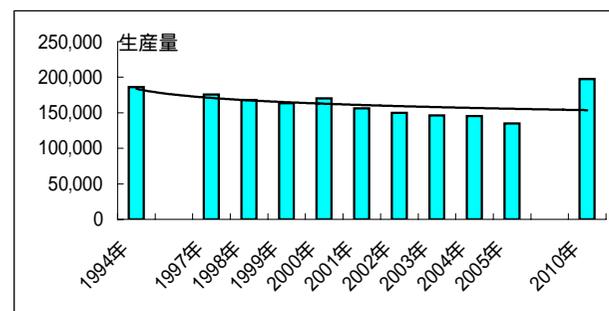
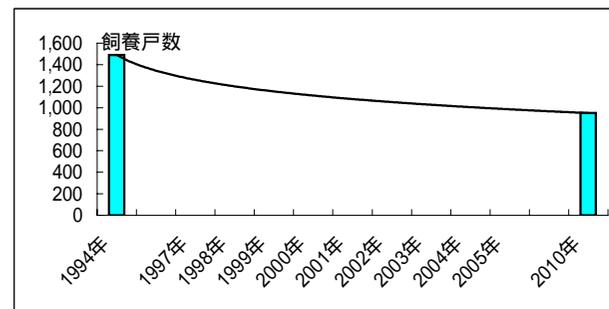
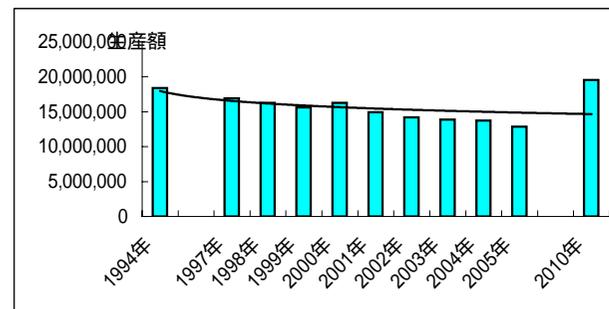
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

飼養頭数			【達成度の評価】 平成17年度の飼養頭数は生産農家の減少等により、基準年(ビジョン)の61.4%で15,700頭減少した。主な要因として高齢化及び後継者不足に起因する小規模層の経営離脱が挙げられる。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 今後とも生乳需給状況の緩和から経営拡大、新規参入が見込めず、減少に歯止めがかからないと推察される。従って、平成22年には過去の減少率から推計し、飼養頭数20,400頭になるものと予想される。
	努力目標	A	
生産量			【達成度の評価】 平成17年度の生産量は基準年(ビジョン)の72.6%で51,028t減少した。飼養頭数の減少に比べ生産量の減少率が低いのは、乳用牛の能力の向上による1頭当たりの搾乳量の増加のためである。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 平成22年には、経産牛を過去5年間(13~17年)の対前年比の変動率の平均から推計し、その頭数に1頭当たりの搾乳量を乗じた122,250tになるものと予想される。
	努力目標	B	
単価			【達成度の評価】 平成17年の単価は95円/kg。基準年(ビジョン)の96.4%で4円/kg下回った。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 平成22年には、過去5年間(13~17年)の中3年の平均単価を基に推定し、95円/kgとした。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上~80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	飼養戸数 (戸)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
生乳	6年(基準)	1994年	1,490	18,423,000	186,152	99
	9年	1997年		16,928,723	175,612	97
	10年	1998年		16,263,980	168,049	96
	11年	1999年		15,650,000	163,436	96
	12年	2000年		16,267,000	170,516	95
	13年	2001年		14,944,703	156,162	95
	14年	2002年		14,195,057	149,895	95
	15年	2003年		13,905,248	146,457	95
	16年	2004年		13,732,356	145,306	95
	17年	2005年		12,887,000	135,124	95
22年(目標)	2010年		950	19,562,000	197,600	99
単価 直近5中3						95

年率	01 05		-3.64%	-3.55%	0.00%
	94 05		-3.20%	-2.87%	-0.37%
	05 10		8.71%	7.90%	0.83%
対比	05/01		86.2%	86.5%	100.0%
	05/94		70.0%	72.6%	96.0%
	05/10		65.9%	68.4%	96.0%



## 品目名：牛肉

## 畜産の振興

先進的な技術の導入、飼養管理・経営管理技術の向上及び自給飼料の増産等により生産コストの低減を図るとともに、高品質で安全な畜産物の生産拡大と安定供給を推進する。

区 分	飼養頭数 (頭)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)	49,700	12,851	1,137
努力目標基準年(H10)	43,200	10,450	
最終年(H17)	31,200	7,668	1,593
目標年(H22)	ビジョン	67,200	16,360
	努力目標	49,610	10,060
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	46.4	46.9
	努力目標	62.9	76.2

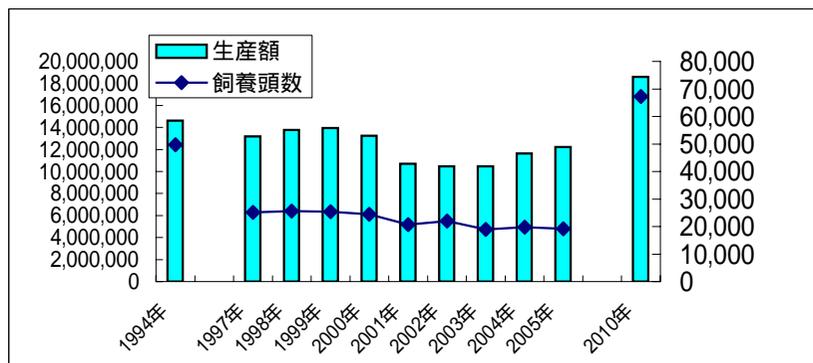
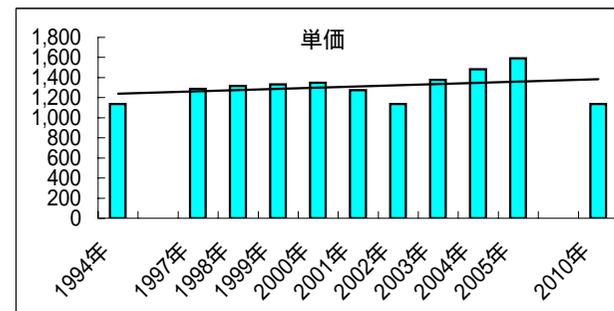
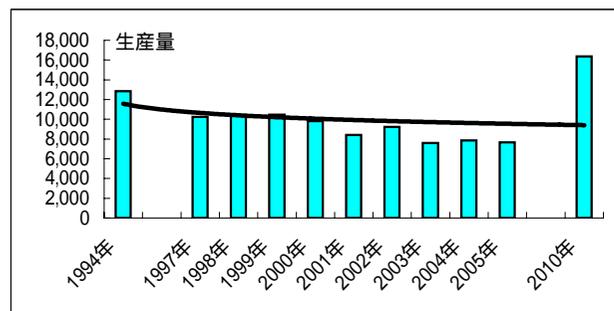
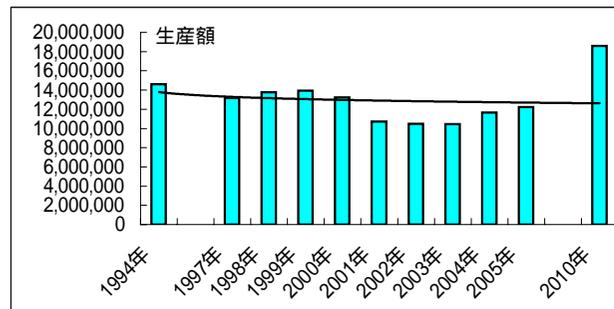
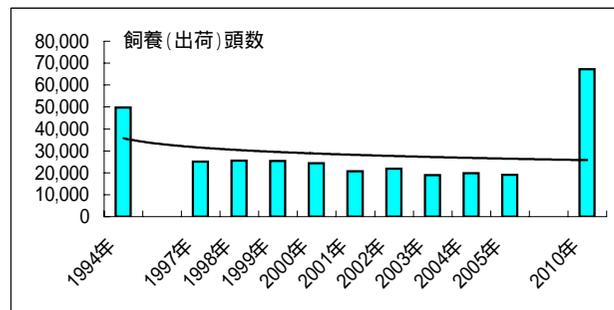
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

飼養頭数			【達成度の評価】 平成17年度の飼養頭数は生産農家の減少等により、基準年(ビジョン)の62.8%で18,500頭減少した。主な要因として高齢化が進展したことや、後継者不足が挙げられる。
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】 今後とも減少に歯止めがかからないと推察される。従って、平成22年には過去の減少率から推計し、飼養頭数25,000頭になるものと予想される。
	努力目標	B	
生産量			【達成度の評価】 平成17年度の実産量は基準年(ビジョン)の74.9%で2,572t減少した。飼養頭数の減少に比べ生産量の減少率が低いのは、種畜の改良、飼養管理の改善による枝肉重量の増加による。
達成度	ビジョン	C	【今後の動向】 平成22年には、過去の減少率から推計し、生産量6,900tになるものと予想される。
	努力目標	B	
単価			【達成度の評価】 平成17年の単価は1,593円/kg。基準年(ビジョン)の140%で456円/kg上回った。これはホルスタイン種から交雑種や黒毛和種への転換が進んだことや、BSE発生以降、枝肉相場が堅調に推移したことによるものと考えられる。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 平成22年には、過去5年間(13～17年)の中3年の平均単価を基に推定し、1,378円/kgとした。
	努力目標		

達成度は、A：80%以上、B：50%以上～80%未満、C：50%未満

作物名	平成	西暦	飼養頭数 (頭)	戸数 (戸)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
牛肉	6年(基準)	1994年	49,700	2,160	14,608,000	12,851	1,137
	9年	1997年	25,150		13,176,070	10,240	1,287
	10年	1998年	25,575		13,765,834	10,450	1,317
	11年	1999年	25,342		13,949,000	10,477	1,331
	12年	2000年	24,408		13,243,000	9,817	1,349
	13年	2001年	20,721		10,714,966	8,407	1,275
	14年	2002年	21,933		10,473,579	9,213	1,137
	15年	2003年	18,942		10,454,000	7,595	1,376
	16年	2004年	19,781		11,643,000	7,853	1,483
	17年	2005年	19,153		12,217,000	7,668	1,593
22年(目標)	2010年	67,200	1,300	18,590,000	16,360	1,136	
			は、出荷頭数	単価	直近5中3	1,378	

年率	01 05	-1.95%		3.33%	-2.27%	5.72%
	94 05	-8.30%		-1.61%	-4.59%	3.11%
	05 10	28.54%		8.76%	16.36%	-6.54%
対比	05/01	92.4%		114.0%	91.2%	124.9%
	05/94	38.5%		83.6%	59.7%	140.1%
	05/10	28.5%		65.7%	46.9%	140.2%



## 品目名：豚肉

## 畜産の振興

先進的な技術の導入、飼養管理・経営管理技術の向上及び自給飼料の増産等により生産コストの低減を図るとともに、高品質で安全な畜産物の生産拡大と安定供給を推進する。

区 分		飼養頭数 (頭)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		140,900	18,288	305
努力目標基準年(H10)		112,200	15,529	
最終年(H17)		98,900	13,820	444
目標年(H22)	ビジョン	144,200	20,549	305
	努力目標	112,910	16,376	
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	68.6	67.3	145.6
	努力目標	87.6	84.4	

## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

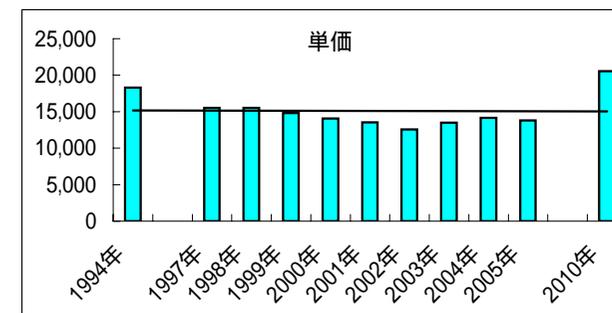
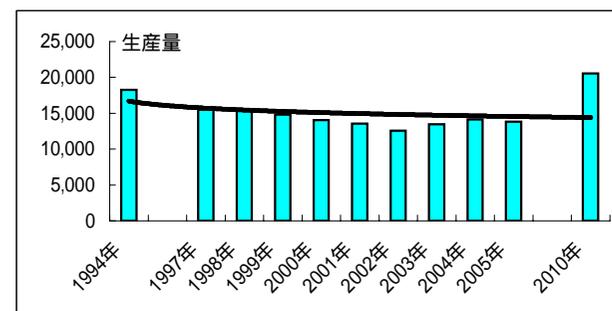
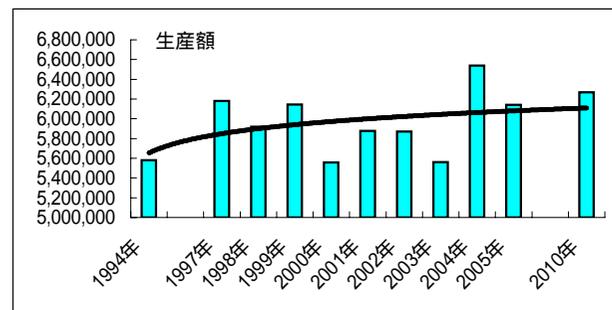
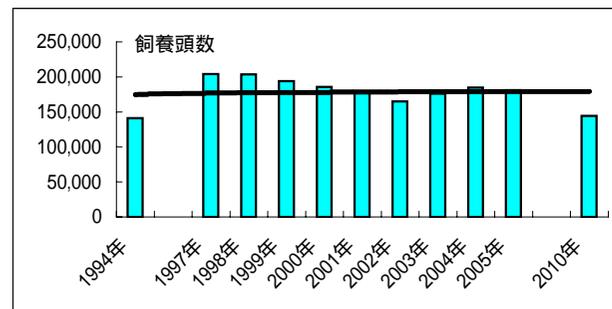
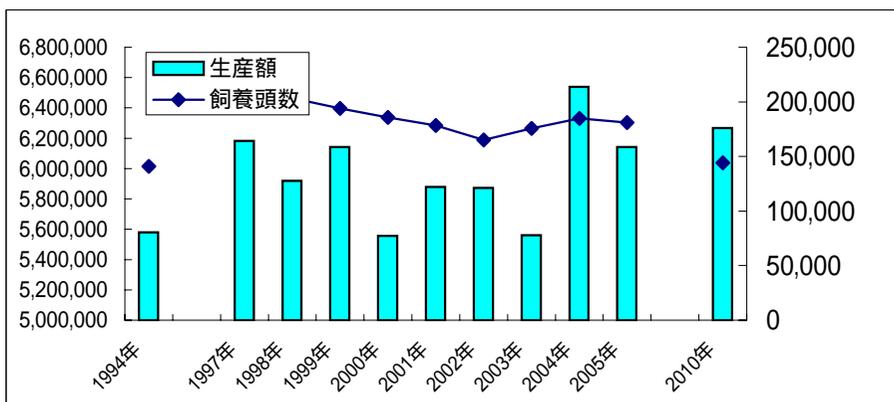
飼養頭数			<p>【達成度の評価】 平成17年度の飼養頭数は生産農家の減少等により、基準年(ビジョン)の70.1%で42,000頭減少した。主な要因として、高齢化及び後継者不足に起因する小規模農家を中心とした経営離脱による生産の減少と推察される。</p>
達成度	ビジョン	B	<p>【今後の動向】 過去の減少率等から推計し、平成22年には飼養頭数84,300頭になるものと予想される。</p>
	努力目標	A	
生産量			<p>【達成度の評価】 平成17年度の実績は基準年(ビジョン)の75.6%で4,468t減少した。</p>
達成度	ビジョン	B	<p>【今後の動向】 今後は、1戸当たりの飼養は増加するものの、農家戸数の減少に伴い生産量はやや減少するものと推察される。従って、平成22年には生産量13,600tになるものと予想される。</p>
	努力目標	A	
単価			<p>【達成度の評価】 平成17年の単価は444円/kg。基準年(ビジョン)の146%で139円/kg上回った。</p>
達成度	ビジョン	A	<p>【今後の動向】 今後の単価については、豚肉の消費量、輸入量、牛肉の価格動向等の要因により予測は難しいが、過去5年間(13～17年)の中3年の平均単価を基に推定し、平成22年には446円/kgとした。</p>
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	飼養頭数 (頭)	戸数 (戸)	生産額 (千円)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
豚肉	6年(基準)	1994年	140,900	420	5,580,000	18,288	305
	9年	1997年	204,198		6,181,839	15,519	398
	10年	1998年	203,536		5,918,725	15,529	381
	11年	1999年	194,001		6,143,000	14,822	413
	12年	2000年	185,819		5,556,000	14,048	396
	13年	2001年	178,241		5,878,564	13,536	434
	14年	2002年	165,115		5,871,467	12,561	467
	15年	2003年	175,850		5,561,000	13,485	412
	16年	2004年	184,966		6,538,000	14,151	462
	17年	2005年	180,922		6,141,000	13,820	444
22年(目標)	2010年	144,200	217	6,267,000	20,549	305	

は、出荷頭数 単価 直近5中3 447

年率	01 05	0.37%		1.10%	0.52%	0.57%
	94 05	2.30%		0.87%	-2.51%	3.47%
	05 10	-4.44%		0.41%	8.26%	-7.24%
対比	05/01	101.5%		104.5%	102.1%	102.3%
	05/94	128.4%		110.1%	75.6%	145.6%
	05/10	125.5%		98.0%	67.3%	145.6%



## 品目名：鶏卵

## 畜産の振興

先進的な技術の導入、飼養管理・経営管理技術の向上及び自給飼料の増産等により生産コストの低減を図るとともに、高品質で安全な畜産物の生産拡大と安定供給を推進する。

区 分		飼養羽数 (千羽)	生産量 (t)	単価 (円/kg)
ビジョン基準年(H6)		1,451	15,377	175
努力目標基準年(H10)		1,144	15,590	
最終年(H17)		1,067	13,409	241
目標年(H22)	ビジョン	1,387	17,906	175
	努力目標	1,064	15,698	
達成度(H17/H22) (%)	ビジョン	76.9	74.9	137.7
	努力目標	100.3	85.4	

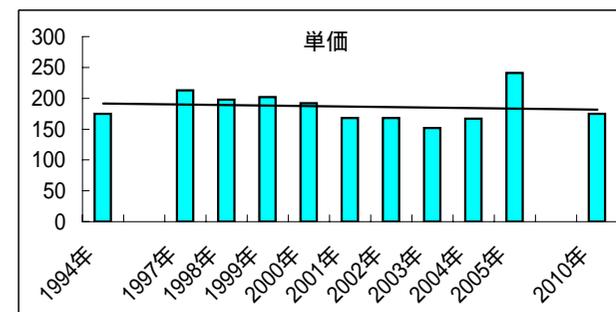
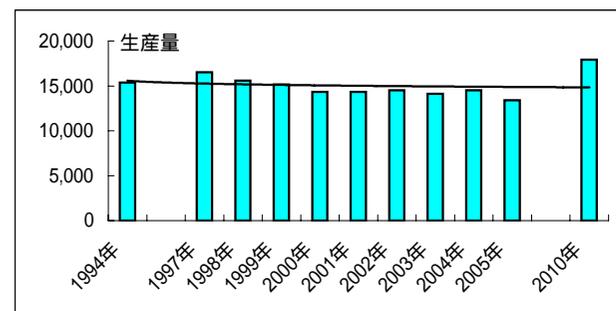
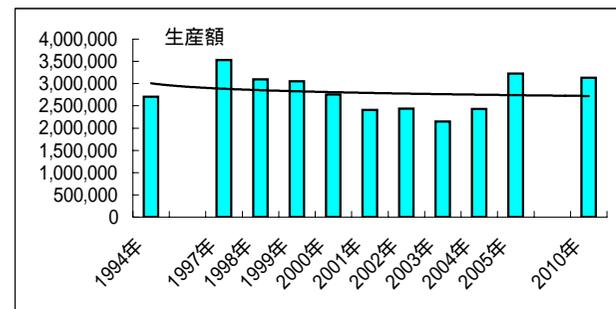
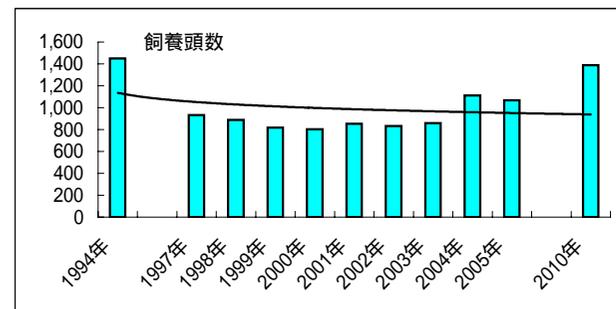
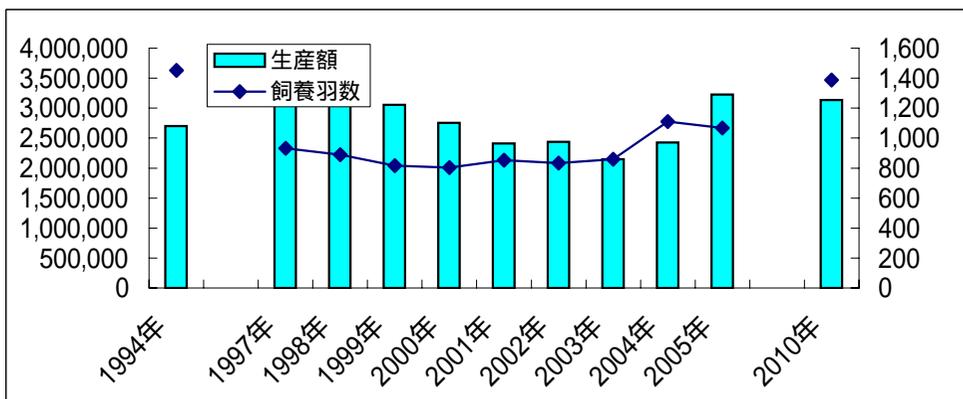
## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

飼養頭数			【達成度の評価】 平成17年度の飼養羽数は、15年～16年前半の卵価低迷による小規模農家の淘汰や大規模農家の生産控えにより、基準年(ビジョン)の73.5%で384千羽減少した。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 今後は、企業的な生産者が中心となり飼養羽数が微増すると推察される。従って、平成22年には飼養羽数1,141千羽になるものと予想される。
	努力目標	A	
生産量			【達成度の評価】 平成17年度の実産量は基準年(ビジョン)の82.5%で2,842tの減少であった。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 平成22年には、成鶏飼養羽数を過去5年間(13～17年)の平均から推計し、その羽数に1羽当たりの採卵量を乗じた14,570tになるものと予想される。
	努力目標	A	
単価			【達成度の評価】 平成17年の単価は、15年～16年前半の価格低迷から一転し241/kgの高価格となった。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 今後は生産調整により、価格は平年並みで推移していくため過去5年間(13～17年)の中3年の平均単価を基に推定し、平成22年には168円/kgとした。
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西暦	飼養羽数 (羽)	戸数 ( )	生産額 (千円)	生産量 (t)	単価 (円/kg)	
鶏卵	6年(基準)	1994年	1,451	90	2,703,000	15,377	175	
	9年	1997年	933		3,529,855	16,537	213	
	10年	1998年	889		3,097,618	15,590	198	
	11年	1999年	817		3,053,000	15,144	202	
	12年	2000年	803		2,753,000	14,336	192	
	13年	2001年	853		2,410,952	14,322	168	
	14年	2002年	833		2,435,070	14,527	168	
	15年	2003年	859		2,146,000	14,114	152	
	16年	2004年	1,111		2,429,000	14,503	167	
	17年	2005年	1,067		3,229,000	13,409	241	
22年(目標)	2010年	1,387	54	3,134,000	17,906	175		
							は、出荷羽数 単価 直近5中3	168

年率	01 05	5.76%		7.58%	-1.63%	9.44%
	96 05	-2.76%		1.63%	-1.24%	2.95%
	05 10	5.39%		-0.60%	5.95%	-6.20%
対比	05/01	125.1%		133.9%	93.6%	143.5%
	05/96	73.5%		119.5%	87.2%	137.7%
	05/10	76.9%		103.0%	74.9%	137.7%



## 品目名：飼料作物

## 畜産の振興

先進的な技術の導入、飼養管理・経営管理技術の向上及び自給飼料の増産等により生産コストの低減を図るとともに、高品質で安全な畜産物の生産拡大と安定供給を推進する。

区 分	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (千 t)
ビジョン基準年(H6)	11,600	4,545	527
努力目標基準年(H10)	10,304	4,990	514
最終年(H17)	8,820	4,888	431
目標年(H22)	ビジョン	12,300	5,344
	努力目標	11,700	5,250
達成度(H17 / H22) (%)	ビジョン	71.7	91.5
	努力目標	75.4	93.1

## 目標数値に対する達成度のコメントと今後の動向

作付面積			【達成度の評価】 平成17年の作付面積は、基準年(H6)に対して2,780ha減(76.0%)、年率2.4%減少した。主な要因としては、小規模農家を中心とした経営離脱が挙げられる。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 今後も小規模農家を中心とした経営離脱の傾向は続くため、年率2%程度の減少が見込まれ、平成22年には7,981haになるものと想定される。
	努力目標	B	
単収			【達成度の評価】 平成17年の単収は基準年(H6)に対して343t増(107.5%)であった。主な要因としては、収量の低い牧草の作付面積が減少したことによる。
達成度	ビジョン	A	【今後の動向】 平成22年には、過去5年間(13～17年)の中3年の平均単収を採用し、4,998kg/10aと設定した。
	努力目標	A	
生産量			【達成度の評価】 平成17年の生産量は基準年(H6)に対して96t減(81.8%)、年率1.8%の減少であった。主な要因としては、作付面積同様、小規模農家を中心とした経営離脱が挙げられる。
達成度	ビジョン	B	【今後の動向】 今後も減少が見込まれ、平成22年には400千tになるものと想定される。
	努力目標	B	
単価			【達成度の評価】
達成度	ビジョン		【今後の動向】
	努力目標		

達成度は、A:80%以上、B:50%以上～80%未満、C:50%未満

作物名	平成	西曆	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)
飼料作物	6年(基準)	1994年	11,600	4,545	527,220
	9年	1997年	10,728	5,195	557,290
	10年	1998年	10,304	4,990	514,200
	11年	1999年	10,098	5,122	517,200
	12年	2000年	9,731	5,215	507,440
	13年	2001年	9,543	4,711	455,330
	14年	2002年	9,402	5,052	475,010
	15年	2003年	9,213	5,055	465,729
	16年	2004年	9,070	5,121	464,510
	17年	2005年	8,820	4,888	431,100
22年(目標)	2010年	12,300	5,344	657,300	

年率	01 05	-1.95%	0.93%	-1.36%
	94 05	-2.46%	0.66%	-1.81%
	05 10	6.88%	1.80%	8.80%
対比	05/01	92.4%	103.8%	94.7%
	05/94	76.0%	107.5%	81.8%
	05/10	71.7%	91.5%	65.6%

